2022年度

履修のてびき

京都光華女子大学大学院

履修のてびきは、学生が卒業するために必要な教学的事項を記載したものです。毎年変更があり、改訂されますが、1 年間、大切に保管してください。

光華naviにはたくさんの情報が集まっています

★ https://navi.koka.ac.jp/ ★

大学のホームページ「在学生の方へ」からもリンクしています

- 学生呼出　・休講・補講・教室変更情報
- 各部門からのお知らせ　•時間割紹介　•スケジュール管理
- シラバス紹介　•履修登録　•出欠状況確認　•成績照会　•面談予約
- クラスプロファイル　•就職支援情報　•アンケート回答　•e-ポートフォリオetc.
- 学内システムへのアクセス

（e-ラーニング, 教職履修カルテ, MediaDEPO, マイライブラリ, メール）etc.

2022 年 度

履 修 の て び き

学　年　暦

（2022年4月～2023年3月）

4

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	㉙	30

5

日	月	火	水	木	金	土
1	2	③	④	⑤	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

8

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	❹	❺	6
7	❽	❾	10	11	12	13
14	15	16	⓱	⓲	⓳	⓴
21	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
28	㉙	㉚	㉛			

9

日	月	火	水	木	金	土
				❶	❷	❸
4	❺	❻	❼	❽	❾	❿
11	⓬	⓭	⓮	15	⓰	⓱
18	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
25	26	27	28	29	30	

4月	1日(金)	入学式・前期履修登録開始
	2日(土)～6日(水)	オリエンテーション
	7日(木)	前期授業開講
	13日(水)	前期履修登録締切
	15日(金)	前期履修登録取消開始
	16日(土)	前期履修登録取消締切
	15日(金)～16日(土)	新入生研修
	18日(月)	学園花まつり（2講時） 本山参拝（午後）
	30日(土)	金曜授業日
5月	27日(金)	宗教講座（5講時）
6月	24日(金)	宗教講座（5講時）
7月	5日(火)	前期末定期試験時間割発表
	16日(土)	月曜授業日
	27日(水)	前期授業終了
	28日(木)～	前期末定期試験
8月	3日(水)	
	4日(木)～9日(火)	集中講義期間
	8日(月)～9日(火)	追試験
	11日(木)～16日(火)	学園休業日
	17日(水)～20日(土)	集中講義期間
	22日(月)～27日(土)	集中講義期間
	29日(月)～31日(水)	集中講義期間
9月	1日(木)～3日(土)	集中講義期間
	5日(月)～10日(土)	集中講義期間
	12日(月)	前期修了式
	12日(月)～14日(水)	集中講義期間
	15日(木)	学園創立記念日（学園休業日）
	16日(金)～17日(土)	集中講義期間
	20日(火)～22日(木)	集中講義期間
	22日(木)	後期履修登録開始
	24日(土)	集中講義期間
	26日(月)	後期授業開講

□…授業日　▒…調整日（補講等のある日）　■…定期試験

●…集中講義　□…学園休業日　○…祝日

10

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	㉓	24	25	26
27	28	29	30			

12

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	㉛				

2

日	月	火	水	木	金	土
			❶	2	3	❹
5	❻	❼	❽	❾	❿	⑪
12	⓭	⓮	⓯	⓰	⓱	⓲
19	⓴	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
26	㉗	㉘				

3

日	月	火	水	木	金	土
			❶	❷	❸	❹
5	❻	❼	❽	❾	❿	⓫
12	⓭	⓮	⓯	⓰	⓱	18
19	⓴	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
26	27	28	29	30	31	

10 月	2 日(日)	後期履修登録締切
	5 日(水)	後期履修登録取消開始
	6 日(木)	後期履修登録取消締切
	28 日(金)	宗教講座（5 講時）
11 月	11 日(金)	本山参拝(午前)　大学祭準備(午後)
	12 日(土)	大学祭
	13 日(日)	大学祭
	14 日(月)	11 月 13 日（日）大学祭の振替休日・大学祭後片付け
	18 日(金)	人権講演会
	19 日(土)	金曜授業日
	25 日(金)	宗教講座（5 講時）
12 月	7 日(水)	修論提出締切（心理学研究科）15 時まで
	9 日(金)	宗教講座（5 講時）
	27 日(火)	冬季休暇開始（1 月 3 日まで）
1 月	4 日(水)	後期授業再開
	5 日(木)	学年末・後期末定期試験時間割発表
	7 日(土)	月曜授業日
	11 日(水)	修論提出締切（看護学研究科）15 時まで
	23 日(月)	後期授業終了
	24 日(火)	学年末・後期末定期試験
	〃	〃
	30 日(月)	〃
2 月	4 日(土)	追試験
	17 日(金)	修了予定者発表（午前 10 時）
3 月	3 日(金)	修了予定者追加発表(午前 10 時)
	18 日(土)	修了証書・学位記授与式

(注)日程は都合により変更することがあります。集中講義・補講の日程については、光華 navi の掲示で確認すること。
土曜授業日は１．２講時：授業　３．４．５講時：補講が実施されます。

目　　次

Ⅰ　履修要項

1．履修規程
（1）単　　位 …… 1
（2）修了の要件 …… 1
2．履修登録
（1）登 録 手 続 …… 1
（2）他大学の大学院での科目履修 …… 1
（3）既修得単位の読みかえ …… 2
3．修士論文…… 2
4．授 業 等
（1）授　　業 …… 4
（2）授 業 時 間 …… 4
（3）休　　講 …… 4
5．試験および成績評価
（1）試　　験 …… 5
（2）受 験 資 格 …… 5
（3）成 績 評 価 …… 5
（4）単位の認定・ＧＰＡ制度 …… 5
心理学研究科　３つのポリシー …… 6
看護学研究科　３つのポリシー …… 7

Ⅱ　カリキュラム

〔心理学研究科〕
臨床心理学専攻…… 9
〔看護学研究科〕
看護学専攻…… 11

Ⅲ　資格の取得

1．教育職員免許状…… 15

Ⅳ　開講科目表

〔心理学研究科〕
臨床心理学専攻…… 16
〔看護学研究科〕
看護学専攻…… 18

Ⅴ　授業計画書

臨床心理学専攻・看護学専攻…… 21

Ⅵ　教員

教員一覧…… 83

Ⅷ　施設

校舎建物・教室等配置図…… 85
大原野グラウンド…… 97

Ⅰ 履 修 要 項

1．履 修 規 程

（1）単　　位

＜心理学研究科＞

講義および演習科目は、教室内における１時間の講義・演習に対して教室外における２時間の準備のための学修を必要とし、15 時間の講義をもって１単位とする。従って、毎週２時間年 30 週の授業で４単位とする。実習科目は、30 時間から 45 時間の授業をもって１単位とする。

＜看護学研究科＞

講義および演習科目は、教室内における１時間の講義・演習に対して教室外における２時間の準備のための学修を必要とし、15 時間の講義をもって１単位とする。従って、毎週２時間年 30 週の授業で４単位とする。

（2）修了の要件

１．修士課程の修了要件は、本大学院に２年以上在学しその正規の授業を受け、所定の授業科目について、下表に示す単位数以上を修得し、かつ指導教員のもとで必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格しなければならない。ただし、在学年限は原則として４年を超えることができない。

２．課程修了の認定には、その研究に必要な１ヵ国語以上の外国語によく通ずることを条件とする。

心理学研究科

専　攻	講義・演習	実習	計
臨床心理学専攻	26	16	42

看護学研究科

専　攻	講義・演習	分野別演習	特別研究	計
看護学専攻	22	2	8	32

2．履 修 登 録

（1）登 録 手 続

毎年度始め、所定の期日までに、履修しようとする授業科目の登録手続きをしなければならない。履修登録をしていない授業科目には、試験等に合格しても単位は与えられない。

本年度の登録は、光華 navi により前期４月１日㈮～４月 13 日㈬、後期９月 22 日㈭～10 月２日㈰までに行う。後期履修登録期間で、科目の追加・変更が可能であるが、後期に受講を考えている科目は前期履修登録期間中に全て登録しておくこと。

登録科目を取り消す場合は、指定した期限内に必ず光華 navi により手続きすること。本年度の取消期間は、前期４月 15 日㈮～４月 16 日㈯、後期 10 月５日㈬～10 月６日㈭とする。

（2）他大学の大学院での科目履修

他大学の大学院の授業科目を履修する場合は、指導教員および研究科長の承認を得て、当該大学院

に科目履修の手続きをとり許可を得た後､学生サポートセンター（修学担当）に届け出るものとする。

（3）既修得単位の読みかえ

他大学の大学院で既に履修した授業科目、および本大学院において科目等履修生として履修した授業科目について、研究科委員会の議を経て、本大学院において修得したものとみなすことができる。

（2）（3）により修得した単位は、10 単位を超えない範囲で修了に必要な単位に算入することができる。

3．修　士　論　文

修士論文審査基準

＜心理学研究科＞

1．問題設定の妥当性

問題設定が妥当なものであること。また、これまでの研究にない独自の視点を持っていること。

2．先行研究の理解

論文が扱う主題に関連する先行研究を適切に検討・吟味していること。また、その成果を十分に踏まえていること。

3．研究方法・分析方法の適切性

論文中の諸命題を立証するのに適した研究方法が採用されていること。データ（資料）の収集および分析手法が適切であること。

4．論理構成の妥当性

論文の論旨と構成が妥当であり、論理展開が一貫していること。

5．結論の妥当性

問題設定のうち、何が論証され、何が論証できなかったかが、明確であること。

6．独創性

論文としての独創性を認めることができること。

7．形式面における適切性

以下のような、形式面で整っていること。

1）章・節の構成が適切であるか。

2）文章は明解であり、不必要に難解になっていないか。誤字脱字がないか。

3）注釈および引用文献表の形式が整っているか。注の付け方、引用の仕方が適切であるか。

8．倫理的配慮

研究における倫理（「公益社団法人日本心理学会倫理規程」に準ずる）を順守していること。

＜看護学研究科＞

1．研究課題、研究枠組みの妥当性

研究課題は、具体的で必要な要素が明確に記述されている。課題と研究の枠組みが適切であり、妥当性がある。

2．文献検討の適切性

研究課題に関する国内外の文献が必要な年代ごとに検索され、適切に評価されている。評価の結果が、自身の研究に活用され位置付けられている。

3．研究方法の妥当性

研究方法は、研究課題の検証のために適切な方法である。

4．データ収集、分析の正確性、信頼性

データ収集と分析は正確な手法でなされ、信頼性が確保されている。分析結果の判断、表現、記述は適切で明確に示されている。

5．プレゼンテーションの適切性

6．研究における倫理的配慮、手続き

研究における被験者への倫理的配慮と適切な手続きがなされているかについて、看護学研究科倫理委員会等の倫理審査を受け、可とされている。

7．論文構成の適切性

論文は、適切な構成で組み立てられ、正確で簡潔な文章により書かれている。

8．研究の独創性、結果の有効性、今後の課題

研究には独創性や新規性がある。結果は有効に活用される。研究の限界や課題が明らかにされている。

9．看護学発展への貢献

研究結果は、看護実践の根拠として活かされ、看護学の向上につながっている。

修士論文の提出

① 提出期限

・「修士論文題目届」

2022年5月31日（火）午後4時　※指導教員の承認を受けたうえ、届け出ること。

・「修士論文題目変更届」…修士論文の題目を変更する場合のみ提出

2022年10月31日（月）午後4時　※指導教員の承認を受けたうえ、届け出ること。

・「修士論文」

心理学研究科　2022年12月7日（水）午後3時

看護学研究科　2023年1月11日（水）午後3時

② 提出先

学生サポートセンター（修学担当）

注意事項

1．前期修了を希望する者は、上記①．②．について、指導教員の指示に従うこと。ただし、修士論文提出時に、2年以上在学していなくてはならない。また、年度を通して提出は1回限りとする。

2．納付金未納の場合は、論文を提出することができない。

4．授　業　等

（1）授　　業

授業の形態には、授業時間割表に基づいて行う通常の授業と、特定期間に集中的に行う集中講義とがある。なお、授業の都合により補講を行うこともある。

集中講義の時期は、概ね夏季休暇・冬季休暇の前後とし、当該科目は掲示により通知する。

（2）授業時間

授業時間は次のとおりである。

講　　時	第 1 講時	第 2 講時	第 3 講時	第 4 講時	第 5 講時
授業時間	8：50～10：20	10：30～12：00	12：50～14：20	14：30～16：00	16：10～17：40

（3）休　　講

休講の場合は、光華 navi により通知する。休講の掲示がなく、始業時刻を 30 分以上経過しても授業が始まらない場合は、学生サポートセンター（修学担当）に問い合わせ指示を受けること。また、交通機関の不通・特別警報（種類を問わない）の発令、暴風警報の発令による臨時休講・授業の取り扱いは次のとおりとする。

＜1＞下記のいずれかの交通機関が不通の場合

① JR（米原～大阪）

② 阪急電車（京都線）

③ 京都市バス・京都市営地下鉄のいずれかが全面不通

＜2＞特別警報（種類を問わない）または暴風警報が京都府南部に発令された場合

京都府南部

京都市	宇治市	亀岡市	城陽市	向日市	長岡京市	八幡市
京田辺市	南丹市	木津川市	大山崎町	久御山町	井手町	宇治田原町
笠置町	和束町	精華町	南山城村	京丹波町		

＜1＞＜2＞による授業開始は以下のとおりとする。

交通機関の開通時刻 および警報解除時刻	授業開始講時
午前 7 時までに開通・解除	1 講時から平常通り
午前 10 時までに開通・解除	3 講時から実施
午前 10 時以降開通・解除	終日休講

（備考）

・上記の交通機関または地域以外で、不通・気象警報発令等の影響により通学が困難な場合は、届け出により考慮する。

・上記の取り扱いにかかわらず、自然災害等の状況によって別途の措置を講ずる場合がある。

5．試験および成績評価

（1）試　　験

定期試験は各学期末に定められた期間に行う。

試験は、筆記・口述・レポート・論文などによって行われる。

定期試験時間は授業時間と同じである。

（2）受 験 資 格

次の各項の一に該当する場合は受験資格がない。

① 当該授業科目の履修登録を行っていない場合。

② 学生証（有効であること）を携帯していない場合。

※筆記試験当日､学生証を忘れた者は､試験開始前に､学生サポートセンター（学生生活担当）で「仮学生証（試験受験用)」（当日限り有効）の交付を受け、受験すること。

（3）成 績 評 価

履修科目について、試験又は研究報告等の結果、合格と判定された場合に単位が認定される。

成績は、100 点満点の 60 点以上を合格とし、成績評価は次のとおりとする。

秀（90 点以上)、優（89～80 点)、良（79～70 点)、可（69～60 点）

成績証明書には、秀・優・良・可などの評価が記載され、不合格科目は記載されない。

（4）単位の認定・ＧＰＡ制度

履修科目について、試験等の結果、合格と判定された場合に単位が認定される。成績は 100 点満点の 60 点以上を合格とし、以下の成績評価区分のとおり表示される。

また、本学では、履修計画・学習計画を立てるために、ＧＰＡ（Grade Point Average:学業平均値）制度を導入している。ＧＰＡ 制度は、一人ひとりの成績を総合的にあらわすものであり、履修登録された授業科目（対象外となる科目も有）を成績算出の対象とする。ＧＰＡ値は､4 点を最高点とし、以下 0 点までの数値で表示される。

〈成績・ＧＰ（Grade Point）の基準について〉

合格/不合格	成績評価	成績評価基準	成績内容	GP
合格	秀	90点以上	特に優れた成績	4.0
	優	80点以上90点未満	優れた成績	3.0
	良	70点以上80点未満	妥当と認められる成績	2.0
	可	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の成績	1.0
不合格	不可	60点未満	合格と認められる最低限の成績に達していない場合	0.0
	欠	―	試験欠席	
その他	認		科目等履修科目	GPA対象外

＊ GPA 値については、光華 navi の成績照会画面より確認することができる。

＊ただし、納付金未納の場合、当該期間履修中の単位は認定されない。

◆ GPA（Grade Point Average）の算出方法

$$GPA=\frac{\{(4.0\times 90点以上相当の修得単位数)+(3.0\times 80点以上90点未満相当の修得単位数)+(2.0\times 70点以上80点未満相当の修得単位数)+(1.0\times 60点以上70点未満相当の修得単位数)\}}{総履修登録単位数(「不可」「欠席」の単位数を含む。)}$$

（注 1）GPA は、小数点第 4 位を四捨五入し、小数点第 3 位までの数値で、表示します。
（注 2）「非要卒科目」、履修中止された科目は、計算式に含みません。

心理学研究科　3 つのポリシー

1．アドミッション・ポリシー

入学にあたり、本研究科での教育を受けるにふさわしい、次のような能力と適性を備えた人材を選抜する。

①人の心に対する深い関心と洞察力を持つ人物。
②柔軟で安定した対人関係を築くことができる人物。
③臨床心理学領域での専門的職業人を目ざす意欲と能力を持った人物。
④心理学の発展に貢献するために主体的に研究に取り組む意欲と能力を持った人物。

2．カリキュラム・ポリシー

心理学研究科は、心理学の広範かつ高度な学識に基づき、臨床心理面接および心理アセスメントに関する実践的スキルを修得した心理臨床家の育成を目指す。こうした人材の育成およびディプロマ・ポリシーの総合的な達成を図る教育課程として、下記の科目（群）を体系的に編成している。

⑴コースワーク
　①心理学専門科目
　②心理療法関連科目
　③心理アセスメント関連科目
　④臨床心理面接の実習科目
⑵リサーチワーク
　⑤研究関連科目
　⑥研究指導、修士論文作成指導の科目

コースワークは、1 年次および 2 年次の実習の実りある学修へ向けて約 20 科目を 4 つの科目群（①心理学専門科目、②心理療法関連科目、③心理アセスメント関連科目、④臨床心理面接の実習科目）に体系的に配置している。実施にあたり、多くの科目（群）では、附属のカウンセリングセンターや学外施設での実習と連接することで、ディスカッション等を通した実習体験の多角的検討と理解の促進が可能となっている。

リサーチワークは、6 科目を 2 つの科目群（⑤研究関連科目、⑥研究指導）に組織化している。研究指導に関する授業では、教育効果を考慮して 1 ・ 2 年次合同で実施している。なお、本研究科の教育課程は、国家資格「公認心理師」および公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」受験資格取得の条件を満たしている。

3．ディプロマ・ポリシー

以下の能力を備え、学則に定める修了要件を満たした者に修士（心理学）の学位を授与する。

①臨床心理面接や臨床心理査定に関する理論とスキルを身につけて、それを実践へ移すことができる。
②臨床心理学の高度な学識に基づいた柔軟な理解・判断能力を身につけている。
③臨床心理学の近接関連領域にたいする持続的な関心と理解力を備えている。
④豊かな人間性と、対人援助における倫理観を身につけている。
⑤論理的思考能力をもって独創的な成果を研究論文としてまとめる能力を有している。

看護学研究科　3つのポリシー

1．アドミッション・ポリシー

入学にあたり、本研究科での教育を受けるにふさわしい、次の様な能力と適性を備えた人材を総合的に判断する。

⑴看護学発展の一翼を担う自覚を持ち、主体的、自律的に学問的探究に努力する。
⑵援助の対象者を思いやり、尊厳ある個人として全人的に理解できる。
⑶様々な現象を、科学的根拠に基づき論理的に考えることができる。
⑷学際的な幅広い論点から、知識や理論を活用できる。
⑸グローバルな視点を持ち、文化・宗教、人種、政治を超えた看護職としての実践ができる。
⑹高い臨床能力、多職種との協働・連携を促進するマネジメント能力を持つ。

2．カリキュラム・ポリシー

看護学研究科は少子高齢化、医療技術の進歩、価値観の多様化にあって、人命・人権の尊厳から、豊かな生活や地域社会を支える看護と看護学の創造に貢献する研究を行うとともに、大学の理念を基盤に、豊かな感性・倫理性を備え、看護学に必要とされる実践の科学としての看護学を探求する専門性のある人材を育成することを目指す。

⑴仏教精神に基づく人間観、死生観を深く理解し行動のできる指標にできる看護者
⑵グローバルで多様な社会において学際的視点で柔軟に思考、行動できる看護者
⑶高度な専門知識、技術を有し、的確な判断力、研究資質を備えた看護実践者
⑷チーム医療や地域連携ケアの中で、マネジメント機能を果たし得る看護者

これらの教育目標を達成するために、看護学研究科は、人材の育成に関する目的を２つの分野「臨床療養看護学分野」、「地域療養看護学分野」を設けディプロマポリシーに基づき、下記の教育課程を編成する。

⑴共通科目

仏教精神の理解をはじめ、今日の社会や人々に関する多様で幅広い知識や現象の理解、思考や判断力の基礎となる７科目を編成する。

⑵専門共通科目

高度化専門化する看護学に要求される思考力・判断力の基礎となる６科目で編成する。

⑶専門科目

高度な専門的知識と卓越した技能を習得するために、より高い専門性を学ぶ「専門科目」を編成する。

①臨床療養看護学分野

看護サービスマネジメント・看護実践など新たな看護援助の創造や開発など実践・研究・理論の課題を持つ研究を支援する「看護管理論・看護技術論・慢性看護論・小児看護論・精神看護論に関連する（演習を含む）」10 科目で編成する。

②地域療養看護学分野

社会変化による健康ニーズの多様性と、対象の持つ課題の多様性から、予防から生活の場までの課題を持つ研究を支援する「国際地域看護活動論・老年看護論・公衆衛生看護論・女性健康論・在宅看護論（演習を含む）」の 10 科目で編成する。

③看護学特別研究

社会のニーズに基づく研究課題を明確にし、創造的に解決する方策を探求する研究能力を身に着けるために、２つの分野に「看護学特別研究」を編成し、修士論文の作成を目指す。

３．ディプロマポリシー

以下の能力を備え、学則に定める修了要件を満たした者に修士（看護学）の学位を授与する。

①仏教の精神に基づき、人間の理解と援助者としての在り方を深く洞察し、誠意と謙虚な精神で行動できる看護実践者、教育・研究者である。

②看護実践の研究的検証を通して、看護学のさらなる発展に寄与できる看護実践者である。

③グローバルかつ学際的視点から研究的、創造的に看護の探求、エビデンスに基づいた援助技術の開発に参加できる。

学位必要要件は以下の通りです。

⑴本課程に２年以上在学して、所定の単位（32 単位以上）を習得する事。

⑵必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出し審査に合格する事。

Ⅱ　カリキュラム

心理学研究科

臨床心理学専攻（修士課程）〈2021 年度以降入学生対象〉

必・選	授業科目	授業形態	1単位当たりの授業時間数	単位	配当年次	科目群	関連資格	
							公認心理師	臨床心理士
必修	研究指導演習Ⅰ	演習	15	2	1			
	研究指導演習Ⅱ	演習	15	2	1			
	研究指導演習Ⅲ	演習	15	2	2			
	研究指導演習Ⅳ	演習	15	2	2			
	臨床心理学特論Ⅰ	講義	15	2	1			○
	臨床心理学特論Ⅱ	講義	15	2	1			○
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	講義	15	2	1		○	○
	臨床心理面接特論Ⅱ	講義	15	2	1			○
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	演習	15	2	1		○	○
	臨床心理査定演習Ⅱ	演習	15	2	1			○
	臨床心理基礎実習Ⅰ	実習	30	2	1			○
	臨床心理基礎実習Ⅱ	実習	30	2	1			○
	心理実践実習Ⅰ	実習	45	3	1		○	
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	実習	45	7	2		○	○
	臨床心理実習Ⅱ	実習	30	2	2			○
選択	心理学研究法特論	講義	15	2	1	A		2科目のうち選択必修
	心理統計法特論	講義	15	2	1	A		
	発達心理学特論	講義	15	2	1・2	B		○
	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	講義	15	2	1・2	C	○	2科目のうち選択必修
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	講義	15	2	1・2	C	○	
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	講義	15	2	1・2	D	○	2科目のうち選択必修
	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	講義	15	2	1・2	D	○	
	心理療法特論	講義	15	2	1・2	E		2科目のうち選択必修
	認知行動療法特論	講義	15	2	1・2	E		
	教育分野に関する理論と支援の展開	講義	15	2	1・2		○	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	15	2	1・2		○	
	心の健康教育に関する理論と実践	講義	15	2	1・2		○	

修了要件及び履修方法

1．必修科目 36 単位および選択科目 6 単位以上を修得し、計 42 単位以上を修得しなければならない。

2．公認心理師の受験資格を取得するためには、必修科目 36 単位および指定された選択科目 14 単位以上を修得し、計 50 単位以上修得しなければならない。

3．臨床心理士の受験資格を取得するためには、必修科目 36 単位および選択科目（A・B・C・D・E）から

それぞれ２単位以上を修得し、計 46 単位以上修得しなければならない。(E 群はすべて履修することが望ましい)。

4．公認心理師および臨床心理士の両資格の受験資格を取得するためには、必修科目 36 単位および指定された選択科目 20 単位以上を修得し、計 56 単位以上修得しなければならない。

5．学位論文（修士論文）を提出し、審査および最終試験に合格しなければならない。なお、論文の題目および内容は「臨床心理学に関するもの」とすること。

6．必修科目および E 群の科目は、専攻に所属する院生のみを対象とする。

看護学研究科

看護学専攻（修士課程）〈2021 年度入学生対象〉

科目区分		授業科目	授業形態	1単位当たりの授業時間数	単位	配当年次	必・選
共通科目		仏教の人間観	講義	15	2	1	必修
		統計学	講義	15	2	1	
		研究倫理	講義	8	1	1	
		国際関係	講義	15	2	1・2	選択
		異文化理解	講義	15	2	1・2	
		英書講読	演習	8	1	1・2	
		中医学	演習	8	1	1・2	
専門共通科目		看護研究方法論	講義	15	2	1	必修
		看護理論	講義	15	2	1	
		看護倫理学	講義	15	2	1	選択
		看護教育学	講義	15	2	1	
		看護安全学	講義	15	2	1	
		臨床病理学	講義	15	2	1	
専門科目	臨床療養看護学分野	看護管理特論	講義	15	2	1	選択
		看護管理学演習	演習	15	2	1	
		看護技術特論	講義	15	2	1	
		看護技術演習	演習	15	2	1	
		慢性看護特論	講義	15	2	1	
		慢性看護学演習	演習	15	2	1	
		小児看護特論	講義	15	2	1	
		小児看護学演習	演習	15	2	1	
		精神看護特論	講義	15	2	1	
		精神看護学演習	演習	15	2	1	
	地域療養看護学分野	国際地域看護活動特論	講義	15	2	1	選択
		国際地域看護活動演習	演習	15	2	1	
		老年看護特論	講義	15	2	1	
		老年看護学演習	演習	15	2	1	
		公衆衛生看護特論	講義	15	2	1	
		公衆衛生看護学演習	演習	15	2	1	
		女性健康特論	講義	15	2	1	
		女性健康学演習	演習	15	2	1	
		在宅看護特論	講義	15	2	1	
		在宅看護学演習	演習	15	2	1	
		看護学特別研究	演習	15	8	2	必修

修了要件及び履修方法

(1) 必修科目 17 単位および選択科目 15 単位以上を修得し、計 32 単位以上を修得しなければならない。
①必修科目は、共通科目から５単位、専門共通科目から４単位、看護学特別研究８単位
②選択科目は、専門共通科目と専門科目 15 単位以上（選択した分野の特論及び演習を４単位修得すること）

(2) 修士論文を提出して審査及び最終試験に合格しなければならない。

看護学専攻（修士課程）〈2022 年度入学生対象〉

科目区分		授業科目	授業形態	1単位当たりの授業時間数	単位	配当年次	必・選
共通科目		仏教の人間観	講義	15	2	1	必修
		統計学	講義	15	2	1	
		研究倫理	講義	8	1	1	
		国際関係	講義	15	2	1・2	選択
		異文化理解	講義	15	2	1・2	
		英書講読	演習	8	1	1・2	
		中医学	演習	8	1	1・2	
専門共通科目		看護研究方法論	講義	15	2	1	必修
		看護理論	講義	15	2	1	
		看護倫理学	講義	15	2	1	選択
		看護教育学	講義	15	2	1	
		看護安全学	講義	15	2	1	
		臨床病理学	講義	15	2	1	
専門科目	臨床療養看護学分野	看護管理特論	講義	15	2	1	選択
		看護管理学演習	演習	15	2	1	
		看護教育特論	講義	15	2	1	
		看護教育演習	演習	15	2	1	
		慢性看護特論	講義	15	2	1	
		慢性看護学演習	演習	15	2	1	
		小児看護特論	講義	15	2	1	
		小児看護学演習	演習	15	2	1	
		精神看護特論	講義	15	2	1	
		精神看護学演習	演習	15	2	1	
	地域療養看護学分野	国際地域看護活動特論	講義	15	2	1	選択
		国際地域看護活動演習	演習	15	2	1	
		老年看護特論	講義	15	2	1	
		老年看護学演習	演習	15	2	1	
		公衆衛生看護特論	講義	15	2	1	
		公衆衛生看護学演習	演習	15	2	1	
		女性健康特論	講義	15	2	1	
		女性健康学演習	演習	15	2	1	
		在宅看護特論	講義	15	2	1	
		在宅看護学演習	演習	15	2	1	
		看護学特別研究	演習	15	8	2	必修

修了要件及び履修方法

(1) 必修科目 17 単位および選択科目 15 単位以上を修得し、計 32 単位以上を修得しなければならない。
①必修科目は、共通科目から 5 単位、専門共通科目から 4 単位、看護学特別研究 8 単位
②選択科目は、専門共通科目と専門科目 15 単位以上（選択した分野の特論及び演習を 4 単位修得すること）

(2) 修士論文を提出して審査及び最終試験に合格しなければならない。

Ⅲ　資 格 の 取 得

1．教育職員免許状

（1）本大学院で取得できる免許状の教科および種類

研　究　科	専　攻	教　科	種　類
心理学研究科	臨床心理学専攻	公民	高等学校教諭　専修免許状

※ただし、高等学校教諭１種免許状（公民）の資格を有する者に限る。

（2）専修免許状取得の基礎資格と教科に関する科目の最低修得単位数

免 許 状 の 種 類	基　礎　資　格	最 低 修 得 単 位 数
高等学校教諭　専修免許状	修士の学位を有すること	24 単位

※ただし、次の科目については免許状取得の修得単位数には含まれない。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

心理実践実習Ⅰ

臨床心理実習Ⅱ

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

認知行動療法特論

Ⅳ 開講科目

2022 年度開講科目表

心理学研究科

臨床心理学専攻（修士課程）

必・選	学科目	担当者	単位	配当年次	科目群	授業期間	備考
必修	研究指導演習Ⅰ	長田陽一 酒井浩二 千野美和子	2	1		前期	
	研究指導演習Ⅱ	長田陽一 酒井浩二 千野美和子	2	1		後期	
	研究指導演習Ⅲ	徳田仁子 礪波朋子	2	2		前期	
	研究指導演習Ⅳ	徳田仁子 礪波朋子	2	2		後期	
	臨床心理学特論Ⅰ	長田陽一	2	1		後期	
	臨床心理学特論Ⅱ	徳田仁子	2	1		後期	
	臨床心理面接特論Ⅰ （心理支援に関する理論と実践）	徳田仁子	2	1		前期	
	臨床心理面接特論Ⅱ	谷本拓郎 大谷多加志	2	1		後期	
	臨床心理査定演習Ⅰ （心理的アセスメントに関する理論と実践）	大谷多加志	2	1		前期	
	臨床心理査定演習Ⅱ	谷本拓郎	2	1		前期	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	今西徹 鳴岩伸生	2	1		前期	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	今西徹 石川敬子	2	1		後期	
	心理実践実習Ⅰ	今西徹 鳴岩伸生 千野美和子	3	1		通年	
	臨床心理実習Ⅰ （心理実践実習Ⅱ）	長田陽一 徳田仁子 大谷多加志	7	2		通年	
	臨床心理実習Ⅱ	長田陽一 千野美和子	2	2		通年	

選択	心理学研究法特論	酒井浩二	2	1	A群	前期	
	心理統計法特論	土居淳子	2	1	A群	前期	
	発達心理学特論	礪波朋子	2	1・2	B群	前期	
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	竹村洋子	2	1・2	C群	後期	
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	竹西正典	2	1・2	C群	前期	
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	森本佳奈	2	1・2	D群	前期 集中	
	障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	樋口亜瑞佐	2	1・2	D群	前期 集中	
	心理療法特論	千野美和子	2	1・2	E群	前期	
	認知行動療法特論	佐藤安子	2	1・2	E群	前期 集中	
	教育分野に関する理論と支援の展開	酒井律子	2	1・2		前期 集中	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	川西千弘	2	1・2		後期	
	心の健康教育に関する理論と実践	浜内彩乃	2	1・2		前期	

看護学研究科

看護学専攻（修士課程）

区分		学科目	担当者	単位	必／選	配当年次	授業期間	備考
共通科目		仏教の人間観	小澤千晶	2	必修	1	後期	
		統計学	土居淳子	2	必修	1	前期	
		研究倫理	細川昌則	1	必修	1	前期	
		国際関係	脇田哲志	2	選択	1・2	後期	
		異文化理解	新山智基	2	選択	1・2	後期	
		英書講読	未定	1	選択	1・2	前期	
		中医学	呉小玉	1	選択	1・2	前期	
専門共通科目		看護研究方法論	茎津智子 守口絵里	2	必修	1	前期	
		看護理論	清水房枝	2	必修	1	後期	
		看護倫理学	茎津智子	2	選択	1	後期	
		看護教育学	上田伊佐子	2	選択	1	後期 集中	
		看護安全学	清水房枝 任和子	2	選択	1	後期 集中	
		臨床病理学	細川昌則 千葉陽一	2	選択	1	後期	
専門科目	臨床療養看護学分野	看護管理特論	清水房枝	2	選択	1	前期	2021年度入学生「看護技術特論」
		看護管理学演習	清水房枝	2	選択	1	後期	2021年度入学生「看護技術演習」
		看護教育特論	徳永基与子	2	選択	1	後期	
		看護教育演習	徳永基与子	2	選択	1	後期	
		慢性看護特論	番所道代	2	選択	1	前期	
		慢性看護学演習	番所道代	2	選択	1	後期	
		小児看護特論	茎津智子	2	選択	1	前期	
		小児看護学演習	茎津智子	2	選択	1	後期	
		精神看護特論	荒井春生	2	選択	1	前期	
		精神看護学演習	荒井春生	2	選択	1	後期	
	地域療養看護学分野	国際地域看護活動特論	呉小玉 新山智基	2	選択	1	後期	
		国際地域看護活動演習	呉小玉	2	選択	1	後期	
		老年看護特論	中平みわ	2	選択	1	前期	
		老年看護学演習	中平みわ	2	選択	1	後期	
		公衆衛生看護特論	堀井節子	2	選択	1	後期	
		公衆衛生看護学演習	堀井節子	2	選択	1	後期	
		女性健康特論	未定	2	選択	1	前期	
		女性健康学演習	未定	2	選択	1	後期	
		在宅看護特論	窪内敏子	2	選択	1	前期	
		在宅看護学演習	窪内敏子	2	選択	1	後期	

専門科目		看護学特別研究	清水房枝 徳永基与子 呉小玉 中平みわ	8	必修	2	通年	

Ⅴ 授 業 計 画

心理学研究科
臨床心理学専攻

科目名	心理療法特論				
開講年度/学期	2022年度 前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	千野 美和子	教員名	千野 美和子		
実務家教員					

授業テーマ	臨床心理面接の実際的問題を理解する。
授業の概要	これから実際に臨床心理面接を担当するにあたって、個人心理療法の原則となる考え方や基本姿勢を学びます。
到達目標	1. 臨床心理面接の基本的な考えを理解することができる。 2. 1. をふまえた上で、それについてある程度自分の考え方を持つことができる。 3. その上で自分の担当する臨床心理面接を行うことができる。

◆授業計画

〈担当形態〉 単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回 オリエンテーション
第2回 心理療法の目指すもの
第3回 初めての面接
第4回 初回面接
第5回 見立て
第6回 心理テストとの関わり
第7回 心理療法における枠組み
第8回 中間のまとめ
第9回 傾聴と共感
第10回 関係について
第11回 遊戯療法
第12回 母子並行面接
第13回 箱庭療法
第14回 スーパービジョンと事例研究について
第15回 まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

毎回一つのテーマについて、疑問や意見を出し合い、考えを深めるという話し合い中心の授業とします。前もって、そのテーマに関わる文献を提示するので、それを授業までに読んで理解し自分の意見や疑問をレジュメにまとめ授業時間に発表するという形式で行います。次週、その時間の話し合いを含めて振り返りのレポートを提出してもらいます。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

予習と復習から成り立つ授業です。毎回授業前に、テーマとなる論文を読んで、自分の意見と疑問をレポートにまとめること、そして、授業後、授業中での発見、疑問、授業後のまとめなどをレポートにまとめる。これを毎回レポートとして、提出するという形をとります。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	授業中の発表と話し合いの参加度(60%)と毎回のまとめとしてのレポート(40%)
成績評価基準	発表について:文献を適切に理解した上で自分の意見をまとめ発表できているか、話し合いについて:他受講生の発表を理解して、自分の意見を述べているか、まとめのレポート:話し合いを踏まえて自分の意見を述べているかの程度
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	大学院の体験で生じてきた素朴な疑問や問題を出し合い、話し合いを通して、体験に根ざした『知』を作っていきたいと思いますので、受講生の方はどしどし意見を出してください。
オフィスアワー	授業前後の時間に質問を受け付けます。または、学内メールで連絡をください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

使用予定なし。

科目名	研究指導演習Ⅱ				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	長田　陽一	教員名	長田 陽一、酒井 浩二、千野 美和子		
実務家教員					

授業テーマ	修士論文の研究計画を立て論文作成に取り組む
授業の概要	この授業では、文献・資料の収集、学術論文の読解を通して、修士論文の作成に必要な能力を育成することを目的とする。また、自らの研究テーマに対する知識を深め、心理臨床につながる研究とは何かを発見的に学習することも目的としている。受講生は、発表内容の理解が深まるような質問や発言を積極的に行うことで、建設的な対話を進める能力を身につけることが期待される。
到達目標	修士1年生のうちに修士論文のテーマを明確にし、調査および論文作成に着手することを目指す。

♦授業計画

<担当形態>	複数	

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. ガイダンス　～授業の進め方について
2. 先行研究の収集・発表とディスカッション (1)
3. 先行研究の収集・発表とディスカッション (2)
4. 先行研究の収集・発表とディスカッション (3)
5. 小グループ指導 (1)
6. 小グループ指導 (2)
7. 小グループ指導 (3)
8. 先行研究の収集・発表とディスカッション (4)
9. 先行研究の収集・発表とディスカッション (5)
10. 先行研究の収集・発表とディスカッション (6)
11. 研究の問題/目的/方法の検討 (1)
12. 研究の問題/目的/方法の検討 (2)
13. 修士論文構想発表とディスカッション (1)
14. 修士論文構想発表とディスカッション (2)
15. 修士論文構想発表とディスカッション (3)

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

前期に続いて、修士論文のテーマに関する文献発表、修士論文の研究計画に関する発表を行い、受講生や教員とディスカッションを行う。また、教員は、適宜解説や文献に関する助言を行い、必要に応じて個別指導を実施する。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

発表前には少なくとも3時間は資料作成のための準備に必要。
また授業で指導をうけた後、自分で少なくとも1時間は研究テーマ内容の手直しをして、積極的に個別指導の機会を利用し次の発表にそなえて準備をして欲しい。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	・授業参加の姿勢50% ・発表内容50%
成績評価基準	・授業参加の姿勢・・・他の発表への積極的なコメントなど ・発表内容・・・文献（先行研究）の読込み、テーマの背景や意義の理解度、方法の適切性など
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	研究テーマを明確にするとともに、この授業で検証（再現）可能性を考慮した方法と研究計画（スケジュール）の目途を立てることが望ましい。 積極的に教員に質問し、必要に応じて個別指導（授業時間外）を申し出ること。
オフィスアワー	長田 研究室番号：慈光館4308号室 オフィスアワー：月～木　授業、会議時間以外（事前にメール等で連絡してください） 千野 研究室番号：慈光館4310号室 オフィスアワー：月、水～金　授業、会議時間以外（事前にメール等で連絡してください） 酒井 研究室番号：賢風館3F303号室 オフィスアワー：月、水～金　授業、会議時間以外（事前にメール等で連絡してください）

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

適宜、指示する

科目名	研究指導演習Ⅲ				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	2
代表教員	徳田　仁子	教員名	徳田 仁子、礪波 朋子		
実務家教員					

授業テーマ	修士論文を作成する。
授業の概要	心理学の専門的知識と臨床心理学実習等で培われた臨床経験をもとに、臨床心理学的観点を総合して修士論文を作成する。 発表者は順番に研究をレジュメにまとめて発表する。 指導担当教員、指導補佐教員および受講生全員によるディスカッションによって検討する。 小グループにおける指導と全体で詳細に吟味する。
到達目標	大学院において学んだ臨床心理学の知識を総合し、現代社会における心の問題について幅広い視点から考察するとともに自らの臨床経験を加味した総合的観点から吟味して論文を練り上げる。

◆授業計画

〈担当形態〉	複数	

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回. 研究計画書の作成
第2回. 修士論文題目の決定
第3回. グループ指導①研究計画の整理
第4回. グループ指導②先行研究の検討
第5回. グループ指導③先行研究の整理
第6回. グループ指導④研究方法の吟味
第7回. 個別指導による研究計画のまとめ
第8回. 全体指導①　修論構想発表（調査方法の吟味）
第9回. 全体指導②　修論計画発表（調査方法の実践）
第10回. グループ指導⑤ 調査方法の精錬
第11回. グループ発表⑥ 調査方法の実践
第12回. グループ発表⑦ 予備調査等の検討
第13回. グループ発表⑧. 調査結果の分析
第14回. グループ発表⑨ 調査結果の考察
第15回. 個別指導による研究成果のまとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

大学院において学んだ臨床心理学の知識を総合し、現代社会における心の問題について幅広い視点から考察するとともに自らの臨床経験を加味した総合的観点から吟味して論文を練り上げる。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

先行研究や原著の読み込みを十分に行うこと。
また、自らの言葉で捉えなおし、テーマに適切な研究手法を吟味すること。
そのためには十分な予習復習が必要である。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	受講態度　50% プレゼンテーションの内容　50%
成績評価基準	臨床心理学の修士論文における研究として、以下のような基準がクリアできていること。 (1) 基本的な文献を十分に読み込んで先行研究を調べていること。 (2) テーマに適切な研究手法を吟味し、活用していること。 (3) 倫理的観点を十分に理解し、対象に対する配慮を行っていること。 (4) 汎用性のある、幅広い観点から考察できていること。 (5) 修士論文にふさわしいオリジナリティがあること。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	担当者からのメッセージ（履修上の留意点等） 臨床心理学の研究方法を吟味して研究題目を決定するまでには、必要で十分な先行研究の読み込みが必要です。また、現象に対して真摯に向き合い、常に自分の言葉で吟味し、新たな視点を盛り込もうとする積極的な研究姿勢が望まれます。
オフィスアワー	オフィスアワーについて：時間など詳細は各教員にメールで問いあわせて下さい。 礪波朋子（慈光館4F個人研究室4303） tonami@mail.koka.ac.jp 徳田仁子（慈光館4F個人研究室4307） tokudakimiko@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

科目名	研究科指導演習Ⅳ				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	2
代表教員	徳田　仁子	教員名	徳田　仁子、礪波　朋子		
実務家教員					

授業テーマ	修士論文を作成する。
授業の概要	心理学の専門的知識と臨床心理学実習等で培われた臨床経験をもとに、臨床心理学的観点を総合して修士論文を作成する。 発表者は順番に研究をレジュメにまとめて発表する。 指導担当教員、指導補佐教員および受講生全員によるディスカッションによって検討する。 小グループにおける指導と全体で詳細に吟味する。
到達目標	大学院において学んだ臨床心理学の知識を総合し、現代社会における心の問題について幅広い視点から考察するとともに自らの臨床経験を加味した総合的観点から吟味して論文を練り上げる。

◆授業計画

〈担当形態〉　複数

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回. 研究計画書の作成
第2回. 修士論文題目の決定
第3回. グループ指導①研究計画の整理.
第4回. グループ指導②先行研究の検討
第5回. グループ指導③先行研究の整理
第6回. グループ指導④研究方法の吟味
第7回. 個別指導による研究計画のまとめ
第8回. 全体指導①　修論構想発表（調査方法の吟味）
第9回. 全体指導②　修論計画発表（調査方法の実践）
第10回. グループ指導⑤ 調査方法の精錬
第11回. グループ発表⑥ 調査方法の実践
第12回. グループ発表⑦ 予備調査等の検討
第13回. グループ発表⑧ 調査結果の分析
第14回. グループ発表⑨ 調査結果の考察
第15回. 個別指導による研究成果のまとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

大学院において学んだ臨床心理学の知識を総合し、現代社会における心の問題について幅広い視点から考察するとともに自らの臨床経験を加味した総合的観点から吟味して論文を練り上げる。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

先行研究や原著の読み込みを十分に行うこと。
また、自らの言葉で捉えなおし、テーマに適切な研究手法を吟味すること。
そのためには十分な予習復習が必要である。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	受講態度　50% プレゼンテーションの内容　50%
成績評価基準	臨床心理学の修士論文における研究として、以下のような基準がクリアできていること。 (1) 基本的な文献を十分に読み込んで先行研究を調べていること。 (2) テーマに適切な研究手法を吟味し、活用していること。 (3) 倫理的観点を十分に理解し、対象に対する配慮を行っていること。 (4) 汎用性のある、幅広い観点から考察できていること。 (5) 修士論文にふさわしいオリジナリティがあること。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	担当者からのメッセージ（履修上の留意点等） 臨床心理学の研究方法を吟味して研究題目を決定するまでには、必要で十分な先行研究の読み込みが必要です。 また、現象に対して真摯に向き合い、常に自分の言葉で吟味し、新たな視点を盛り込もうとする積極的な研究姿勢が望まれます。
オフィスアワー	オフィスアワーについて：時間など詳細は各教員にメールで問いあわせて下さい。 礪波朋子（慈光館4F個人研究室4303） tonami@mail.koka.ac.jp 徳田仁子（慈光館4F個人研究室4307） tokudakimiko@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

科目名	臨床心理学特論Ⅰ				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	長田　陽一	教員名	長田　陽一		
実務家教員					

授業テーマ	臨床心理学の成り立ちや対人援助の方法論について幅広く学ぶ。
授業の概要	高度な専門性を備えた心理臨床の実践家として学ぶべき多様な対人援助の技法とその理論的背景について概説する。 また、様々な実践領域の特徴、他職種との連携、職業倫理、訓練の過程、社会的状況と課題について理解する。
到達目標	これから実際に面接を担当するにあたって、個人心理療法の原則となる考え方や基本姿勢について学ぶ。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回：イントロダクション
第2回：臨床心理学とは
第3回：臨床心理学のパラダイム
第4回：心理療法①　精神分析
第5回：心理療法②　分析心理学
第6回：心理療法③　来談者中心療法
第7回：心理療法④　認知／行動療法
第8回：ライフサイクル論①　乳・幼児期
第9回：ライフサイクル論②　思春期・青年期
第10回：ライフサイクル論③　成人期・中年期
第11回：臨床心理学の領域
第12回：心理アセスメント
第13回：心理専門職の訓練
第14回：心理臨床の倫理
第15回：心理専門職の現状と課題

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

それぞれのテーマごとに主にテキストを用いて講義し、その後全員でディスカッションを行う。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

毎回、次回の授業範囲についてテキストや資料を指定するので、よく確認し予習しておくこと(2～3時間程度)。その際、専門用語の意味を調べ、よく理解しておくこと。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	・毎回の課題と授業への取り組み（70%） ・レポート課題（30%）
成績評価基準	・毎回の課題と授業への取り組み・・・毎回の発表や発言の内容、ディスカッションへの積極的参加、心理臨床に関する問題意識や関心の高さなどにより評価する。 ・レポート課題・・・授業内容の理解度、心の多様性への関心、自身の今後の臨床場面への活かし方などにより評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	知識を実践で活用できるようになるには、知っていることをより根源的な次元から問い直してみることが必要です。それは心理学の知識だけにとどまらず、自分の常識や言葉にも向けられます。自分以外の人の常識や言葉は、自分とは異なっているというメタ認識を持つことが、他者理解への第一歩となります。
オフィスアワー	研究室番号：慈光館4308号室 オフィスアワー：月～木　授業、会議時間以外（事前にメール等で連絡してください）

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

なし

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4753399062	書名・版	精神分析的心理療法の実践　クライエントに出会う前に		著者名	馬場禮子
出版社	岩崎学術出版社			備考		
【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4772490283	書名・版	症例でたどる子どもの心理療法　情緒的通いあいを求めて		著者名	森さち子
出版社	金剛出版			備考		

科目名	臨床心理学特論Ⅱ				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	徳田　仁子	教員名	徳田　仁子		
実務家教員					

授業テーマ	臨床心理学における基礎理論を学びつつ、臨床心理学の歴史的背景および臨床心理面接を基盤とする臨床心理学的方法論の独自性について理解を深める。
授業の概要	面接法を基盤とした人間理解の方法の基礎理論として、土居健郎「方法としての面接」を読み、精神医学の基礎知識を関連づけて理解する。後半は成田善弘による「精神療法家の仕事」を事例に基づいて具体的に学ぶ。
到達目標	1. 臨床心理面接に必要な知見と素養を身に着ける。 2. 共感と解釈、転移と逆転移など面接に特有の現象を学び指針とする。 3. クライエントの「見立て」を立てる人間理解の方法と技術を身に着ける。

◆授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

#1～8までは土居健郎「方法としての面接を軸に適宜ほかの文献を配布して読み進める
#1　第1講　心理療法とアセスメント（土居「方法としての面接」第1章「面接」）
#2　第2講　初回面接における見立て・関係づくり（第2章面接をどう始めるか）
＊成田善弘（精神療法家の仕事第8章「短い面接」より）遊戯療法論1「遊びとは何か」
#3　第3講　第3章　分かるということ　第4章　面接の進め方
　＊熊倉伸宏「面接法」医学書院より
#4　第4講　　第5章　ストーリを読む
#5　第5講　第6章　見立て　　＊土居健郎「見立ての重要性」北山修「見立て」
#6　第6講　第7章　家族の問題
　＊フロイト:ドラの症例　　＜成田第6章「転移逆転移と解釈」（成田「精神療法家の仕事」より）
#7　第7講　第8章　劇としての面接
#8　第8講　第9章　面接とケーススタディ　第10章
#9　第9講　遊戯療法論2「遊戯療法の理論と実際」（アクスライン「ディプス」）
#10　第10講　遊戯療法論3　ウィニコット「喪失に対して～（パトリックの事例）」（著作集8探求3）
#11　第11講　仕事　沈黙と言葉
#12　第12講　　仕事　見立て
#13　第13講　仕事　共感と解釈
#14　第14講　仕事　　転移と逆転移
#15　第15講　非言語的アプローチを含めた面接の実際とまとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

土居健郎「方法としての面接」を中心に、面接の軸となる見立てが身に付くよう講師と受講生が話し合いながら学習する。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

最低限、本を読んで予習し、質問をまとめておく時間が30分、
復習に1時間程度必要である。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	ミニレポート50%、最終レポート50% 総合的に評価する。
成績評価基準	面接の基礎理論の習得と臨床実践で身につけたい技術の会得の観点から総合的に評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	土居健郎先生の「方法としての面接」は臨床家が迷ったり悩んだりした時頼りになる原点のような書物です。この本を一緒に読みながら専門的な見地から人と関わる時の原点を確認しましょう。
オフィスアワー	木曜日お昼、または5限　4307研究室、事前にメールでご連絡下さい。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特に必要ありません。

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2:電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄:1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	9784260117692	書名・版	方法としての面接		著者名	土居健郎
出版社	医学書院			備考		
【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	9784772413756	書名・版	精神療法家としての仕事		著者名	成田善弘
出版社	金剛出版			備考		

科目名	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	徳田　仁子	教員名	徳田　仁子		
実務家教員					

授業テーマ	心理支援に必要な心理学の理論、およびその心理療法実践技法の習得
授業の概要	心理支援の代表的な力動論、行動論・認知論、その他の心理療法についての基礎理論と各技法の勘所を習得する。 ①力動論に基づく心理療法の理論と方法 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ③その他の心理療法の理論と方法 ④心理に関する相談、助言、指導等への①~③までの応用 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
到達目標	1. 力動論および行動論・認知論に基づく心理療法の基礎理論を習得する。 2. 心理療法の技法の一般的理論を習得する。 3. 心理に関する相談、助言、指導等ならびに適切な支援方法の選択・調整に必要な知識を身につける。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回:オリエンテーション、心理療法を活用する際の基本的心構え、専門職としての倫理を説明する。
第2回:力動論に基づく心理療法の理論と技法①力動論に基づく心理療法の歴史とその考え方
第3回:力動論に基づく心理療法の理論と技法②力動論に基づく心理療法の基本的技法＜力動的アプローチ「無意識の構造」＞
第4回:力動論に基づく心理療法の理論と技法③現代の力動的心理療法の発展とその技法＜対象関係論「子どもの精神分析」＞
第5回:行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法①認知行動療法の理論的背景と技法＜「方法としての行動療法」【統合的心理療法の立場から考える行動療法】
第6回:行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法②認知行動療法の技法＜応用行動分析＞
第7回:家族力動の理解＜「家族の深淵」＞＜家族の気象学＞
第8回:児童虐待に対する心理的支援
第9回:自傷・自死に対する心理的支援
第10回:心理療法の原則と過程①幼児期【子どもの精神療法における治療的な展開】
第11回:心理療法の原則と過程②児童期【不登校と家族病理】
第12回:心理療法の原則と過程③思春期・青年期【アイデンティティ】
第13回:心理療法の原則と過程④壮年期・中年期【うつ病・うつ状態へのアプローチ】
第14回:心理療法の原則と過程⑤老年期【高齢者心理臨床と死】
第15回:総括:まとめと振りかえり

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

テキスト及び事前に配布する資料を読むこと、事項確認、レポート課題についてはそのつど指示する。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

テキスト及び資料を予習(2時間程度)、事項確認については復習(1時間程度)すること

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業への取組40%、授業内研究発表30%、最終レポート30%
成績評価基準	心理支援に関する理論と技法への習熟度を以下の事項に基づき総合的に評価する。 ①心理支援で必要な理論の理解　②心理支援の具体的な方法の理解　③心理支援の実際と対処や工夫についての理解と習熟
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	心理支援についての理論及び技法を理解し知っておくこと、その上で身につけて使いこなすことができるように頑張りましょう。
オフィスアワー	火曜日12時~13時　木曜日12時~13時　4307研究室　事前にメールでご連絡下さい。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2:電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄:1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	9784772410878	書名・版	子どもと大人の心の架け橋		著者名	村瀬嘉代子
出版社	金剛出版			備考		

【2】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	方法としての行動療法		著者名	山上敏子
出版社	金剛出版			備考		

【3】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	ユング心理学入門		著者名	河合隼雄
出版社	培風館			備考		

科目名	臨床心理面接特論Ⅱ				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	谷本　拓郎	教員名	谷本　拓郎、大谷　多加志		
実務家教員					

授業テーマ	心理支援に必要な心理学の理論およびその心理療法実践技法の習得
授業の概要	心理支援の代表的な力動論、行動論、認知論、その他の心理療法についての基礎理論と各技法の勘所を習得する。 ①力動論に基づく心理療法の理論と方法 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ③その他の心理療法の理論と方法 ④心理に関する相談、助言、指導等への①~③までの応用 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
到達目標	1. 力動論および行動論・認知論に基づく心理療法の基礎理論を習得する。 2. 心理療法の技法の一般的理論を習得する。 3. 心理に関する相談、助言、指導等ならびに適切な支援方法の選択・調整に必要な知識を身につける。

♦授業計画

<担当形態>	オムニバス	

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　オリエンテーション
第2回　心理臨床面接の実際
第3回　実務における面接法
第4回　アセスメントとフィードバックに向けた面接法
第5回　グループワークの実際
第6回　グループワーク体験①
第7回　グループワーク体験②
第8回　中間のまとめ
第9回　傾聴と共感
第10回　関係について
第11回　遊戯療法
第12回　母子並行面接
第13回　箱庭療法
第14回　スーパービジョンと事例研究について
第15回　まとめ

※担当：第1回（谷本、大谷）、第2回から第8回（谷本）、第9回から第15回（大谷）

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

講義に加え、演習を通じて、より体験的に学びを深めます。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

授業内容を個別に振り返ることに加え、参加者同士で振り返りやフィードバックをすることも、学びを深める上で大切です。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業の出席と参加態度（60%） レポート課題（40%）
成績評価基準	演習で実践的に臨床スキルを身に付けることを目的の一つとするため、積極的な参加姿勢が求められます。 そのため、前向きに授業に取組む姿勢がとても大切です。 さらに、心理臨床の専門家としての知見を活用して演習に臨めているか、演習を通じて自己理解を進められているか、疑問の解決に努められているかなども評価基準となります。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	心理支援についての理論及び技法を理解し知っておくこと、その上で自分自身で使いこなせることが大切だと思います。
オフィスアワー	＜谷本拓郎＞ 研究室：慈光館4階4304 オフィスアワー：月・火・水・木曜日の授業時間以外 ※個別の質問などある場合は、事前に御連絡ください。 ＜大谷多加志＞ 研究室：慈光館4階4302 オフィスアワー：火曜日4限 ※事前にメール（t-otani@mail.koka.ac.jp）でお問合せ下さい。上記時間以外でも対応いたします。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

授業時にPC等の機器は、原則として使用を求めない。

科目名	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	大谷　多加志	教員名	大谷　多加志		
実務家教員					

授業テーマ	乳幼児期から学童期の子どもの知的発達の側面を評価する知能検査や発達検査について、具体的な実施方法や現場での活用について実践的に学習する
授業の概要	子どもに対して心理的支援を行うにあたっては、子どもの知的・発達的水準を評価し、知的発達の状態や特性を理解しておくことが重要である。この授業では、乳幼児や学童期のアセスメントにおいて用いられている新版K式発達検査およびKABC-Ⅱを中心に、検査の実施手順および臨床的活用のための基本的な知識を学習し、子どもの認識世界について発達的な視点も含めて理解する基盤を形成する。
到達目標	それぞれの心理的アセスメントの意義、理論、方法を理解するとともに、実際に施行し、解釈とフィードバックまでできることを目指す。

◆授業計画

〈担当形態〉	単独	

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. オリエンテーション
2. 知能検査、発達検査の意義
3. 乳幼児に対する発達アセスメント①
4. 乳幼児に対する発達アセスメント②
5. 乳幼児に対する発達アセスメント③
6. 乳幼児に対する発達アセスメント④
7. 乳幼児に対する発達アセスメント⑤
8. 乳幼児に対する発達アセスメント⑥
9. 乳幼児に対する発達アセスメント⑦
10. 乳幼児に対する発達アセスメント⑧
11. 学童児に対するアセスメント①
12. 学童児に対するアセスメント②
13. 学童児に対するアセスメント③
14. 学童児に対するアセスメント④
15. まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

講義と演習方式によって授業を進める。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

本授業で取り上げる心理検査の実施法については、可能な限り授業時間外でも検査用具に触れる機会を作り、扱い慣れるように心がけてほしい。
(各回およそ1時間程度と想定)

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	授業への参加姿勢や演習における習熟度、講義内容の理解度から評価する。参加姿勢や習熟度は、演習や議論への参加姿勢や発言内容により評価する。また、理解度については各回の小レポートによって総合的に評価する
成績評価基準	授業への参加・習熟　50% 各回の小レポート　50%
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	心理検査の実践やそれに基づくアセスメントの力を身につけておくことは、臨床現場での心理実践においても非常に重要です。 各検査の実施方法を習熟するためには、ロールプレイ形式で検査を実施し、練習を重ねます。また検査結果をもとに、具体的な支援や保護者・関係者への助言について考えていく、グループディスカッションなども行います。 各検査のマニュアルや検査用具は心理学科コモンズにも揃えてありますので予習・復習に役立ててください。
オフィスアワー	個人研究室:慈光館4302 オフィスアワー:火曜日4限 ※あらかじめ連絡をお願いします メール:t-otani@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

なし

科目名	臨床心理査定演習Ⅱ				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	谷本　拓郎	教員名	谷本　拓郎		
実務家教員					

授業テーマ	心理アセスメントの実践スキルを体験的に学ぶことを目的とします。 臨床場面で多用される知能検査や投影法について、知識の修習と実践を通じて、学びを深めます。
授業の概要	心理査定について、実務に有効なスキルを身に付ける視点で、実践的に学びます。 心理査定について概論的に学んだ後、各論として、主に知能検査と投影法について、体験を通じて学んでいきます。実際の道具を使って、実習し、整理の仕方や結果の読み方について学びます。 心理検査の実践を通して、治療的に検査をするとはどういうことなのかについて考えます。
到達目標	1. 心理査定をする上での基本的態度を身につける。 2. 知能検査の概要と具体的な実施方法を理解する。 3. 投影法について体験し、心理臨床に活用するための解釈法を学ぶ。

◆授業計画

〈担当形態〉	単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回：オリエンテーション
第2回：心理査定概論
第3回：知能検査(WAIS-Ⅳ)の実践的理解①
第4回：知能検査(WAIS-Ⅳ)の実践的理解②
第5回：知能検査(WAIS-Ⅳ)の実践的理解③
第6回：知能検査(WAIS-Ⅳ)の実践的理解④
第7回：知能検査(WAIS-Ⅳ)の実践的理解⑤
第8回：知能検査のまとめと振り返り
第9回：投影法概論
第10回：投影法の実践的理解①
第11回：投影法の実践的理解②
第12回：投影法の実践的理解③
第13回：投影法の実践的理解④
第14回：投影法の実践的理解⑤
第15回：投影法のまとめと振り返り

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

本授業では、WAIS-Ⅳと投影法（バウムテストやロールシャッハテスト）を実践し、結果の解釈法を学びます。
ロールシャッハテストでは、エクスナー式について学びます。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

授業内容の復習に加え、関連する文献を読んで、自主的に知識の修習に励むことが大切です。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	授業への出席（10%） 授業内演習への取組態度（60%） レポート課題（30%）
成績評価基準	演習は、ロールプレイや事例検討を行いますので、積極的な態度で取り組んでください。体験から得た知識や所感を蓄積することが大切です。 レポート課題については、自分が持ち得る知識を活用し、分からない点は調べて、自分なりに考察・所見を作成することを目的としたものを提示します。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	演習と課題のどちらも、専門的な内容に取り組みことになりますが、前向きに楽しみながら取り組んでいきましょう。
オフィスアワー	研究室番号：慈光館4304号室 オフィスアワー：月・火・水・木曜日の授業時間以外 ※事前に連絡いただけると助かります 連絡先：ta-tanimoto@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

科目名	臨床心理基礎実習Ⅰ				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	今西　徹	教員名	今西　徹、鳴岩　伸生		
実務家教員					

授業テーマ	カウンセリング（心理療法）における基本的な態度、技術を学ぶ
授業の概要	本授業の目的は、「臨床心理面接の基礎的な技法や姿勢」を実践を通して学ぶことである。 臨床心理面接の技術的な基本を身につけることに終わらせず、臨床心理面接を行う上での基本姿勢や倫理的配慮についても、積極的かつ主体的に学んでほしい。 また、電話対応や書類・物品の管理など、カウンセリングセンターのスタッフとしての基本的な事柄を身につけ、面接に関連した手続き等を学ぶ中で、臨床心理面接が、面接室外での取り組みと、様々なスタッフの支えによって成立していることも学びとってもらいたい。
到達目標	1.カウンセリング、心理療法の基本的な姿勢、技術、考え方を身につける。 2.カウンセリングセンターを運営するスタッフとしての技能を身につける。 3.臨床心理士としての倫理を理解し、身につける。

♦授業計画

〈担当形態〉　複数

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1-2回：カウンセリングセンター・オリエンテーション カウンセリング室，プレイ室や事務室の使用の仕方についての概要を把握する。
第3-4回：ビデオや文献による実習1 カウンセリング場面のビデオを詳細に検討したり，カウンセリングの基礎に関する文献を検討したりすることで、カウンセリングの実際的な援助のあり方を身につける。
第5-6回：ビデオや文献による実習2
第7-8回：ビデオや文献による実習3
第9-10回：カウンセリング・ロールプレイ実習1 ロールプレイを行い，面接のあり方を詳細に検討する。
第11-12回：カウンセリング・ロールプレイ実習2
第13-14回：カウンセリング・ロールプレイ実習3
第15-16回：カウンセリング・ロールプレイ実習4
第17-18回：カウンセリング・ロールプレイ実習5
第19-20回：カウンセリング・ロールプレイ実習6
第21-22回：カウンセリング・ロールプレイ実習7
第23-24回：カウンセリング・ロールプレイ実習8
第25-26回：ケース・オリエンテーション1 電話での様々な問い合わせへの対応や相談申込受付，面接までの手順，料金の受取り，記録等の関連書類の扱い，専門家として順守すべき倫理事項の数々，その他ケースを担当するにあたっての必要事項について詳しく説明する。
第27-28回：ケース・オリエンテーション2
第29-30回：ケース・オリエンテーション3

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

実習とその後の討論。適宜レポートを課す。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

授業は実習形式なので、授業前と授業後に関係する心理療法の文献を並行して読み込んでいくこと。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	・授業への取り組み（50%） ・レポート課題（50%）
成績評価基準	全出席が基本である。 授業への取り組み：ディスカッションへの参加、課題文献の読み込みの深さ、ロールプレイへの取り組み方などにより評価する。 レポート課題：現象を正確に記述できているか、指定されたポイントをすべて押さえられているか、考察がポイントを的確に押さえ、かつ深まりがあるか、といったことにより評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	この授業を修得することが、心理実践実習Ⅰ・Ⅱを履修し実習を行っていくための条件となる。
オフィスアワー	オフィスアワー：今西は月～木、鳴岩は月、水、木、金の授業、会議時間以外（詳細は各教員に問い合わせること）

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

ICレコーダーを使用し、逐語録を作成する。

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4-422-11196-4	書名・版	河合隼雄のカウンセリング入門		著者名	河合隼雄
出版社	創元社			備考		

【2】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	臨床心理学2		著者名	河合隼雄（編）
出版社	創元社			備考		

科目名	臨床心理基礎実習Ⅱ				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	今西　徹	教員名	今西　徹、石川　敬子		
実務家教員					

授業テーマ	カウンセリング、臨床心理面接の基礎を学ぶ。
授業の概要	基礎実習Ⅰで言語的なやり取りが主であるカウンセリングのロールプレイを行った経験を踏まえ、その底に流れている非言語的なやり取りのありようを体験し、総合的に心理療法について捉えられるようになることが本授業の目的である。カウンセリングの基本的な技法や姿勢をさらに深く学ぶとともに、言語的なやりとりだけではなく、様々な非言語的な媒介を通してのコミュニケーションのあり方、表現の受け止め方、援助者としてのあり方の基礎を学ぶ。具体的には、箱庭療法およびプレイセラピーのロールプレイを行う。また、実際に子どもとの交流を体験する実習も行い、より実践的に学ぶことを試みる。
到達目標	1.心理療法におけるイメージ表現など、非言語的な表現に対する理解を深める。 2.心理療法における非言語的な通路における交流を体験し、実践に活かす準備をする。 3.心理療法とは何かということについて理解を深める。

♦授業計画

〈担当形態〉	複数

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1-2回：オリエンテーション、概説
第3-4回：箱庭制作の実習。実際に箱庭を制作することと、制作を見守ることの両方を体験し、検討する。
第5-6回：箱庭制作の実習。実際に箱庭を制作することと、制作を見守ることの両方を体験し、検討する。
第7-8回：箱庭制作の実習。実際に箱庭を制作することと、制作を見守ることの両方を体験し、検討する。
第9-10回：箱庭制作の実習。実際に箱庭を制作することと、制作を見守ることの両方を体験し、検討する。
第11-12回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第13-14回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第15-16回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第17-18回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第19-20回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第21-22回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第23-24回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第25-26回：プレイセラピーのロールプレイ。セラピスト役とクライエント役の両方を体験し、検討する。
第27-28回：子育て支援事業である親子教室に参加し、実際に子どもとの関わりを持つことを通して援助の仕方を学ぶ。
第29-30回：子育て支援事業である親子教室に参加し、実際に子どもとの関わりを持つことを通して援助の仕方を学ぶ。

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

実習とその後の討論。適宜レポートを課す。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

授業は実習形式なので、授業前と授業後に関係する心理療法の文献を並行して読み込んでいくこと。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	・授業への取り組み（50%） ・レポート課題（50%）
成績評価基準	全出席が基本である。 授業への取り組み：ディスカッションへの参加、課題文献の読み込みの深さ、ロールプレイへの取り組み方などにより評価する。 レポート課題：現象を正確に記述できているか、指定されたポイントをすべて押さえられているか、考察がポイントを的確に押さえ、かつ深まりがあるか、といったことにより評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	この授業を修得することが、心理実践実習Ⅰ・Ⅱを履修し実習を行っていくための条件となる。
オフィスアワー	オフィスアワー：月～木 授業、会議時間以外（詳細は各教員に問い合わせること）

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

授業内での機器使用はなし。

科目名	心理実践実習Ⅰ				
開講年度/学期	2022年度　前期～後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	今西　徹	教員名	今西　徹、鳴岩　伸生、千野　美和子		
実務家教員					
授業テーマ	心理に関する支援を要する者の心理状態の分析及び相談その他の心理的援助を行うための専門的知識及び技術を身につける				
授業の概要	本授業は、以下の3つの知識・技能・姿勢の理解と修得を目的とするものである。 ①心理的対人援助に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、心理に関する支援を要する者等に対する支援を実践しながら、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等における専門的かつ発展的な知識と技能を習得する。 ②学内カウンセリングセンターにおいて、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズを心理力動的かつ総合的な観点から把握し、効果的な個別の支援計画ないし治療方針を作成できることを目指す。 ③学外実習オリエンテーションや学外実習の報告会を含むケースカンファレンスへの参加を通じて、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。				
到達目標	(1)心理支援を要する者やその関係者への、(a)コミュニケーション、(b)心理検査、(c)心理面接、(d)地域支援等に関する知識及び技能の修得 (2)心理支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (3)心理支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解				

◆授業計画

<担当形態>	複数

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

前期15回、後期15回、合計30回の授業を実施する。
実習内容の詳細(授業時間外の実施を含む)については以下の通りである。

(1) カンファレンスへの参加〔毎週〕
インテーク検討会およびケース検討会に参加し、ディスカッションを通して、心理に関する支援を要する者への理解とニーズを把握する(120時間以上)
(2) 学外施設での見学実習〔司法・犯罪分野〕
学外施設において、心理に関する支援を要する者等に対する支援の現場を見学し、公認心理師の職務について理解を深める。事前・事後指導を行う。報告書及びレポート課題を提出する(10時間程度)
(3) 親子教室
京都光華女子大学大学院カウンセリングセンター(大学院附属の心理相談室)の地域支援事業である親子教室に準備段階から参加し、遊びを通した情緒的コミュニケーションや育児支援について学ぶ。(5時間程度)
(4) 陪席訓練〔随時〕
カウンセリングセンターに来談するクライエントのインテーク面接(専任相談員及び専任教員が担当)に陪席し、クライエントの主訴、現病歴、パーソナリティ、家族、ソーシャルサポート、心理検査等の情報を総合して見立てや治療方針(支援計画)を立てる。報告書を作成し、インテーク検討会で報告する。(10時間以上)
(5) ケース担当〔毎週〕
修士課程1年生の後期から心理面接をカウンセリングセンターで担当する。必要に応じて心理検査を実施する(15時間以上)

本科目における修士課程1年次の実習時間は160時間以上。うち担当ケースに関する実習時間(上記(3)(4)(5))は30時間以上。なお上記(4)(5)については、記録作成等の時間も含む。

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

実習および演習形式
本科目における修士課程1年次の実習時間は160時間以上。うち担当ケースに関する実習時間(上記(3)(4)(5))は30時間以上。なお上記(4)(5)については、記録作成等の時間も含む。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

実習での成果を吟味し確実に身につけるため、実習後には記録等をもとに、専門の文献を参照しつつ、各自で振り返りを行うこと(週に3時間程度)。その際、疑問点などがあれば、次回の授業時に質問すること。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	・実習への取組み(50%) ・課題と授業への取組み(50%)
成績評価基準	・実習への取組み・・・実習への積極的な取り組み、担当ケースの理解度、対応の適切性、心のつまずきと成長への関心、多職種連携や地域連携への理解などにより評価する。 ・課題と授業への取組み・・・実習報告の適切性、ディスカッションへの積極的参加、心理的支援に関する関心や職業倫理の高さなどにより評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	・次年度「臨床心理実習(心理実践実習Ⅱ)」の履修には、本科目の単位取得が必須の条件となるため、必ず受講し、到達目標に掲げた知識・技能・姿勢の習得に励むこと。 ・学外実習および付属臨床施設(カウンセリングセンター)での実習に関して、院生は全員保険に加入する。 ・学内における実習は、原則として公認心理師および臨床心理士の資格をもった専任教員が指導を担当する。
オフィスアワー	【今西】 個人研究室は慈光館4階個人研究室4309 オフィスアワー:月・火・水・木曜日の授業および会議時間以外 ※必ず事前にメール等で予約をしてください。 メールアドレス:imanishi@mail.koka.ac.jp 【千野】 オフィスアワー:授業および会議時間以外 ※必ず事前にメール等で予約をしてください。 メールアドレス:m-senno@mail.koka.ac.jp 【鳴岩】 研究室:慈光館4F個人研究室4305 オフィスアワー:月・水・木・金曜日の授業および会議時間以外 ※必ず事前にメール等で予約をしてください。 メールアドレス:naruiwa@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

授業内では、適宜プロジェクターなどを使用。

科目名	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)				
開講年度/学期	2022年度　前期～後期	単位※入学年度により異なる場合あり	7	配当年次※入学年度により異なる場合あり	2
代表教員	長田　陽一	教員名	長田　陽一、徳田　仁子、大谷　多加志		
実務家教員					

授業テーマ	心理支援に関する高度な理解と実践力・応用力を身につける
授業の概要	心理的な支援を必要とする人の心理状態を適切に理解し、カウンセリング(心理療法)の技能を始め、助言、指導その他の援助を行うための実践技能を習得する。
到達目標	心理臨床における専門技能の基礎を身につける。また、ケースカンファレンス等を通して批判的・客観的な視点を養うことで、自己研鑽の姿勢を涵養する。

◆授業計画

<担当形態>	複数

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

前期15回、後期15回、合計30回の授業を実施する。実習内容の詳細(授業時間外の実施を含む)については以下の通りである。

(1) カンファレンスへの参加および担当ケースの報告〔毎週〕
インテーク検討会およびケース検討会に出席し、また心理面接での担当ケースを報告することで、心理に関する支援を要する者への理解とニーズ及び支援の計画を多角的に検討する。(120時間以上)

(2) 陪席訓練〔随時〕
京都光華女子大学大学院カウンセリングセンター(大学院附属の心理相談室)に来談するクライエントのインテーク面接(専任相談員及び専任教員が担当)に陪席し、クライエントの主訴、現病歴、パーソナリティ、家族、ソーシャルサポート、心理検査等の情報を総合して見立てや治療方針(支援計画)を立てる。報告書を作成し、インテーク検討会で報告する。(20時間以上)

(3) 学外実習オリエンテーション
各学外実習先の仕事内容、実習内容を知り、実習においての心構えを身につける。実習担当教員による実習指導マニュアルや記録ノート等の説明、各実習施設の実習担当教員による個別指導、実習施設の実習指導者による事前説明を含む(5時間程度)

(4) 学外実習〔毎週〕
主要3分野(保健医療、福祉、教育)の学外実習施設において、心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践する。医療機関での実習は必須とし、半期毎に施設を交代する(通年型実習)。実習の頻度は週1日、期間は前期・後期を合わせて6ヵ月以上とする。毎回、日誌及び報告書を作成し、実習指導者又は実習担当教員の指導を受ける。
学外実習では分野毎の心理的な支援のあり方を学ぶとともに、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める(170時間以上)

(5) 学外実習ふりかえり〔毎月〕
それぞれの院生が学外実習施設(臨床心理関連施設)での実習記録をまとめ、達成度や課題等を整理する。レポートを提出し、実習担当教員の指導を受ける。(5時間程度)

(6) ケース担当〔毎週〕
心理面接をカウンセリングセンターで担当する。必要に応じて心理検査を実施する(45時間以上)

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

・学外および学内の実習施設での実習、担当ケースに関する発表とディスカッション。
本科目における修士課程2年次の実習時間は360時間以上。担当ケースに関する実習時間(上記(2)(4)(5)(6))は240時間以上(うち、学外施設での当該実習時間は170時間以上)。なお上記(2)(4)(6)については、記録作成等の時間も含む。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

・実習での成果を吟味し確実に身につけるため、実習後には記録等をもとに、専門の文献を参照しつつ、各自で振り返りを行うこと(週に3時間程度)。その際、疑問点などがあれば、次回の授業時に質問すること。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	・実習への取組み(50%) ・課題と授業への取組み(50%)
成績評価基準	・実習への取組み・・・実習への積極的な取り組み、担当ケースの理解度、対応の適切性、心のつまずきと成長への関心、多職種連携や地域連携への理解などにより評価する。 ・課題と授業への取組み・・・実習報告の適切性、ディスカッションへの積極的参加、心理的支援に関する関心や職業倫理の高さなどにより評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	・臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)の履修にあたっては、「心理実践実習Ⅰ」「臨床心理基礎実習ⅠⅡ」の実習科目を前年度までにすべて修得していることが必要である。また、1年次配当のその他の必修科目(講義・演習科目)を前年度までにすべて修得していることが、学外実習参加の要件である。 ・学外実習および付属臨床施設(カウンセリングセンター)での実習に関して、院生は全員保険に加入する。 ・学内における実習は、原則として公認心理師および臨床心理士の資格をもった専任教員が指導を担当する。 ・この科目は、大学院心理学研究科臨床心理学専攻の学生のみを対象とする。
オフィスアワー	オフィスアワー:月～金　授業、会議時間以外(詳細は各教員に問い合わせること)

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

適宜、指示する

科目名	臨床心理実習Ⅱ				
開講年度/学期	2022年度　前期～後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	2
代表教員	長田　陽一	教員名	長田　陽一、千野　美和子		
実務家教員					

授業テーマ	カウンセリング（心理療法）の技法及び心理専門職としての姿勢を身に付ける
授業の概要	学内実習施設（大学院附属カウンセリングセンター）でのケース担当に関して、学内及び学外の専門家（臨床心理士有資格者）によるスーパーヴィジョンを受け、ケース理解及び今後の対応に役立てる。
到達目標	・ケース検討会（ケースカンファレンス）後の考えを整理し理解を深める（学内担当教員によるスーパーヴィジョン）。 ・小グループでケース担当に関する課題についてより広い視点から検討を行い、心理臨床に関する問題意識や自己研鑽の意識を高める（グループ・ディスカッション）。 ・学外での個別スーパーヴィジョンの体験を振り返ることで、そこで得た知識や技能をより確実なものとする（学外スーパーヴィジョンの報告と振り返り）。

◆授業計画

<担当形態>	複数

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

〔前期〕
1. オリエンテーション①（事例検討及び報告書の作成）
　〔担当：長田、千野〕
2～9. 学内担当教員によるスーパーヴィジョン（ケース報告後の振り返り）①
　〔担当：長田〕
10. グループ・ディスカッション①（ケース理解と支援計画）
　〔担当：長田、千野〕
11～14. 学内担当教員によるスーパーヴィジョン（ケース報告後の振り返り）②
　〔担当：千野〕
15. 学外スーパーヴィジョンの報告と振り返り①
　〔担当：長田、千野〕

〔後期〕
16. オリエンテーション②（心理職の自己研鑽）
　〔担当：長田、千野〕
17～24. 学内担当教員によるスーパーヴィジョン（ケース報告後の振り返り）③
　〔担当：長田〕
25. グループ・ディスカッション②（ケース担当をめぐる課題）
　〔担当：長田、千野〕
26～29. 学内担当教員によるスーパーヴィジョン（ケース報告後の振り返り）④
　〔担当：千野〕
30. 学外スーパーヴィジョンの報告と振り返り②
　〔担当：長田、千野〕

別途、授業時間外実習（学外臨床心理士による個別スーパーヴィジョン30回以上）を設ける。

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

個別または小グループによる心理臨床の実践の報告、指導、ディスカッションを行う。教科書的な知識の確認でなく、各人の臨床実践をたどり直しながら、そこに生じる様々な気づきを重視する体験的学習を行う。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

・スーパーヴィジョンでの指摘や気づきをもとにケース理解を深めるため、実習後に各自で振り返りを行うこと（週に2時間程度）。その際、疑問点などがあれば、次回の授業時に質問すること。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	・実習への取組み（50%） ・課題と授業への取組み（50%）
成績評価基準	・実習への取組み・・・実習への積極的な取り組み、担当ケースの理解度、対応の適切性、心のつまずきと成長への関心、多職種連携への理解などにより評価する。 ・課題と授業への取組み・・・実習報告の適切性、ディスカッションへの積極的参加、心理臨床に関する問題意識や関心の高さ、自己研鑽の意識などにより評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	・臨床心理実習Ⅱの履修は「心理実践実習Ⅰ」「臨床心理基礎実習ⅠⅡ」の実習科目をすべて修得していることが条件である。 ・学内及び学外における実習（スーパーヴィジョン）は、原則として臨床心理士の資格をもった専任教員が指導を担当する。 ・この科目は、大学院心理学研究科臨床心理学専攻の学生のみを対象とする。
オフィスアワー	オフィスアワー：月～金　授業、会議時間以外（詳細は各教員に問い合わせること）

科目名	心理学研究法特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	酒井　浩二	教員名	酒井　浩二		
実務家教員					

授業テーマ	学修・研究活動に必要な心理学研究法の基礎と実際について学ぶ
授業の概要	実証的な心理学研究法の基礎と実際について幅広く学び、研究法と密接に関連したデータ分析方法についても理解を深めることを目的とする。さらに、量的データ分析方法を用いた論文と質的データ分析方法を用いた論文を読み、研究法の観点から考察する。
到達目標	1. 代表的な心理学研究法に関連する基礎概念と実施プロセスについて理解できる 2. 研究法とデータ分析法の知識にもとづき、具体的な研究計画を立てることができる 3. 研究法の観点から先行研究を検討できる

◆授業計画

〈担当形態〉	単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. 科学と実証、実験と観察
2. 実証の手続き
3. 実験的研究
4. 独立変数の操作
5. 従属変数の測定
6. 剰余変数の統制
7. さまざまな実験法、コンピュータ・シミュレーション
8. 心理学に特有な問題
9. 観察的研究
10. 調査法
11. 観察法
12. 検査法
13. 面接法
14. 研究の実施、結果の解釈
15. 統計的分析、研究報告

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

講義形式と演習形式で行います。授業で質問やコメントできるように、次回授業の範囲のテキスト章を読んでメモしておいてください。
発表については、各人の関心のある先行研究についてレジュメにまとめ、研究法の観点から考察するものとします。発表の際のレジュメを、ディスカッションを踏まえて加筆したものを最終レポートとする予定です。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

教科書の予習、復習について、1時間程度の授業外学習時間が望ましいです。自分自身の修士論文作成に必要と思われる研究法については、授業時間以外にも積極的に学んでください。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【対面】A:16週目に試験実施(追試験対象)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)	80分	試験持込み内容	持ち込み不可

◆成績評価

成績評価方法	授業への出席、取り組み(30%) 発表(20%) 期末試験(50%)
成績評価基準	出席と授業への参加度:授業中への取組状況で評価します 発表:授業内容に関する発表内容で評価します 期末試験:授業で紹介した教科書の理解度をテストの点数で評価します
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	授業で扱う教科書は、研究法についてある程度専門的に網羅的に説明されています。みなさんの研究の方法論を再確認したり、新たな研究法を見出したりするのに役立ちますので、じっくりと読み込んでみてください。
オフィスアワー	研究室:賢風館3F 303 オフィスアワー:木曜日10:30～12:00、金曜日10:30～12:00 メールアドレス:rb064@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2:電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄:1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	9784641220867	書名・版	心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし(補訂版)		著者名	高野陽太郎・岡隆
出版社	有斐社			備考		

科目名	心理統計法特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	土居　淳子	教員名	土居　淳子		
実務家教員					

授業テーマ	多変量解析法の基礎と活用
授業の概要	修士論文における研究で必要となる主要な統計解析法を実践的に学びます。本科目では，基本的なデータ解析から多変量解析まで，統計ソフトSPSSを使用して，多くの例題を実際に分析しながら学習します。多変量解析としては，因子分析，回帰分析について，その手法と用途について学びます。その中でとくに，直面する問題に対して，適切な手法の選択とその適用ができる能力の習得を目指します。
到達目標	(1) 回帰分析及び因子分析を適切に用いることができるようになる。 (2) 回帰分析及び因子分析を用いた分析結果を適切に読み取れるようになる。 (3) 統計的仮説検定の考え方を理解し、平均値差に関する検定（t検定、分散分析）が行えるようになる。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1　授業のガイダンス、SPSSの基本操作
2　記述統計の復習
3　統計的推測の基礎
4　クロス集計表の検定
5　平均値差の検定（その1）
6　平均値差の検定（その2）
7　効果量と信頼区間、メタ分析
8　重回帰分析
9　因子分析
10　　総合分析演習1
11　総合分析演習2
12　共分散構造分析1
13　共分散構造分析2
14　共分散構造分析3
15　まとめと振り返り

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

授業の最初に、事前学習内容を発表していただきます（分担発表）。

各回の授業の進め方は原則として，次のとおりです．
① 前回の宿題の解答と解説
② 今回の学習内容についての学生の発表
③ 分析演習
宿題は光華ナビの課題提出機能を使って提出してもらいます．

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

毎回の授業内容を、テキストをもとに予習し、疑問点や理解できない箇所について授業で質問すること。予習は60分程度、復習時間および宿題に取り組むのに30分程度が必要。授業内容の発表者になった場合は、2時間程度の準備が必要となる。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	小課題：5点×10回＝50点 発表：15点×2＝30点 期末課題：20点
成績評価基準	小課題：提出された課題を完成度に応じて5点満点で評価します。提出期限を過ぎた場合、解説後に再提出された課題に対しては、3点満点で評価します。 発表：テキスト内容の理解度、発表のわかりやすさ、取組姿勢の3つの観点で評価します。 期末課題：目的に応じて適切な分析を行うことができるか、また、その結果を適切に報告することができるかを評価します。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	記述統計や統計的仮説検定の基礎、SPSSの基本操作はすでに学習済みであることを前提としている。未習の場合は、必ず受講開始までに自習しておくこと。
オフィスアワー	研究室：賢風館2F202　　メール：jdoi@mail.koka.ac.jp オフィスアワー：月曜日13：30～14：20 木曜日12：30～13：30

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC実習室を利用します

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売なし		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考	初回授業で指示します	

科目名	発達心理学特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	礪波　朋子	教員名	礪波　朋子		
実務家教員					

授業テーマ	発達心理学の知識と理論を身につけ、実践に結びつける力を養う
授業の概要	胎児期から老年期までのヒトの発達について、身体、認知、自己、社会性等の各領域の発達を概説する。また、発達心理学の歴史を紹介し、発達心理学の研究法・発達理論について考察する。さらに、発達障害と発達支援について具体的事例を挙げ、検討する。ヒトの発達の道筋を理解し、そのうえで、子どもの発達を支えるためにどのような関わりが望まれるかについて考える。
到達目標	1. 発達心理学の基礎知識を習得する 2.発達心理学的な視点を理解する 3. 発達支援の方法を理解する

◆授業計画	
<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. オリエンテーション
2. 身体と運動機能の発達
3. 知覚・記憶能力の発達
4. 言語・思考の発達
5. 知能の発達
6. 自己と社会性の発達
7. 遺伝と環境
8. 発達心理学の歴史
9. 発達心理学の方法と理論
10. 子どもの問題行動
11. 発達障害1
12. 発達障害2
13. 発達障害3
14. 障害児者の発達支援
15. まとめ＜レポート提出＞

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

主として教科書を使用して、講義形式で行う。必要に応じて資料を配布し、ビデオ等の視聴覚教材を用いる。
前回授業時に指定された教科書の章を事前に読んでいることを前提に授業を進める。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

教科書の次回の講義内容にあたる章を読み、わからない用語等について調べてくること。また、前回までの講義内容について必ず復習し、わからない点があれば、次回授業時に質問すること。予習・復習時間についてはおおよそ2時間程度が望ましい。

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	授業に対する取組状況と、レポートの成績により評価を行う。 配点ー授業に対する取組状況(30%)、レポート(70%)
成績評価基準	授業に対する取組状況：出席や日々の授業への取組状況等を総合的に評価する。 レポート：第１５回目の授業終了後にレポートを提出する。レポート課題については授業内で発表する。指定されたテーマについて、授業内容をよく理解した上で、要点を抑えて資料をまとめ、さらに自分なりの考察が行えているか評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	必ず教科書を購入のうえ、各回の授業までに該当する章を読んでくること。
オフィスアワー	研究室：慈光館4F 4303研究室 オフィスアワー：前期　木曜ー昼休み（12:00-12:50)、金曜ー昼休み(12:00-12:50) ※基本的には前日までにメール(tonami@mail.koka.ac.jp宛)で予約をいれて下さい。その際、必ず、名前と連絡先をお知らせ下さい。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)
対面授業においては教科書を基に授業を行う。 新型コロナ感染症拡大防止のため、オンライン授業への切り替えが必要となった場合は、パワーポイントと動画の再生が可能なPCを使用して各自授業に参加すること。

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4779502064	書名・版	発達心理学		著者名	福本　俊・ 西村純一（編）
出版社	ナカニシヤ出版			備考		

科目名	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	竹村　洋子	教員名	竹村　洋子		
実務家教員					

授業テーマ	
授業の概要	
到達目標	

♦授業計画

<担当形態>		

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

光華navi参照

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	
成績評価基準	
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	
オフィスアワー	

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【2】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【3】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【4】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【6】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【7】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【8】学内販売なし(自由記述)

科目名	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	竹西　正典	教員名	竹西　正典		
実務家教員					

授業テーマ	犯罪・非行への心理学的理解と支援
授業の概要	罪種ごとの犯人の類型・動機、犯行態様を概説し、犯罪に関わる要因(パーソナリティ・認知特性)と犯罪・非行の理論について説明する。 その上で、司法・犯罪分野における心理学的支援について述べる。
到達目標	1. 司法・犯罪分野における実証的研究と理論を理解する。 2. 司法・犯罪分野における心理学的支援のあり方を理解する。 3. 司法・犯罪分野における心理学的支援の実践の実態を理解する。

♦授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回:犯罪者の心理と行動①　―連続殺人―
第2回:犯罪者の心理と行動②　―大量殺人―
第3回:犯罪者の心理と行動③　―ストーキング・ドメスティックバイオレンス―
第4回:犯罪者の心理と行動④　―性犯罪―
第5回:犯罪のリスク要因①　―生物学的要因―
第6回:犯罪のリスク要因②　―パーソナリティ要因―
第7回:犯罪のリスク要因③　―認知特性―
第8回:犯罪の理論①　―緊張理論―
第9回:犯罪の理論②　―分化的接触理論―
第10回:犯罪の理論③　―統制理論―
第11回:非行の理論　―ラベリング論・発達類型論―
第12回:心理的支援①　―少年鑑別所・少年院・刑事施設―
第13回:心理的支援②　―家庭裁判所(家事事件)―
第14回:心理的支援③　―家庭裁判所(少年事件)―
第15回:心理的支援④　―被害者支援・加害者支援―

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

資料を適宜配布しながら、講義形式で行います。
グループワークやディスカッションを併用します。
課題として小レポートを課します。
小レポートについては、次回授業時に前回授業の振り返りと共にフィードバックします。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

授業終了時に、今回のまとめと次回の予告をします。
復習として、興味を持った内容に関連する文献を読んでください。
予習として、関連する文献を検索したり、日常経験から自分の意見をまとめたりしてください。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業への取り組み状況(25%)、授業内小レポート(25%)、期末レポート(50%)。
成績評価基準	授業への取り組み状況:グループワークやディスカッションへ積極的に参加しているかを評価します。 授業内小レポート:指定テーマについて、論点と論拠を明確にしてまとめているかを評価します。 期末レポート:授業内容に関する資料に基づいて、心理学的視点から論じているかを評価します。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	学生証を忘れた場合は、申告してください。 犯罪に関する授業のため、反社会的内容を含みます。 表現には最大限配慮しますが、不快感を覚えた場合は即座に申し出て下さい。
オフィスアワー	研究室:慈光館4階研究室4301。 オフィスアワー:火、水、木、金曜日の昼休み。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

使用しません。

科目名	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)				
開講年度/学期	2022年度　前期集中	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	森本　佳奈	教員名	森本　佳奈		
実務家教員					

授業テーマ	臨床における精神医学
授業の概要	心理臨床が関わる場面は多岐に渡り、クライアントだけに留まらず家族や地域社会へと広がっている。そうした状況においては、個々の問題に目を奪われることなくクライアントの状態像を正しく見極め適切に関わることが必要である。 そのためにはケースの進行において、カウンセリングのみならず医療の必要性に対しても常に目が開かれていなければならず、その前提となる医学的知見を有していることもまた期待される。授業では、精神医学の基本的な理解が目指され、臨床の場面においてケースが一層多面的に捉えられるようになることを目標とする。
到達目標	心理臨床の場面における精神医学的な側面について基本的な知識を身につけ、さらにそれらを個別ケースへと応用するまでを視野に入れる。

♦授業計画

<担当形態>	単独	

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回:精神疾患の診察、診断について
第2回:統合失調症
第3回:気分障害
第4回:神経症性障害
第5回:依存症
第6回:人格及び行動の障害
第7回:児童思春期①
第8回:児童思春期②
第9回:その他の精神疾患
第10回:薬物療法
第11回:精神科リハビリテーション
第12回:心理療法①
第13回:心理療法②
第14回:症例提示
第15回:まとめ

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

資料の配布だけでなく、パワーポイントやロールプレイ等によって、授業がより具体的となるように進める。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

授業で取り上げた資料を振り返り、また図書館などを利用して補っておくこと。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート等】A:16週目に試験実施(追試験対象)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	・授業への参加度(60%) ・レポート(40%) 以上に基づいて評価を行う。
成績評価基準	・授業への参加度:授業で行われるディスカッション及びプレゼンテーションの自主性や独自性に基づいて評価する。 ・レポート:与えられたテーマについて、その求められているところを十分理解し、適切に表現されているかを評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	授業で使用した資料や、教科書で復習をするようにしてください。
オフィスアワー	質問などについては、授業の際、あるいはその前後に受け付ける。それ以外の対応については、適宜指示する。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

なし

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」=教科書、全員購入必須「(空欄)」=参考書
※注意2:電子教科書=2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄:1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN	978-4-260-04291-8	書名・版	標準精神医学第8版		著者名	尾崎紀夫他
出版社	医学書院			備考		

科目名	障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)				
開講年度/学期	2022年度　前期集中	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	樋口　亜瑞佐	教員名	樋口　亜瑞佐		
実務家教員					

授業テーマ	
授業の概要	
到達目標	

♦授業計画

<担当形態>		

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

光華navi参照

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法			
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	
成績評価基準	
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	
オフィスアワー	

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望	
ISBN		書名・版			著者名
出版社				備考	

【2】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望	
ISBN		書名・版			著者名
出版社				備考	

【3】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望	
ISBN		書名・版			著者名
出版社				備考	

【4】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望	
ISBN		書名・版			著者名
出版社				備考	

【6】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望	
ISBN		書名・版			著者名
出版社				備考	

【7】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望	
ISBN		書名・版			著者名
出版社				備考	

【8】学内販売なし(自由記述)

科目名	心理療法特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	千野　美和子	教員名	千野　美和子		
実務家教員					

授業テーマ	臨床心理面接の実際的問題を理解する。
授業の概要	これから実際に臨床心理面接を担当するにあたって、個人心理療法の原則となる考え方や基本姿勢を学びます。
到達目標	1. 臨床心理面接の基本的な考えを理解することができる。 2. 1. をふまえた上で、それについてある程度自分の考え方を持つことができる。 3. その上で自分の担当する臨床心理面接を行うことができる。

◆授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　オリエンテーション
第2回　心理療法の目指すもの
第3回　初めての面接
第4回　初回面接
第5回　見立て
第6回　心理テストとの関わり
第7回　心理療法における枠組み
第8回　中間のまとめ
第9回　傾聴と共感
第10回　関係について
第11回　遊戯療法
第12回　母子並行面接
第13回　箱庭療法
第14回　スーパービジョンと事例研究について
第15回　まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

毎回一つのテーマについて、疑問や意見を出し合い、考えを深めるという話し合い中心の授業とします。前もって、そのテーマに関わる文献を提示するので、それを授業までに読んで理解し自分の意見や疑問をレジュメにまとめ授業時間に発表するという形式で行います。次週、その時間の話し合いを含めて振り返りのレポートを提出してもらいます。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

予習と復習から成り立つ授業です。毎回授業前に、テーマとなる論文を読んで、自分の意見と疑問をレポートにまとめること、そして、授業後、授業中での発見、疑問、授業後のまとめなどをレポートにまとめる。これを毎回レポートとして、提出するという形をとります。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	授業中の発表と話し合いの参加度（60%）と毎回のまとめとしてのレポート（40%）
成績評価基準	発表について：文献を適切に理解した上で自分の意見をまとめ発表できているか、話し合いについて：他受講生の発表を理解して、自分の意見を述べているか、まとめのレポート：話し合いを踏まえて自分の意見を述べているかの程度
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	大学院の体験で生じてきた素朴な疑問や問題を出し合い、話し合いを通して、体験に根ざした『知』を作っていきたいと思いますので、受講生の方はどしどし意見を出してください。
オフィスアワー	授業前後の時間に質問を受け付けます。または、学内メールで連絡をください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

使用予定なし。

科目名	認知行動療法特論				
開講年度/学期	2022年度　前期集中	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	佐藤　安子	教員名	佐藤　安子		
実務家教員					

授業テーマ	
授業の概要	
到達目標	

◆授業計画		
〈担当形態〉		

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

光華navi参照

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法			
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	
成績評価基準	
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	
オフィスアワー	

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

科目名	教育分野に関する理論と支援の展開				
開講年度/学期	2022年度　前期集中	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	酒井　律子	教員名	酒井　律子		
実務家教員					

授業テーマ	「学校臨床心理学」および「教育にかかわる心理臨床」の視点から、「教育現場において生じる様々な問題とその背景」「教育分野に関する心理社会的課題および必要な支援」「心理臨床実践の理論と支援の実際」について考え理解する。
授業の概要	教育心理学と学校心理学を基盤として、教育分野、とりわけ「学校」というフィールドをめぐる子どもの心理社会的課題・心理臨床的課題の実際を理解し考えるとともに、「個」および「学校コミュニティ全体」への視座を併せもつ心理教育的支援・学校心理臨床実践・心理臨床実践について考えます。
到達目標	・到達目標1：学校をはじめとする教育分野の現場を臨床フィールドとする際に必要とされる基本事項について学び、支援の実際を自らイメージできるようになることをめざします。 ・到達目標2：教育分野に関わる心理臨床における「多職種との連携・協働」について理解し、そのありようをイメージできるようになることをめざします。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. イントロダクション／「教育分野」に関する心理臨床とそのフィールド
2. 「教育分野」に関する心理社会的・心理臨床的諸課題①：学校心理臨床と発達の視点
3. 「教育分野」に関する心理社会的・心理臨床的諸課題②：生涯発達における各発達段階と心理的諸課題
4. 「教育分野」に関する心理社会的・心理臨床的諸課題③：生涯発達における各発達段階と心理的諸課題－教育現場をめぐる諸課題（1）
5. 「教育分野」に関する心理社会的・心理臨床的諸課題④：生涯発達における各発達段階と心理的諸課題－教育現場をめぐる諸課題（2）
6. 「教育分野」に関する支援の実際①：「見立て」をめぐって
7. 「教育分野」に関する支援の実際②：教育相談機関による心理臨床実践・支援の実際
8. 「教育分野」に関する支援の実際③：コンサルテーションと個別相談活動
9. 「教育分野」に関する支援の実際④：スクールカウンセラーによる心理臨床実践・支援の実際
10. 「教育分野」に関する支援の実際⑤：スクールカウンセラーと「個」「学校コミュニティ」への視座
11. 「教育分野」に関する支援の実際⑥：連携・協働・学校コミュニティへの成熟を育む学校支援ほか
12. 「教育分野」に関する支援の実際⑦：高等教育機関と学生相談／子育て支援ほか
13. 「教育分野」の支援に関する種々のテーマ①：危機介入・緊急支援・心理教育的アプローチ
14. 「教育分野」の支援に関する種々のテーマ②：貧困・虐待／スマホ・ネット時代の諸課題ほか
15. 「教育分野」における心理職への期待と課題・まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

・主として配布資料をスライドを中心とした「講義形式」で行い、必要に応じて視聴覚資料も利用しますが、なるべく具体的事例をもとに、「質疑応答」「ディスカッション」を交えながら進めます。
・授業の中で各受講者に、事前に提示した課題テーマについて短時間の発表を行っていただくことも予定しています。（「課題テーマ」については、事前にお知らせします。）
・授業計画にある各回のテーマは、受講者の状況によって（受講者からの質疑などを受け）、より効果的な授業運営を目的として順序を入れ替えて行う場合もあります。いずれの回においても、受講者各自が主体的に各テーマと取り組み、「学校をはじめてとする、教育分野というフィールドの特徴をふまえた心理臨床実践・心理社会的支援」について、臨床的イメージを描けるようになることをめざします。
・教科書は特に定めず、当日、印刷資料を配布します。また参考図書・関連図書については、その都度、授業時にお知らせします。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

受講者の中には、「学校」や「教育」にかかわる機関での現場実習などを既に体験中の方もあるかと思います。その中で困難に感じているところ、疑問に思うところ等々を常に心に留め置き、考え続けていくことそのものが、教育分野における支援を考えていく学びに直結しています。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	①出席および授業への主体的かつ積極的な取り組み態度（40%） ②演習課題（20%） ③レポート試験（40%） 上記①～③について、総合的に評価します。
成績評価基準	・授業への参加度：授業への主体的かつ積極的な取り組み態度により評価します。 ・レポート：提出期限厳守を条件とし、期限を過ぎての提出は減点の対象とします。（レポートは受け付けます。） ※なお、授業への出席は前提であるため、出席そのものに対する加点および評価は行いません。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	本科目は、スクールカウンセラー（「学校臨床心理士」）をめざす方はもちろんですが、学齢期の子どもから高等教育機関の学生を対象とする様々な職種に関心のある方に学んでほしい科目です。また教育分野における学外実習に向けての必須事項を学ぶ機会でもあると考えています。 心理臨床に関する論文・専門書に学ぶことは勿論のことですが、常日頃から「教育」「学校」「学校心理臨床」などに関心を拓き、それらに関する種々の論文・新聞記事・特集番組などに広く接することが大切と考えます。それが深い学修につながっていくものと考えています。 そうした中で、皆さんが最も興味関心を抱いたテーマや論文について、授業中に個別に発表していただくことも予定しています。詳細については、別途、通知します。 ※担当教員：実務家教員（公立の教育相談機関をはじめ大学・民間の相談機関等において、幼児から高齢者を対象とする心理臨床実践の経験有）
オフィスアワー	質問等がある場合は、基本的に授業中に行うようにしてください（授業開始前、休み時間、授業終了後も可）。それ以外の質問等への対応方法については、授業中に別途お知らせします。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

使用機器：PC・プロジェクターを使用します。

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	川西　千弘	教員名	川西　千弘		
実務家教員					

授業テーマ	労働組織や産業に関わる人間の心理と行動について理解し、その問題の心理支援について論じる
授業の概要	人と組織の関わり、また組織の中での人の行動、および組織人であるがゆえの問題とその心理支援について考察する。また、職場のメンタルヘルスケアの在り方について考え、心身ともに健康で安全に働くために必要な枠組みについても論じる
到達目標	1、職場におけるモチベーションとストレスについて理解する¥n2、メンタルヘルスケアに関する基礎理論の理解と企業での予防的・組織的アプローチ方法について理解する。¥n3、心理職として、企業及び職場での貢献可能性について考察する

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. 産業・労働分野における心理職の役割と貢献可能性
2. 職場におけるモチベーション
3. 職場におけるメンタルヘルス（職場ストレスとその対応）
4. バーンアウト、中高年のうつ　など）
5. 心理職が職場で向き合うテーマと対応（1）（ワーク・ライフ・バランス　など）
6. 心理職が職場で向き合うテーマと対応（2）（キャリア発達における課題　など）
7. 心理職が職場で向き合うテーマ（3）（リーダーシップ　など）
8. 心理職が職場で向き合うテーマ(4)（職場コミュニケーション　など）
9. 心理職が職場で向き合うテーマ(5)（職場の安全　など）
10. 職場におけるメンタルヘルスケア(1)（セルフケアの重要性など）
11. 職場におけるメンタルヘルスケア(2)（ストレスへの気づき方と対処など）
12. 職場におけるメンタルヘルスケア(3)（職場環境等の評価と改善　など）
13. 職場におけるメンタルヘルスケア(4)（離職　復職　など）
14. 職場におけるメンタルヘルスケア(5)（職場の安全・健康づくり　など）
15. まとめ　（授業全体を通しての質問および討議）

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

1～9回目は原則的に講義形式とするが、内容によっては意見や発言を求めたり、グループ討議形式を導入することがある。10回目以降は参考書(第20巻 産業・組織心理学（公認心理師の基礎と実践） - 2019 新田　泰生（著）, 野島 一彦（監修）, 繁桝　算男（監修））を読んでいくが、履修院生各自に1章ごとを割り当てる。履修院生は、レジメを作成し、発表形式で内容を紹介し、全員でそのトピックについて討論する。
対面授業を予定しているが、全部および一部をオンライン授業(ZOOMによるリアルタイム授業を含む)に切り替えることがある。オンライン授業に切り替えた場合、授業方法や評価方法などを変更することがあり、その際は、光華ナビ掲示機能などを使って前もって通知する

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

予習については、紹介図書および新聞などに掲載される時事問題、企業で働く人の問題、経済など社会でおこる記事を読むこと、復習については授業の中で使用するプリントの内容について理解を深めることである。予習・復習時間は30分から1時間が望ましい。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	レジメ作成と発表　30%、まとめレポート他課題　70%
成績評価基準	・レジメ作成と発表　（レジメの内容、要点のまとめ方、発表態度と質疑応答の適切性などを評価する） ・まとめレポート課題　（指定されたテーマについて、授業内容の理解度、要点のまとめ方、意見の独創性などにより評価する）
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	・必要な論文・参考書などは授業中に適宜紹介する ・発表時にやむなく欠席する場合は前日までに川西に連絡すること。 ・公平性を担保するために、初回に発表担当「章」を割り当て、提出期限を全員同日として発表会レジメの提出を求める
オフィスアワー	研究室　慈光館　4306 オフィスアワー火曜日・木曜日・金曜日の授業・会議時間以外（事前連絡要） メールアドレス　kawanisi@mail.koka.ac.jp

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

①ZOOM対応が可能なPC（その際は、事前に連絡する）

科目名	心の健康教育に関する理論と実践				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	浜内　彩乃	教員名	浜内　彩乃		
実務家教員					

授業テーマ	心の健康教育とは、①こころの発達及び不安、悩みへの対処の仕方について理解する、②心身の機能の発達とこころの健康について理解する、③欲求やストレスに適切に対処するとともに、心身の調和を保つことができる、④欲求やストレスへの対処の仕方に応じて、精神的、身体的に影響が生じることがあることを理解する、ことであると言われている。さまざまな心身の不健康問題、不適応問題、学校における不登校やいじめ、その他の問題を予防し、問題を軽減・解決するための原理と実際を学習することは、心理学的援助に携わる者にとって必須のことである。本科目では、心の健康教育の意義を学び、実際に援助することのできるスキルを身につける。
授業の概要	①心の健康教育の意義を理解するとともに、学校を始めとするさまざまな臨床場面において心の健康教育の発想を活用し、心身の健康の維持増進に向けて具体的な指導方法を考えることができる。 ②心の健康教育の理論（健康心理学、ポジティブ心理学、認知行動療法、ストレス理論、他）を理解する。 ③セルフ・モニタリングの原理を理解し、その実際を指導することができるようになる。 ④ストレスマネジメントの原理を理解し、その実際を指導することができるようになる。 ⑤コミュニケーションスキル、社会的スキルの理論を理解し、社会的スキル訓練の実際を指導することができるようになる。 ⑥不安とうつの心理学的原理を理解し、不安管理訓練を指導することができるようになる。
到達目標	1. 心の健康教育に関する理論について説明できる 2. 心の健康教育に関する実践について説明できる 3. チームで協力して心の健康教育を計画・実践できる

♦授業計画

〈担当形態〉	単独	

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

授業計画
1，オリエンテーション
2，心の健康教育に関する基礎
3，行動変容のための基礎理論
4，心理教育、ストレスマネジメント教育
5，ソーシャルスキルトレーニング、問題解決訓練
6，禁煙の支援
7，アルコール健康問題への支援
8，インターネット、ゲーム依存への支援
9，自殺対策への支援
10，生活習慣の改善の支援
11，高齢者の孤立・閉じこもりへの支援
12，ひきこもり対策への支援
13，心の健康を促進させる自助グループの実際
14，危機介入
15、まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

出席と毎回のレポートで評価します

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

授業後に授業内で配布した資料等の見直しをしっかりとしてください。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業への参加度　40% 毎回のレポート　60%
成績評価基準	意欲的に授業に参加できているか。 毎回のレポートを提出し、授業内容に沿った考察ができているか。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	これまで臨床現場で実践してきたこと、学んできたことを通じてお話をできればと思います。みなさんが臨床現場に出たときに役立つ知識や自分自身の心の健康に役立つ知識をお伝えします。
オフィスアワー	研究室番号　慈光館5307室☑オフィスアワー　随時（事前にアポイントメントを取ること）□

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC(コロナ感染状況によりオンラインでの実施の可能性あり)

看護学研究科
看護学専攻

科目名	仏教の人間観				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	小澤　千晶	教員名	小澤千晶		
実務家教員					

授業テーマ	仏教の人間観・死生観と現代の科学技術と社会の根底にある人間観・死生観を対比することで、現代の人間観・死生観を客観的に考察する。
授業の概要	科学技術の発展は、健康で安全に生きられる社会をもたらしたが、同時にその発展が種々の課題をわれわれに突き付けていることも事実である。これらの課題に取り組むためには、われわれ自身の「生のありよう」を見つめ直す必要がある。本授業は、はじめに仏教の基本的な人間観を確認し、その後、現代の科学や社会を生みだした基底にある人間観を仏教の人間観と対比して考察していく。以上を通して、より重層的な人間理解を試み、自らの生のありようを考察していく。
到達目標	1. 仏教の基本的な人間観と死生観を理解し、もって本学の校訓「真実心」の内容を了解する。 2. 現代の人間観・死生観を客観的に吟味する枠組みがあることを知る。 3. 生死に関わる倫理的諸問題が、生活者たる自分自身に常に開かれている問いであることを了解する。

♦授業計画

〈担当形態〉 単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. ガイダンス
2. 仏教の出発点：仏教誕生以前のインド
3. 仏教の出発点：釈尊の誕生と出家
4. 仏教の人間観：成道
5. 仏教の人間観：初転法輪（四聖諦）
6. 仏教の実践：実践と慈悲
7. 仏教の実践：法に生きる（仏・僧・在家／信仰）
8. 仏教の思想：経典の誕生（初期経典・大乗経典）
9. 仏教の思想：教義学の成立（法の分析／学派・宗派）
10. 仏教の思想：他界世界（さとり・浄土）
11. 浄土真宗の思想：親鸞の生涯
12. 浄土真宗の思想：歎異抄
13. 悲しみに寄り添う
14. 発表と討議①
15. 発表と討議②

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

授業は主に講義形式で行う。授業内での積極的な質問や意見表明などを期待する。成績評価としては期末にレポートの提出を課すが、2回に分けて全員が期末レポートに向けての発表と討議を行い、出席者各自が問題意識を深められるよう進めていく。
授業にあたって共有すべき基本的な資料は当方でコピーを用意する。参考書・参考資料等は授業中に適宜指示する。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

関係する資料の読解などで毎回1時間半ほどを想定している。
また、期末レポートに向けての発表の準備（資料の整理等）にも同程度の準備を期待する。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	①　授業への積極的参加 30% ②　発表 20% ③　期末レポート 50%
成績評価基準	①　授業への積極的参加 ②～③　テーマに即した考察の精度を評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	「一人の人がその生を生きる」そのことだけを、仏教は2500年に渡って考えてきました。 本科目を通して人生をより善く生きる、そのためのヒントを見つけてもらえば、この授業は役割を果たしたといえる、と思っています。1セメスターだけですが、丁寧に考えていく時間にしましょう。
オフィスアワー	授業外で質問等あるときは、学ステ（賢風館1階）あるいはオフィスアワーに個研（賢風館6階605）に来てください。学ステの在室時間やオフィスアワーがわからない場合は、メールで問い合わせをしてください。大学のメールでアドレスは検索できます。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

対面授業時には不要。 オンラインへの変更があった場合は，zoomが可能なデバイスが必要。

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4799327296	書名・版	命は誰のものか 増補改訂版		著者名	香川知晶
出版社	ディスカヴァー携書			備考		

【2】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	ミトルヒト ―終末期の悲嘆に寄り添う一人の僧侶の軌跡		著者名	長倉伯博
出版社	本願寺出版社，2015年			備考		

【3】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	『生命観を問い直す―エコロジーから脳死まで-』		著者名	森岡正博
出版社	ちくま新書，1994年			備考		

【4】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	「臨床僧侶の経験から」		著者名	長倉伯博
出版社	『真宗文化』第26号、pp. 57–96，2016年			備考	第49回光華講座講演録。光華リポジトリからPDFをダウンロード可能	

【6】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	「相手を"人として尊重する"ということ―人間尊重の倫理原		著者名	石垣靖子
出版社	『真宗文化』第27号、2018年			備考	第51回光華講座講演録。光華リポジトリからPDFをダウンロード可能。	

科目名	統計学				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	土居　淳子	教員名	土居　淳子		
実務家教員					

授業テーマ	多変量解析法の基礎と活用
授業の概要	修士論文における研究で必要となる主要な統計解析法を実践的に学びます．本科目では，基本的なデータ解析から多変量解析まで，統計ソフトSPSSを使用して，多くの例題を実際に分析しながら学習します．多変量解析としては，因子分析，回帰分析，クラスター分析について，その手法と用途について学びます．その中でとくに，直面する問題に対して，適切な手法の選択とその適用ができる能力の習得を目指します．
到達目標	1．推測統計の考え方を理解し、誤差を前提とした分析結果の読み取りができる 2．サンプルデータに対して因子分析を適切に行うことができる 3．サンプルデータに対して重回帰分析を適切に行うことができる

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1　授業のガイダンス
2　SPSSの基本操作[課題：SPSSへのデータ入力と分析]
3　データの要約　[課題：分析演習]
4　統計的推論　[課題：分析演習]
5　分散分析　[課題：分析演習]
6　回帰分析　[課題：分析演習]
7　因子分析　[課題：分析演習
8　クラスター分析　[課題：分析演習]
9　データ分析演習A（1）
10　データ分析演習A（2）
11　データ分析演習A（3）[課題：分析演習]
12　データ分析演習B（1）
13　データ分析演習B（2）
14　データ分析演習B（3）
15　まとめと振り返り

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

事前学習としてテキストを予習していただきます。各回の授業の内容は，原則として，次のとおり．
①前回の宿題の解答と解説（前回、宿題を課した場合）
②医療統計に関する学習（受講生による発表）
③当日の学習課題の説明、分析演習
宿題は光華ナビの課題提出機能を使って提出してもらいます．

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

各回の内容について、テキストや配布資料等を元に必ず復習すること。予習は60分程度、復習時間および宿題に取り組むのに、60分程度必要。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	小課題：　25点 総合課題A：　25点 総合課題B：　25点 事前学習への取り組み：　25点
成績評価基準	小課題：提出された課題を完成度に応じて5点満点で評価します。提出期限を過ぎた場合、解説後に再提出された課題に対しては、3点満点で評価します。 総合課題：目的に応じて適切な分析を行うことができるか、また、その結果を適切に報告することができるかを評価します。 事前学習への取り組み：発表および簡単な小テストで評価します。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	社会調査士の必修科目。 記述統計や仮説検定の基礎はすでに学習済みであることを前提としている。未習の場合は、必ず受講開始までに自習しておくこと。
オフィスアワー	研究室：賢風館2F202　　メール：jdoi@mail.koka.ac.jp オフィスアワー：火曜日13：30～14：20 木曜日12：30～13：30

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC、SPSS。大学のPC実習室を利用するので、各自で用意する必要はない。

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4-7687-0528-5	書名・版	改訂新版　SPSS による統計データ解析 医学・看護学，生物学，心理学の例題による統計学入門		著者名	柳井晴夫・緒方裕光
出版社	現代数学社			備考		

【2】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	医療統計または看護統計に関するテキスト		著者名	
出版社				備考	授業内で指示します	

科目名	研究倫理				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	1	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	細川　昌則	教員名	細川　昌則		
実務家教員					

授業テーマ	看護学領域で行う研究活動においても求められる、一人の科学者として果たすべき役割と守るべき倫理を理解する。
授業の概要	資料を用いて、研究倫理について解説します。最後に日本学術振興会が提供する研究倫理e-ラーニングコースを受講し、修了証書を得ます。なお講義は、対面授業ができないときはZoom Meetingを用い、Web上ライブ講義の形をとります。定められた時間に授業に参加してください。
到達目標	1. 生命科学研究、臨床医学・看護学研究の研究倫理を理解している。 2. 日本学術振興会が提供する研究倫理e-ラーニングコースを修了する。

♦授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回:　研究活動とはなにか。
第2回:　資料「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一(日本学術振興会, 2015)テキスト版の解説 ①
第3回:　同上 ②
第4回:　同上 ③
第5回:　同上 ④
第6回:　同上 ⑤
第7回:　同上 ⑥
第8回:　日本学術振興会「研究倫理e-ラーニングコース」受講

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

テキスト、視聴覚教材、レジュメを用いて、テキストの解説を中心に講義を進めます。
最後に、日本学術振興会が提供する研究倫理e-ラーニングコースを受講し、内容を理解していることを確認します。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

講義に先立ち、テキスト「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一」を読んでおいてください。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業に対する取り組み(出席率、質疑応答の状況、受講態度など)、講義内容の理解の程度(研究倫理e-ラーニングの修了)で評価します。
成績評価基準	授業に対する取り組み(出席率、質疑応答の状況、受講態度など)70%、講義内容の理解の程度(研究倫理e-ラーニングの修了)30%で評価します。 1. 授業の取り組み　A-Eの5段階評価、2. 講義内容の理解　A,Bの2段階評価
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	看護学領域においても、研究活動では一人の科学者として果たすべき役割があり、守るべき研究倫理が課せられます。研究者の常識としてそれらを理解し、それらに沿って研究を行うことが研究活動には必須です。理解したことを自分自身の研究活動ならびに後進の研究活動の指導に活かしていただくことを願っています。
オフィスアワー	曜日:月・水・木・金・土 時間:授業, 会議以外の時間で在室時 場所:聞光館　5階　第11研究室 連絡:不要 備考:在室時は基本的に面談可能ですが、あらかじめメール等で在室時間を確認いただくと確実です。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

Zoom Meetingへの参加、日本学術振興会のe-learningプログラムの受講ができるPC。

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2:電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄:1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4-621-08914-9	書名・版	科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一		著者名	日本学術振興会
出版社	丸善出版			備考		

科目名	国際関係				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	脇田　哲志	教員名	脇田　哲志		
実務家教員					

授業テーマ	新型コロナウイルスなどの感染症や環境問題、紛争、テロ、貧困など、国境を越えて人々の生命や生活に関わるグローバルイシューに、世界はどう取り組もうとしているのか？　あるいは、取り組むべきなのか？　　現代の国際社会の成り立ちと動向、そして看護の専門職として取り組むべきグローバルな課題について、研究、発表、ディスカッションを通じて、理解を深めていきたい。
授業の概要	新型コロナウイルスの世界的な感染拡大、いわゆる「パンデミック」は、私たち地球上の人類が、同時に共通の難題に直面する時代に生きていることを痛感させられた。感染症以外にも、気候変動、環境問題、戦争と難民、大災害と大事故、そして貧困の問題など、現代の世界は、国境を越えて人々の生命や生活を脅かす数々のグローバルイシューに直面しており、国境を越えた交流と共存・共生への努力が求められる時代となった。こうした時代の要請に適切に対応できる看護職の役割と責任の自覚、そして多様な活動の実践が、一層重要になってきている。 本講義では、グローバル社会の最新の動向を具体的に検討しながら、その成り立ちと仕組み、問題点のありかなどを浮き彫りにし、現代の世界の動きをしっかりと把握できる目を養っていく。特に、医療・看護や健康に関わる課題に国際社会がどのように取り組んでいるかを、国連の諸機関などの動き、アメリカと中国を中心とした世界各国の動向、国際的な非政府組織の活動ぶりなどを含め、詳しく検討したい。その中で、医療や看護に携わる人々の献身的な活動や、貢献のあり方なども探究し、グローバル時代にふさわしい看護職としての幅広い知識と教養、価値観、そしてプロフェッショナルとしての自覚を養っていく。 具体的な内容は、受講する院生のこれまでの経歴を尊重し、大学院での研究内容にも合わせられるように、柔軟に検討していきたい。
到達目標	1.　現代の国際社会の動向や直面する課題を、看護の専門職として正確に把握し、分析していく力を身につける。 2. 看護の専門職として、グローバル社会のさまざまな課題に取り組み、貢献できるようになる。

♦授業計画

〈担当形態〉	単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

受講する院生のみなさんのこれまでの経歴や経験、大学院での研究内容、関心やニーズに沿った授業としていきたい。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の状況を受けて、みなさんの負担とならない方法を取りたいと思います。
このため、1回目の授業で、受講するみなさんと授業内容と進め方について、じっくりと話し合いたいと思います。
そのうえで、どのように授業を進めるか？　オンラインで行うとしても、Zoomでリアルタイムで行うか、それとも、オンデマンドで行うかなど、具体的な内容を決めていくことにします。
したがって、以下は、現段階の素案で、大きく変更される、とお考えください。
第1回：イントロダクション：本講義の目的・意義、進め方などの検討
第2回：グローバル社会と「いのち」の問題
第3回：世界は、こうして動いている～国家・国際組織・NGO
第4回：世界は、こうして動いている～民族・ナショナリズム・宗教
第5回：世界は、こうして動いている～経済・文化・市民
第6回：グローバルイシュー～SDGsから学ぶ
第7回：グローバルイシュー～感染症・気候変動・災害
第8回：グローバルイシュー～貧困・難民
第9回：グローバルイシュー～戦争・テロリズム
第10回：東アジア最新情勢～朝鮮半島
第11回：東アジア最新情勢～中国
第12回：アメリカ最新情勢～トランプ後のアメリカの課題
第13回：アメリカ最新情勢～アメリカ社会の将来
第14回：グローバル社会の行方と課題
第15回：まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

講義と、院生による課題設定とリサーチ、リサーチ結果の発表、ディスカッションなどを織り交ぜて進めていきたいと考えています。
具体的な進め方は、みなさんと一緒に検討しましょう。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

毎回のテーマについての予習と復習。レポートの作成と発表の準備。リサーチに十分時間をかけることなど、自発的な取り組みをお願いいたします。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業への参加度（50%） 期末の研究発表（50%）
成績評価基準	授業への参加度・・・毎回の授業で意見発表するなど積極性で評価¥n期末の研究発表・・・授業内容を理解し、さらに研究を深めて、独自性のある内容かどうかで評価
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	グローバル社会の一員として、そして看護職の専門家としての専門性を生かした研究と議論の場としたいと考えています。特に、看護師としてのこれまでの経験、そこから感じ取っている問題意識を大切にして、グローバル社会の課題に取り組んでいきましょう。 担当教官は、34年間にわたり、NHKのニュースの現場で取材に当たってきた国際ジャーナリストです。 アメリカや中国など、世界の「ニュース最前線」での経験を踏まえて、グローバル社会の動きを、できるだけわかりやすく解説していこうと考えています。みなさんから出されるさまざまな疑問もどんどん取り上げて、議論を通じて理解を深めていく時間としたいと思います。 参考：実務家教員としての経歴： NHKに記者として入局し、34年間在籍。 その間、ロサンゼルス支局長・ニューヨーク特派員・中国総局長・国際部長・アメリカ総局長・国際放送局長など歴任。
オフィスアワー	研究室は、6号館の2階の一番奥、206号室です。 メールは、t-wakita@mail.koka.ac.jp¥nなにかあればいつでもメールでお気軽にご連絡下さい。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

Zoomでのオンライン授業に対応するパソコンなど

科目名	異文化理解				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	新山　智基	教員名	新山　智基		
実務家教員					

授業テーマ	異文化を理解する
授業の概要	近年、グローバルで多様に変化、発展していく社会システムと科学技術を背景に、生活や健康に関する人々のニーズも複雑、多様化している。少子高齢化が加速する日本において、ニーズを持つ側、サービスを提供する側共に国境を越えた交流と共存が求められる時代も近い。その様なニーズにも適切に対応できる看護職の役割と責任、多様な活動は、一層重要になっている。本講義では、現在と未来を見据え、求められる看護の方法、援助対象者の立場や状況をグローバルで学際的、多様な視点で学び、異なる社会、文化、言語、価値観を深く理解し、寛容で柔軟、幅広い判断、行動が可能となる道筋を示唆する。国際社会の動向を背景に、対象を深く理解し看護サービスを考える視点を探求する。
到達目標	異なる文化や価値観にふれることで、多様な視点から医療・看護について思考する力を身につける。

♦授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. イントロダクション：本講義の目的・意義、進め方、評価方法など
2. 文化とは
3. グローバリゼーションと文化
4. 異文化理解とはⅠ：概念
5. 異文化理解とはⅡ：グローバル化との関わり
6. 異文化理解とコミュニケーション
7. 異文化を知るⅠ：先進国編
8. 異文化を知るⅡ：発展途上国編
9. 発展途上国の社会情勢を知るⅠ：アフリカ概観
10. 発展途上国の社会情勢を知るⅡ：アフリカの社会・経済
11. ガーナ共和国の保健・医療にふれる
12. トーゴ共和国の保健・医療にふれる
13. 医療・看護を通じた国際協力Ⅰ：震災を通じて
14. 医療・看護を通じた国際協力Ⅱ：技術供与
15. まとめ

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

本講義では、前半は異文化を知るための概念等を理解するための講義形式を取り、後半は異文化の社会、文化、言語、価値観を深く理解するため、発展途上国の例を中心に、国際社会の動向を学ぶ。講義形式に加え、ディスカッション、プレゼンテーションの場を設ける。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

国際的な医療・看護に関する情報に触れるために、講義内で紹介する文献に加え、新聞等を通じて最新の話題に注目すること。プレゼンテーションを課すことがあるため、十分な情報収集・分析する時間を確保することを求める。
(予復習を含めこの科目の学習には、毎週3時間程度をかけること)

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	定期試験・最終評価（テストもしくはレポート（30%）およびプレゼンテーション（20%）） 講義への参加度（15%） 講義中に課す課題（プレゼンテーション等（35%））
成績評価基準	定期試験（最終評価）として、テストもしくはレポート、プレゼンテーションを課す。その他、講義への参加度として積極的な発言や意見、プレゼンテーションの技量等の評価、出席状況を加え、総合的に判断する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	・各自、新聞やテレビ等を通じて、異文化に関する最新の話題に注目すること。 ・講義中の積極的な発言を期待します。
オフィスアワー	質問等がある場合は、基本的に講義内に質問等を行うようにしてください（講義開始前、講義終了後も可）。その以外の質問等への対応方法については講義中に別途指示します。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

なし

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN	9784004307402	書名・版	異文化理解		著者名	青木保
出版社	岩波書店			備考		

【2】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN	9784750327266	書名・版	人類学と国際保健医療協力		著者名	松園万亀雄・門司和彦他編
出版社	明石書店			備考		

【3】学内販売なし		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN	9784335760167	書名・版	国際看護・国際保健		著者名	丸井英二・森口育子・李節子編
出版社	弘文堂			備考		

【4】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN	9784762024733	書名・版	顧みられない熱帯病と国際協力		著者名	新山智基
出版社	学文社			備考		

科目名	英書講読				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	1	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	未定	教員名	未定		
実務家教員					

授業テーマ	医学関連分野の英語文献を読解し、内容を理解する力を養う。
授業の概要	医学関連分野の英語文献を読む際に必要となる英語力を養成する。 英語文献を読むことにより最新の知見を身につけ自身の研究に活かす。
到達目標	1.英文の読解力を高める。 2.研究方法を理解する。 3.興味分野の最新の研究、研究の動向が理解できる。

◆授業計画

<担当形態>	単独	

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

オリエンテーション・自己紹介、英文講読方法
英文読解
文献検索演習
Presentation＆discussion 準備
英文紹介・抄読¥n英文紹介・抄読
英文紹介・抄読¥n英文紹介・抄読、まとめ

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

論文の多読

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

約0.5～1時間

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	評価： 1.ディスカッションへの参加度(20%) 2.プレゼンテーション(40%) 3.レポート(40%)：レポート課題「興味分野の最新の知見と研究の動向」
成績評価基準	評価： 1.ディスカッションへの参加度(20%) 2.プレゼンテーション(40%) 3.レポート(40%)：レポート課題「興味分野の最新の知見と研究の動向」
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	英文だけでなく和文も含め、興味分野の文献を読むことで、その分野のトレンドが理解できるので、しっかり多読して、多くの知見を身につけてほしい。
オフィスアワー	在室時はいつでも受け付ける。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC

科目名	中医学				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	1	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1・2
代表教員	呉　小玉	教員名	呉　小玉		
実務家教員					

授業テーマ	現代医学と違う視点で人体の生理と病理を学ぶ
授業の概要	中医学ケアの原則は、外的な医薬を求めるのではなく、人間自身の内的治癒力を大事にする。つまり、人間を自然の枠組に位置づけ、自然とのかかわりを重視するホリスティクな考えにより人間の健康を援助することである。つまり、自然との調和により健康を守り、人間生命が本来持っている自然治癒力を重要視する。 この講義は、現代医学と違う視点で「五臓六腑」「陰陽五行説」「経絡」等の自然と生命を一体化する看護及びツボや経絡による自然治癒力の基礎知識を学ぶ。このような知識を身につけていけば、患者だけでなく自分自身へのケアもできるナースになる。普段でも臨床の現場でも、テクノロジー的な道具や医薬・医術がなくてもケアに役立つことができる知識を持てば、ホリスティックに自分の健康状態や患者の治療効果や病状の進捗を予測することができる。
到達目標	

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. 中医学のホリスティックな自然生命観について学ぶ。——生命はどのように発生したのか？
2. 自然の変化と陰陽五行説から治未病法について学ぶ。——未病に対する認識について中医学と現代医学の違いはなにか？
3. 五臓六腑と陰陽五行説との関係について学ぶ——神秘性ある陰陽五行説とは何であるか？学ぶと診断や治療に役立つことは何であるか？
4. 心の生理機能と自然治癒力の関係性について学ぶ。——西洋医学が認識した脳の機能はなぜ中医学が心の機能として扱うか？
5. 肺の生理機能と自然治癒力の関係性について学ぶ。——なぜ皮膚や排泄等のトラブルが肺と関係するか？
6. 脾の生理機能と自然治癒力の関係性について学ぶ。——なぜ女性の生理痛が肝臓と関係するか？
7. 肝・腎の生理機能と自然治癒力の関係性について学ぶ。——なぜ女性の生理痛が肝と関係するか？
8. まとめ——中医学の基礎を学んで何を得たか？日常の健康生活においてどのように活用していくか？

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

理論と実技を取り混ぜながら授業を行う。
毎回の授業は理論内容に応じて身体を動かしたり、簡単な気功を体験したりする

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

毎回の授業後は次回の授業内容を知らせするので、事前または受講後に教科書を読んでおいたほうが理解しやすいです。 ¥n授業時に配布するレジュメや資料，指示する教科書の該当部分を，その日のうちに必ず復習すること．さらに，次回の授業前に，もう一度復習し頭に入れておくことが，専門的な授業内容の理解に不可欠の学習になります．

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	出席状況10%、レポート70%、授業への参加度20%（授業後の振り返り用紙より）を総合的に判定する。毎回授業前に振り返りのフィードバックを行う予定
成績評価基準	1.出席状況・・・欠席一回つき減点1 2.授業への参加度…授業中の積極的な発言や意見、授業後の振り返り用紙の記載内容等により評価する。 3.レポート…指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点を抑えてまとめられているか評価する。 レポートテーマ：「中医学の基礎から学んだ感想と活用について」を題にし、受講後の振り返り用紙に書いていた内容を含む1000字程度に記入して提出すること。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	毎回の授業は内容に応じて身体を動かしたり、簡単な気功を体験したりするため、動きやすい服装が望ましい。また、経絡やツボに関する授業の時には、学生ペアで経絡の走行方法やツボの位置等を探求するため、肘や膝の上までめくりやすい袖の服を着用、爪は短く切っておくこと。
オフィスアワー	毎週の火曜日12:00~13:00時　聞光館5F研究室3

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	中医看護学の自然生命理論—現代看護への活用		著者名	①呉小玉著，安達勇/小玉城医学監修
出版社	日本看護協会出版会			備考		

科目名	看護研究方法論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	茎津　智子	教員名	茎津　智子、守口　絵里		
実務家教員					

授業テーマ	看護学における研究の意義を理解し、研究に関する基本的な知識・態度を修得する。
授業の概要	看護学における研究の意義を理解し、研究パラダイムとデザイン、研究方法との関係について理解する 主な研究方法について学ぶ 系統的な文献検索と文献評価（クリティーク）について実施する。 研究計画の進め方について理解する。
到達目標	1)看護における研究の意義を理解できる。 2)主なる研究デザイン、方法について理解できる（主なるデータ収集と分析含む）。 3)系統的文献検索方法の修得と文献クリティークができる。 4)研究計画の進め方（研究計画書作成）について理解する。

♦授業計画

〈担当形態〉　複数

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　：看護学における研究とは、研究のパラダイムと研究デザイン、研究の主要概念（茎津）
第2回　：文献検索とクリティークについて（茎津）
第3回　：主なる研究方法とデータ収集・分析①質的研究デザインの概要（茎津）
第6回　：主なる研究方法とデータ収集・分析②量的研究デザインの概要（守口）
第4回　：文献クリティーク演習①（茎津・守口）
第5回　：文献クリティーク演習②（茎津・守口）
第7回　：文献クリティーク演習③（茎津・守口）
第8回　：文献クリティーク演習④（茎津・守口）
第9回　：文献クリティーク演習⑤（茎津・守口）
第10回：主なる研究方法とデータ収集・分析③量・質的研究デザイン（守口・茎津）
第11回：主なる研究方法とデータ収集・分析④量・質的研究デザイン（守口・茎津）
第12回：主なる研究方法とデータ収集・分析⑤量・質的研究デザイン（守口・茎津）
第13回：主なる研究方法とデータ収集・分析⑥量・質的研究デザイン（守口・茎津）
第14回：主なる研究方法とデータ収集・分析⑦量・質的研究デザイン（守口・茎津）
第15回：研究計画書の進め方、看護研究法のまとめ（茎津）

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

看護研究の概要に関しては講義形式
看護研究における主な研究デザインと研究法を理解するために、院生自らが調べプレゼンし討議するゼミ方式
文献クリティークでは、関心あるテーマから量的研究または質的研究を文献選択し、文献クリティークを実践しプレゼンし討議するゼミ方式

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

特に文献検索、文献クリティークは研究において基礎となることですので、課題には積極的に取り組むことを期待します。 プレゼン以外の文献についても積極的に読むということに取り組んでください。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	研究法に関するプレゼンテーション演習　50% 文献クリティーク演習　50 % 課題提出、発表日については授業開始時に提示する
成績評価基準	各課題の目的、内容に沿って資料をまとめ、発表できる。 ディスカッションに積極的に参加している
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	修士課程においては研究方法論は研究実践のための基本的な学習になりますので、日頃から関心ある研究テーマなどをもって臨むと、自らの研究への礎になると思います。
オフィスアワー	茎津：　聞光館5階　研究室14 　オフィスアワー：　基本的に在室時は対応します。時間をとる質問、相談は事前にメールなどでアポイントをとってください。 守口：　聞光館5階　研究室9 　オフィスアワー：　基本的に在室時は対応します。時間をとる質問、相談は事前にメールなどでアポイントをとってください。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC,タブレットなど¥n状況によってはオンラインでの授業となることもありますので安定したWi-Fi環境が望ましい。

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	看護における研究　第2版		著者名	南裕子,野嶋佐由美編
出版社	日本看護協会出版会			備考		

科目名	看護理論				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	清水　房枝	教員名	清水　房枝		
実務家教員					

授業テーマ	人の生と死、個人の尊厳と権利等に関する諸問題および倫理について理解し、看護倫理の視点から考察・探究する。
授業の概要	倫理に関する基本概念を理解する。 現代社会と科学技術が生む出す生命倫理などの倫理的課題、また医療や看護における倫理的課題について概観し倫理問題についての理解を深める。 看護現場で直面する、または内在する倫理的課題やジレンマについて洞察を深め、解決のためのプロセスについての基本を学ぶ。 看護実践、教育、研究の分野における看護専門職として倫理的態度・役割・責任の観点から考察、探究する。
到達目標	1. 倫理及び看護倫理に関する基本的な概念（倫理原則、倫理判断プロセス、意思決定等）を理解する。 2. 現代社会や医療現場における倫理問題の現状を知り、生命倫理、看護倫理の発展とその歴史的背景について深める。 3. 倫理的問題の所在を明確にし、課題解決に向けた系統的なアプローチの方法を理解し、事例検討を行い理解を深める。 4. 自らの実践の中での倫理問題について振り返り、検討、考察できる。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回：授業のガイダンス、倫理とは、
第2回：倫理についての諸概念（倫理原則）、生命倫理、看護倫理とは
第3回：倫理についての諸概念（倫理原則）、生命倫理、看護倫理とは
第4回：医療における倫理的課題1　出生前診断、生殖補助医療など
第5回：医療における倫理的課題2　個人の尊厳と権利、脳死、安楽死、尊厳死、終末期ケアなど
第6回：医療における倫理的課題3　臓器移植、先端医療、再生医療、遺伝子治療など
第7回：医療における倫理的問題4　医療資源、医療保険制度など
　4回～7回は、上記に示したテーマなどで院生各自が現状や倫理的課題をまとめ、プレゼンテーション、ディスカッションを行う

第8回：倫理判断プロセス、意思決定、倫理的ジレンマの構造など倫理的課題の分析と検討プロセス
第9回～14回：自らの実践現場での倫理的課題に関する事例検討（プレゼンとディスカッション）
第15回：看護倫理まとめ、DVD視聴とディスカッション

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

授業は講義形式および院生によるプレゼンテーションおよびディスカッションのゼミ形式
プレゼンテーションは、各自2回を予定している。プレゼンテーションにあたっては資料を作成し発表する。
授業は対面またはオンライン形式となる。事前に告知する。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

関心あるテーマやゼミの中で話題提供されたことについては、自ら文献にあたるなど積極的に学びを深める。
倫理に関する参考図書は、初回授業で紹介する。参考図書、文献などにより自ら積極的に学ぶことを期待する

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	最終課題レポート　40%、 講義内での課題プレゼンテーション2件　60%（30×2） 課題レポート提出日、プレゼンテーション日については授業開始の初回時に提示する。
成績評価基準	課題2件：課題の目的に沿って適切に内容がまとめられていること。プレゼンテーションは適切な資料や事前学習により行われていること。 ゼミの中では、積極的にディスカッションに参加し、自らの意見を述べる。 最終課題レポート：テーマの内容に沿って適切にまとめられ、自らの考えが述べられている。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	これまでの実践での体験や社会的話題など倫理的視点から問題を振り返り、倫理とは何か、倫理的問題とは何かについて探求する学びとしてください。 さらに、この科目を通して多角的な視点から価値とは何か、最善とは何かを考える機会としてほしい。
オフィスアワー	研究室14：聞光館5階 オフィスアワー：基本的に在室時は対応します。時間をとる質問、相談は事前にメールなどでアポイントをとってください。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC,タブレットなど
授業の一部は、オンライン形式で行われる場合もあるため安定しているWi-Fi環境が望ましい

♦教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	系統看護学講座看護倫理		著者名	宮坂道夫
出版社	医学書院			備考		

科目名	看護倫理学				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	茎津　智子	教員名	茎津　智子		
実務家教員					

授業テーマ	人の生と死、個人の尊厳と権利等に関する諸問題および倫理について理解し、看護倫理の視点から考察・探究する。
授業の概要	倫理に関する基本概念を理解する。 現代社会と科学技術が生む出す生命倫理などの倫理的課題、また医療や看護における倫理的課題について概観し倫理問題についての理解を深める。 看護現場で直面する、または内在する倫理的課題やジレンマについて洞察を深め、解決のためのプロセスについての基本を学ぶ。 看護実践、教育、研究の分野における看護専門職として倫理的態度・役割・責任の観点から考察、探究する。
到達目標	1. 倫理及び看護倫理に関する基本的な概念（倫理原則、倫理判断プロセス、意思決定等）を理解する。 2. 現代社会や医療現場における倫理問題の現状を知り、生命倫理、看護倫理の発展とその歴史的背景について深める。 3. 倫理的問題の所在を明確にし、課題解決に向けた系統的なアプローチの方法を理解し、事例検討を行い理解を深める。 4. 自らの実践の中での倫理問題について振り返り、検討、考察できる。

◆授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回：授業のガイダンス、倫理とは、
第2回：倫理についての諸概念（倫理原則）、生命倫理、看護倫理とは
第3回：倫理についての諸概念（倫理原則）、生命倫理、看護倫理とは
第4回：医療における倫理的課題1　出生前診断、生殖補助医療など
第5回：医療における倫理的課題2　個人の尊厳と権利、脳死、安楽死、尊厳死、終末期ケアなど
第6回：医療における倫理的課題3　臓器移植、先端医療、再生医療、遺伝子治療など
第7回：医療における倫理的問題4　医療資源、医療保険制度など
　4回～7回は、上記に示したテーマなどで院生各自が現状や倫理的課題をまとめ、プレゼンテーション、ディスカッションを行う

第8回：倫理判断プロセス、意思決定、倫理的ジレンマの構造など倫理的課題の分析と検討プロセス
第9回～14回：自らの実践現場での倫理的課題に関する事例検討（プレゼンとディスカッション）
第15回：看護倫理まとめ、DVD視聴とディスカッション

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

授業は講義形式および院生によるプレゼンテーションおよびディスカッションのゼミ形式
プレゼンテーションは、各自2回を予定している。プレゼンテーションにあたっては資料を作成し発表する。
授業は対面またはオンライン形式となる。事前に告知する。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

関心あるテーマやゼミの中で話題提供されたことについては、自ら文献にあたるなど積極的に学びを深める。
倫理に関する参考図書は、初回授業で紹介する。参考図書、文献などにより自ら積極的に学ぶことを期待する

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	最終課題レポート　40%、 講義内での課題プレゼンテーション2件　60%（30×2） 課題レポート提出日、プレゼンテーション日については授業開始の初回時に提示する。
成績評価基準	課題2件：課題の目的に沿って適切に内容がまとめられていること。プレゼンテーションは適切な資料や事前学習により行われていること。 ゼミの中では、積極的にディスカッションに参加し、自らの意見を述べる。 最終課題レポート：テーマの内容に沿って適切にまとめられ、自らの考えが述べられている。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	これまでの実践での体験や社会的話題など倫理的視点から問題を振り返り、倫理とは何か、倫理的問題とは何かについて探求する学びとしてください。 さらに、この科目を通して多角的な視点から価値とは何か、最善とは何かを考える機会としてほしい。
オフィスアワー	研究室14：聞光館5階 オフィスアワー：基本的に在室時は対応します。時間をとる質問、相談は事前にメールなどでアポイントをとってください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC,タブレットなど
授業の一部は、オンライン形式で行われる場合もあるため安定しているWi-Fi環境が望ましい

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	系統看護学講座看護倫理		著者名	宮坂道夫
出版社	医学書院			備考		

科目名	看護教育学				
開講年度/学期	2022年度　後期集中	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	上田　伊佐子	教員名	上田　伊佐子		
実務家教員					
授業テーマ					
授業の概要					
到達目標					

◆授業計画		
<担当形態>		
<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載		
光華navi参照		
<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>		
<授業時間外学修(予習・復習等)について>		

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法			
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	
成績評価基準	
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	
オフィスアワー	

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望			
ISBN		書名・版				著者名	
出版社				備考			

【2】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望			
ISBN		書名・版				著者名	
出版社				備考			

【3】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望			
ISBN		書名・版				著者名	
出版社				備考			

【4】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望			
ISBN		書名・版				著者名	
出版社				備考			

【6】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望			
ISBN		書名・版				著者名	
出版社				備考			

【7】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望			
ISBN		書名・版				著者名	
出版社				備考			

【8】学内販売なし(自由記述)

科目名	看護安全学				
開講年度/学期	2022年度　後期集中	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	清水　房枝	教員名	清水　房枝、任　和子		
実務家教員					

授業テーマ	医療、看護の安全に関する概念、ヒューマンエラーの要因、構造、回避、現場における予防、対策について考察する。
授業の概要	近年、医療の場では、患者の生命と安全を脅かす事故が相次いで起こり、予防のための組織や体制の整備、予防対策など、リスクマネジメントが進められている。しかし、医療技術の発展、複雑化に伴い事故のリスクは減少していない現状がある。本科目では、医療、看護の安全確保について、学際的視点から探究していく。(教員2名　全15回)
到達目標	1・安全の基本的概念、権利としての安全、科学技術との関連を考察し、理論的認識を深める。 2・ヒューマンエラーの要因、構造、回避の方法について理論的に探究できる。 3・医療・看護の臨床現場における事故の回避、その対策について事例を通して探究する。

◆授業計画

〈担当形態〉　オムニバス

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

授業計画 Ⅰ　安全の考察 (清水)
1・安全の概念
2・科学と価値、安全学の可能性
3・個人の権利としての安全

Ⅱ・臨床現場における安全の確保 (清水)
4・安全と危害
5・安全を脅かす事例と対策ー1
6・安全を脅かす事例と対策ー2
7・安全を脅かす事例と対策ー3
8・安全を脅かす事例と対策ー4
9・安全を守るためのストラティジー

Ⅱ ヒューマンエラーと安全の探究　(非常勤講師:任和子先生)
10・情報処理特性とヒューマンエラー
11・機械システムとヒューマンエラー
12・コミュニケーションとヒューマンエラー
13・組織・個人とヒューマンエラー
14・ヒューマンエラーと防止対策
15・医療・看護援助の中の安全と倫理的意味

状況により変更の可能性もある

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

授業方法 講義・プレゼンテーション・デスカッション

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

看護職として体験したことなどを根拠づけ予防マネジメントを志向することなど

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	課題レポート60% プレゼンテーション40% で評価
成績評価基準	到達目標からレポート課題課題やプレゼンテーションテーマを作成。その達成度から評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	本科目では、医療や看護の安全を理解、行動化するためには、基本的な安全の概念と意味を正しく理解することが前提になります。そのうえでヒューマンエラーと安全との関係、実際の臨床における事故事例と対応を検討していくことになります。常に自身の体験や考えと照合しながら学習し、研究に反映されていくことが望まれます。 1・安全の概念と倫理的意味を考察し、安全の基本的な捉え方を明確にする。 2・事故をヒューマンエラーと捉え、その要因、構造、回避について明確にする。 3・実際に起こった事例を通して事故の予防、対策について臨床現場の視点から考察する 嶋森好子・任和子:医療安全リスクマネジメント　ヌーベル廣川　2008 村上陽一郎:安全学　青土社　1998 ・大山正・丸山康則編:ヒューマンエラーの科学　麗澤大学出版会　2006 ・大山正・丸山康則編:ヒューマンエラーの心理学　麗澤大学出版会　2006 ・大山正・丸山康則編:事例で学ぶヒューマンエラー　麗澤大学出版会　2006 安藤恒三郎監修・これからの医療安全学・PILAR
オフィスアワー	適時対応する

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

パソコン

科目名	臨床病理学				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	細川　昌則	教員名	細川　昌則、千葉　陽一		
実務家教員					

授業テーマ	疾病の病態の成り立ちをより深く理解し、日々の看護業務ならびに看護師の育成に役立てる。
授業の概要	CPC(臨床病理検討会)で取り上げられた症例について、発症から死亡に至る経過にそって、身体がどのように変化していったかを検討することにより、また最終的に身体がどのような状態になったかを知ることにより、疾病とその病態の成り立ちを深く理解するようになります。 講義はZoom Meetingを用い、Web上ライブ講義で行います。定められた時間に授業に参加してください。
到達目標	1. 疾患の病態が治療に従い変化する機序・過程が理解できる。 2. 病理解剖で示された全身諸臓器の変化を、病理学の知識を基に理解できる。

◆授業計画

〈担当形態〉	複数

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回. 病理解剖とCPCの意義 （千葉・細川）
第2回. 症例1提示 （千葉・細川）
第3回. 症例1病態解析1 （細川）
第4回. 症例1病態解析2 （細川）
第5回. 症例1病態解析3 （細川）
第6回. 症例1病理解剖所見提示 （千葉・細川）
第7回. 症例1フローチャート作成4 （細川）
第8回. 症例1臨床病理検討 （千葉・細川）
第9回. 症例2提示 （千葉・細川）
第10回. 症例2病態解析1 （細川）
第11回. 症例2病態解析2 （細川）
第12回. 症例2病態解析3 （細川）
第13回. 症例2病理解剖所見提示 （千葉・細川）
第14回. 症例2フローチャート作成4 （細川）
第15回. 症例2臨床病理検討 （千葉・細川）

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

第1，2，6，9，13回は、配布資料ならびに視聴覚教材を用い講義を行います。
第3，4，5，7，8，10，11，12，14，15回は、各症例の病態解析やフローチャートの作成を、討議をしながら進めます。
各症例に関して出された課題に取り組んでいただきます。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

院生があらかじめ提示された課題について検討したことを基に、討議をしながら病態の解析を進めます。課題の検討結果や作成したフローチャートを細川まで提出してください。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	授業への取り組み（出席状況、討議への準備状況、参加状況）、課題提出で評価します。
成績評価基準	授業への取り組み（出席状況、討議への準備状況、参加状況）50%、課題提出50% 授業への取り組み状況ならびにレポートはA~Cの3段階で評価します。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	症例の病態を検討し、フローチャートを作成することで、患者の病態の変化をより深く理解することができるようになると考えます。得られた知識を看護の現場に活かす方法を考えてください。
オフィスアワー	細川 曜日：月・水・木・金・土 時間：授業，会議以外の時間で在室時 場所：闇光館　5階　第11研究室 連絡：不要 備考：在室時は基本的に面談可能ですが、あらかじめメール等で在室時間を確認いただくと確実です。 千葉先生への質問等は、細川が転送します。千葉先生からの回答は、質問者に、必要な場合は全員に知らせます。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

Web でリアルタイム授業を受けることができ、課題への対応ができるPC,およびソフトウェア

科目名	看護管理特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	清水　房枝	教員名	清水　房枝		
実務家教員					

授業テーマ	保健医療福祉を取り巻く環境の変化から、看護サービスマネジメントについてミクロ・マクロの視点から複眼的にとらえ、政策制度からチームマネジメントに至るまでの全般を通して看護管理学を考察する
授業の概要	看護管理とは、看護師の能力や職員、設備や環境、社会の活動を人間の健康向上のために系統的に適用する過程であり、看護の対象に対して質的、量的に十分かつ適切な看護を提供することにある。 人口の減少、超高齢化による医療費急増は、安定した病院経営を維持する生産性の向上が重要課題となっている現代において、看護専門職として高度なマネジメントの基本的能力を修得するとともに、看護サービスマネジメントについてミクロ・マウロの視点から複眼的にとらえ、看護経営・政策制度からチームマネジメントに至るまでの全般を通して看護管理学を考察し、保健医療界の流れや看護管理の課題を探求し、今後進むべき方向性を考察していく
到達目標	1. 看護サービスを保障するための看護管理に対して理論的・実践的に理解・考察できる。 2. 看護サービスマネジメントについて考察を深め、看護職が果たす役割について説明できる。 3. 保健医療福祉サービス提供システムや看護管理論に関する一般的な知識を説明できる。 4. 看護を取り巻く生産性の課題について考察することができる。

◆授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回:ガイダンス　医療看護を取り巻く環境の変化
第2回:看護管理の定義と歴史的変遷
第3回:看護専門職とは-自律性と責務
第4回:看護サービス管理(マネジメント)の要素とプロセス
第5回:看護サービスマネジメント
第6回:看護サービスの質保証と評価
第7回:課題:プレゼンテーション①
第8回:課題:プレゼンテーション②
第9回:リーダーシップ論
第10回:看護サービスとリーダーシップ
第11回:人的資源管理とキャリア開発
第12回:医療看護政策と制度
第13回:医療経済と看護の生産性
第14回:保健医療福祉を取り巻く環境の変化と保健医療福祉サービスの提供システム
第15回:まとめ
　受講生の背景により変更もある。

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

日本にとどまらず、国際的な社会変化や、企業の運営について常に関心を払うように心がけること

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

プレゼンテーションが数回あります。
修得したことなどから、自分の考えを実践的論理的に発表できるように図書館なども活用する事。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	プレゼンテーション40% 最終課題レポート60%
成績評価基準	達成目標の観点からレポート課題を作成。その内容から達成度を評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	医療福祉の全体について、また政治・経済・社会問題について常に関心を払い考察すること 参考 オレム看護理論にもとづく看護サービス管理の実際/セラEアリソン他著/小野寺杜紀他訳/医学書院/2005 看護サービス管理/中西睦子監修/医学書院/2007 看護管理概説/井部俊子監修/日本看護協会出版会/2007 看護管理学/中西睦子監修/建皇社/2007 医療の生産性と組織行動/渡邊孝雄他/診断と治療社/2010 マネジメント　上中下/P. F. ドラッカー著/上田亨生訳/2010
オフィスアワー	必要時対応する

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

パソコン

科目名	看護管理学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	清水　房枝	教員名	清水　房枝		
実務家教員					

授業テーマ	看護管理学関する課題に対して学生は予備的共同研究を行い、教員、学生の参加によるグループ討議を通して、多角的な視点から意見、助言、指導を得、自己の研究計画を進める
授業の概要	授業の概要 看護管理学に関する研究課題を、文献レビュー、研究計画書作成を進める。 研究計画書作成後、研究計画発表を行う。 発表時の助言を得て修正。 倫理審査申請書作成、申請を行う。
到達目標	1・演習を通して多角的な意見や助言、指導を得、課題に対する研究の展開方法を学び、前期で習得した 研究方法論の知識とともに研究計画に取り組むことができる 2. 得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用し研究計画書作成・発表・倫理審査申請ができる

◆授業計画

〈担当形態〉	複数

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1・[ガイダンス　前期の学んだ看護研究について
2・3・自己の課題の提案:研究の動機や問題・課題について述べる
4・5・6・文献レビュー:研究の背景について文献を検索してクリティークする。そのことをまとめ発表する。
7・8・9・研究計画の検討:問題の所在を明らかにし、研究計画を立案
10・11・12・研究計画書作成、修正:研究計画の発表を行い計画の指導・・修正を行う
13・研究計画書作成
14・倫理審査申請用紙作成　　申請を行う
15・研究計画発表を行う。次年度行う研究工程計画を行う

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

看護管理学演習受講生によるグループの形式により進める.
テーマによるグループワークまたはプレゼンテーションに対して，教員による助言，指導を行う.

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

看護学特別研究(修士論文)として、研究計画を行う(倫理審査申請も含む)ため、自己学習は重要

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	文献検討が適切にできる。研究テーマが搾れること。
成績評価基準	研究経過鵜書作成し研究計画発表・倫理審査合格ができる
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	看護管理の経験を踏まえて、研究課題を明確にすることは、研究の背景を文献でしっかり明確にし取りかかることが重要。 自己の研究課題にかかる必要な参考書を使用する。 看護管理学で必要な参考書を適時提示する。
オフィスアワー	適宜対応する

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

パソコン

科目名	看護教育特論				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	徳永　基与子	教員名	徳永　基与子		
実務家教員					

授業テーマ	看護基礎教育の学生及び新人看護師の育成につながる教育の概要、教育方法や評価の実際について学ぶ。
授業の概要	教育・研修の効果・効率・ 魅力を高めるための方法論教授システム設計学について、専門文献による文献購読を通して理解を深める。その上で、看護基礎教育、さらには継続教育における活用について、自分の考えを整理する。
到達目標	1、教育・研修の効果・効率・ 魅力を高めるための方法論教授システム設計学(Instructional Systems Design:以下 ISD)について、文献購読により理解を深める。 2、看護基礎教育、生涯教育におけるISDの活用について、自己の考えが述べられる。

◆授業計画

〈担当形態〉	単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　オリエンテーション　文献の読み方
第2回　教育システム序論：インストラクショナルデザイン序論、教育システムの設計
第3回　学習とインストラクションの基本：インストラクションの成果
第4回　 学習とインストラクションの基本：さまざまな学習＜知的技能と方略＞＜言語情報・態度・運動技能＞＜学習者＞
第5回　 インストラクションの設計：パフォーマンス目標の定義
第6回　インストラクションの設計：学習課題の分析
第7回　インストラクションの設計：授業系列の設計
第8回　インストラクションの設計：9教授事象
第9回　インストラクションの設計：テクノロジーとアフォーダンス
第10回 インストラクションの設計：単位時間ごとの授業設計
第11回　インストラクションの設計：学習者のパフォーマンス評価
第12回　インストラクションの実施システム：グループ学習における環境
第13回　インストラクションの実施システム：オンライン学習
第14回　インストラクションの実施システム：インストラクションの評価
第15回 まとめ 看護基礎教育における活用についての課題の提示

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

毎回の授業課題に沿った教本内容を熟読し、参加者皆で討議することで内容理解を進めます。
したがって、事前に内容を熟読し、自らの考えをもって参加すること。
教員からのフィードバックは、毎回の最後もしくは次の会の最初に実施します。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

事前課題として提示されたテーマに沿って、文献を熟読し、自分なりの意見をまとめておく。
文献を提示された場合は、事前に熟読し、自分の考えをまとめておく。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	① 事前課題の実施（自分の考えのまとめ） 50点 ② 課題レポート 50点 以上を100点満点で評価します。
成績評価基準	レポートや課題：A:事実をもとに自分の考え・意見の記載がある B：自分の意見・考えのみを記載できる　C:感想にとどまる、以上の3段階で評価する。なお締め切りを遅れて提出した場合は、やむを得ない理由以外は0点とする。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	教本の文献購読中心の授業ですので、必ず事前に教本の内容を熟読して授業に臨んでください。
オフィスアワー	研究室番号：聞光館5階　研究室2 必要に応じてメールで連絡をいただければ日程調整します。 Mail : k-tokunaga@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

パソコンをお持ちの場合は、持参も可です。

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4-7628-2573-6	書名・版	インストラクショナルデザインの原理		著者名	R.M.ガニェ
出版社	北大路出版			備考		

科目名	看護教育演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	徳永　基与子	教員名	徳永　基与子		
実務家教員					

授業テーマ	教授システム設計学およびゴールドメソッドによる教材の学習者として体験を通し、看護基礎教育の学生及び新人看護師の育成における指導者としての自己の考えを構築できる
授業の概要	看護教育特論で学んだ教授システム設計学およびゴールドメソッドによる教材を、学習者の立場で体験する。その体験を通じて、看護基礎教育の学生及び新人看護師の育成における指導者としての自己の考えを再構築する。
到達目標	1、教授システム設計学およびゴールドメソッドによる教材を学習者の立場で体験した後、過去の教育との違いを述べることができる。 2、看護基礎教育の学生及び新人看護師の育成における指導者としての自己の考えを再構築する。

◆授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　本科目のオリエンテーション　教本の紹介と使い方のオリエンテーション
第2回　あなたは同意できますか？:これまでの教育、これからの教育 [別途資料配布]
第3回　患者安全な患者観察 [別途資料配布]
第4回　患者安全な患者観察 [別途資料配布]
第5回　 患者安全信号機 [別途資料配布]
第6回　患者安全信号機 [別途資料配布]
第7回　プラン緑（予定された看護実践）[別途資料配布]
第8回　看護技術と技術実践能力 [別途資料配布]
第9回　意識の観察と判断 [別途資料配布]
第10回　 呼吸の観察と判断 [別途資料配布]
第11回　循環の観察と判断 [別途資料配布]
第12回　プランBカード [別途資料配布]
第13回　初期評価で判断すること [別途資料配布]
第14回　報告の仕方 [別途資料配布]
第15回　 まとめ 最終レポートの提示

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

毎回の授業課題に沿った教本内容を熟読し、参加者皆で討議することで内容理解を進めます。
したがって、事前に内容を熟読し、自らの考えをもって参加すること。
教員からのフィードバックは、毎回の授業中もしくは次の会の最初に実施します。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

事前課題として提示されたテーマに沿って、文献を熟読し、自分なりの意見をまとめておく。
文献を提示された場合は、事前に熟読し、自分の考えをまとめておく。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等（追試験対象外）

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	① 事前課題の実施（自分の考えのまとめ） 50点 ② 課題レポート 50点 以上を100点満点で評価します。
成績評価基準	レポートや課題:A:事実をもとに自分の考え・意見の記載がある B:自分の意見・考えのみを記載できる　C:感想にとどまる、以上の3段階で評価する。なお締め切りを遅れて提出した場合は、やむを得ない理由以外は0点とする。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	必ず事前に教本の内容を熟読して、学習者になったつもりで臨んでください。
オフィスアワー	研究室番号:聞光館5階　研究室2 必要に応じてメール等で連絡をいただければ日程調整します。 Mail : k-tokunaga@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

パソコンをお持ちの場合は、持参も可です。

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2:電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄:1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN	978-4-7581-0971-0	書名・版	看護学生・若手看護師のための急変させない患者観察テクニック		著者名	池上敬一
出版社	羊土社			備考		

科目名	慢性看護特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	番所　道代	教員名	番所　道代		
実務家教員					

授業テーマ	慢性期看護の現状と課題を理解する
授業の概要	慢性病者の現状を理解し、慢性看護における看護の役割を講義や学生同士のプレゼン・討論の中から深め、臨床課題および研究課題を見出すことができる。
到達目標	1.慢性期看護に関する先行研究のレビューを行い、エビデンスに基づく看護実践について考察する。 2.慢性期看護に関する先行研究をクリティークし、討論を通じて看護職における役割や課題についての自己の考えを明確にする。

◆授業計画

<担当形態>	オムニバス

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　オリエンテーション、慢性病者の現状（番所）
第2回　慢性病者の特徴と看護の役割（盛永）
第3回　慢性病が日常生活に及ぼす影響（番所）
第4回　慢性期疾患の最新情報1（盛永）
第5回　慢性疾患の最新情報2（番所）
第6回　慢性期疾患における臨床実践ならびに看護研究の最新知見1（盛永）
第7回　慢性期疾患における臨床実践ならびに看護研究の最新知見2（番所）
第8回　生活習慣病の現状と課題（盛永）
第9回　糖尿病および腎障害の現状と課題（盛永）
第10回　ストレス関連疾患の現状と課題（番所）
第11回　悪性新生物の現状と課題（番所）
第12回　保健福祉政策の動向と課題1（盛永）
第13回　保健福祉政策の動向と課題2（番所）
第14回　慢性期看護のあり方についての検討（盛永）
第15回　まとめ・研究課題の明確化（番所）

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

講義形式および学生のプレゼンと講義内容における討論を行う。
講義内でのプレゼンテーション、討論の中でフィードバックし、研究課題を明確化する。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

講義内容についての討論を行うための準備およびプレゼンの準備

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	①プレゼンテーション(25%) ②討論への参加(25%) ③レポート(50%)
成績評価基準	プレゼンテーション・討論への参加状況、レポートから総合的に評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	論文の多読をし、研究方法、分析方法の理解を深めてほしい。
オフィスアワー	在室時はいつでも対応する。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

プレゼンテーション資料の作成等に使用するPC

科目名	慢性看護学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	番所　道代	教員名	番所　道代		
実務家教員					

授業テーマ	慢性期看護の現状と課題を探求するための具体的な方策を考える。
授業の概要	国内外の文献検討を含め、慢性期看護における各自の興味のある分野での、最新の研究手法について理解する。さらに、各自の研究分野での具体的かつ実現可能な研究方法を探求する。
到達目標	1.慢性期看護に関する先行研究のレビューを行い、研究手法を理解する。 2.研究課題についての討論を通じて研究計画を立案できる。

♦授業計画

<担当形態>　オムニバス

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　オリエンテーションにより講義の概要と進め方について説明する(番所)
第2回　慢性期疾患の予防と管理に関する最新の知見および課題の検討1(盛永)
第3回　慢性期疾患の予防と管理に関する最新の知見および課題の検討2(番所)
第4回　慢性期看護における各自の興味のある分野での研究手法の検討1(盛永)
第5回　慢性期看護における各自の興味のある分野での研究手法の検討2(番所)
第6回　看護実践の分析と評価方法の検討1(盛永)
第7回　看護実践の分析と評価方法の検討2(番所)
第8回　慢性期疾患患者の支援についての検討(盛永)
第9回　各自の興味分野での課題について検討(番所)
第10回　研究計画についての討論1(盛永)
第11回　研究計画についての討論2(番所)
第12回　研究計画についての討論3(盛永)
第13回　研究計画についての討論4(番所)
第14回　研究計画のプレゼンテーション(盛永)
第15回　まとめ(番所)

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

講義形式および学生のプレゼンと講義内容における討論を行う。
講義内でのプレゼンテーション、討論の中でフィードバックし、研究計画を立案する。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

講義内容についての討論を行うための準備およびプレゼンの準備

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	① プレゼンテーション(20%) ②討論の参加(20%) ② レポート(60%)
成績評価基準	プレゼンテーション・討論への参加状況、レポートから総合的に評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	論文の多読をし、研究方法、分析方法の理解し、具体的で実現可能性の高い研究計画を立ててほしい。
オフィスアワー	在室時はいつでも対応する。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

科目名	小児看護特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	茎津　智子	教員名	茎津　智子		
実務家教員					

授業テーマ	子ども、親、家族を対象とした看護について、その基盤となる概念、理論を理解し小児看護における看護援助について探究する。
授業の概要	子どもとその家族の看護援助の基盤となる概念、理論を理解する。また、子どもを取り巻く様々な健康課題について国内外の研究からその動向を知り、実践者としての看護が果たすべき役割を考察する。
到達目標	1. 小児看護の基盤となる理論、主要概念を理解する。 2. 子どもの発達と環境の相互作用、健康に及ぼす影響について理論的背景を基に理解する。 3. 子どもとその家族の健康問題の動向について国内外の現状と課題を理解し、課題の背景等を分析し、看護の役割について考察する。 4. 体験事例などを通して小児看護の現場での現象について理論的な背景をもとに説明できる。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回：小児看護学に関する歴史的背景と理念
第2回：小児看護学における主要概念・理論（発達論、認知論）
第3回：小児看護学における主要概念・理論（母子関係論、愛着理論）
第4回：小児看護学における主要概念・理論（子どものストレス、コーピング）
第5回：小児看護学における主要概念・理論（小児のセルフケア、自己効力）
第6回：小児看護学における主要概念・理論（child & Family centered Care）
第7回：小児の発達と環境
第8回：子どもと家族の健康問題の現状と背景分析、支援1 国内外の文献検討
第9回：子どもと家族の健康問題の現状と背景分析、支援2国内外の文献検討
第10回：子どもと家族の健康問題の現状と背景分析、支援 3 事例検討
第11回：子どもと家族の健康問題の現状と背景分析、支援 4 事例検討
第12回：小児看護領域の研究の動向（臨床現場からの課題）
第13回：小児看護領域の研究の動向（地域・社会における課題）
第14回：小児看護領域における倫理的課題
第15回：まとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

講義、課題のプレゼンテーション、グループ討議

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

講義の各テーマとなる内容に関しては、事前に文献、参考書などを通読してくること。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	課題プレゼンテーション50 %、最終課題レポート　50 % 最終レポートの提出日、プレゼンテーション日は授業開始初回時に提示する。
成績評価基準	レポート課題に沿った内容が適切にまとめられ、提出日が守られている。 プレゼンテーションに関しては、資料が適切にまとめられている。発表、デスカッションに積極的に参加している。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	小児看護で直面する様々な現象について、なぜ、どうしてという疑問から出発してください。そしてそれらをあらゆる方向から分析、判断、評価するということを学ぶ機会にしてほしいと思います。関心あるテーマなど国内のみならず国外の文献からも広く学ぶ意識で臨んでください。
オフィスアワー	研究室14　聞光館5階 オフィスアワー：　基本的に在室時は対応します。時間をとる質問、相談は事前にメールなどでアポイントをとってください。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC、タブレットなど：レポート作成、プレゼン資料作り、パワーポイント作成などに使用できるもの

科目名	小児看護学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	茎津　智子	教員名	茎津　智子		
実務家教員					

授業テーマ	小児看護専門職としての立場からの役割、援助方法についてその実際について理解する。
授業の概要	小児医療及び福祉、教育との関連、協働について理解を深めるとともに小児看護専門職として役割、責任、援助方法について学ぶ。小児看護領域における現状を分析し課題を明らかにし今後の看護のあり方を洞察する。
到達目標	1. 小児保健、小児医療の動向および関連領域との協働やその現状について理解する。 2. 小児医療における看護専門職として役割、責任、援助方法論について説明できる。 3. 小児看護領域における現状を分析し、今後の課題を述べることができる。

◆授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. 小児保健、小児医療と関連領域（福祉、教育等）との協働やその現状について
2～4.　小児保健、小児医療の現状と課題（文献検討と報告）
5～7.　病気、障害のあるこどもとその家族の小児医療および看護の現状と課題（文献検討と報告）
8.　　小児医療と地域支援　①小児の在宅ケア
9.　　小児医療と地域支援　②小児の外来ケア
10～13. 小児看護領域における関心テーマに関するフィールドワーク
14～15. フィールドワーク報告とまとめ、研究テーマの発見

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

講義形式および課題演習、一部フィールド学習の予定

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

既習の小児看護に関する基礎知識は復習しておくこと。
これまでの学びをさらに発展させることを目指し、自らの課題や関心テーマを持ち文献学習は積極的に取り組む。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	文献検討とその報告（課題）・フィールドワークでの取り組み（60%）、 最終レポート（40%）により総合的に評価する
成績評価基準	課題（60%） フィールドワークの事前課題について事前準備としての文献検索、読解に関するレポートがまとめられる。 フィールドワークでは、自ら主体的に問題意識をもって参加している 終了後、フィールドでの内容に基づき、分析・考察を加え資料が作成され発表している 最終レポート（40%） 課題テーマについて文献等を活用し適切にまとめられている。自らの考えを述べていている。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	小児看護で直面する様々な現象について、なぜ、どうしてという疑問から出発し,それらについて多面的に分析、判断、評価するということを学ぶ機会にしてください。
オフィスアワー	研究室14：闇光館5階 オフィスアワー：基本的に在室時は対応します。時間をとる質問、相談は事前にメールなどでアポイントをとってください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

PC,タブレット

科目名	精神看護特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	荒井　春生	教員名	荒井　春生		
実務家教員					

授業テーマ	本講義は、現代社会における「生」「死」「社会」「文化」「精神看護学」の視点から死生観について学修する。
授業の概要	現代社会において「死」を考えることは、自己の存在意味を問い直すことにつながる。「生」「死」「社会」「文化」の多様性を学修し自己の死生観を探究する。
到達目標	1.現代社会における「生」「死」「社会」「文化」の多様性を理解できる。 2.死生観を育むために何が必要か考えを述べることができる。

♦授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回「死」と医学
　1.ガイダンス　2.インフォームドコンセント　3.ディスカッション
第2回精神疾患患者の「生」と「死」
　1.がんを合併した統合失調症患者の事例　2.ディスカッション
第3回「死」と近代社会
　1.葬祭儀礼の事例　2.ディスカッション
第4回「死」と災害
　1.東日本大震災の事例　2.ディスカッション
第5回「孤独死」と社会
　1.DVD:孤独死の事例　2.ディスカッション
第6回自死
　1.自死の定義　2.自死の事例　3.ディスカッション
第7回グリーフケア
　1.グリーフケアの定義　2.グリーフケアの歴史　3.ディスカッション
第8回「死」と「文化」
　1.地域で異なる死のとらえかた　2.ディスカッション
第9回Psycho-Oncology
　1.Psycho-Oncologyの歴史　2.Psycho-Oncologyの対象　3.ディスカッション
第10回Palliative Medicine & Care
　1.Palliative Medicine & Careの歴史　2.Quality of Lifeとの関連　3.ディスカッション
第11回Psycho-Oncology & Care
　1.Psycho-Oncology & Care の歴史　2.Quality of Lifeとの関連　3.ディスカッション
第12回精神医学及び精神看護学から考える「生」と「死」
　1.がん患者とその家族の事例　2.ディスカッション
第13回Spiritual Pain
　1.Spritual Pain & Careの特徴　2.がん患者の事例　3.ディスカッション
第14回Resilience
　1.Resilienceの定義　2.Resilienceの歴史　3.ディスカッション
第15回現代社会における個々の死生観
　1 プレゼンテーション　2.ディスカッション　3.まとめ

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

1.本講義は事例の提示・ディスカッション・プレゼンテーションで展開します。
2.本講義は多様な「生」「死」「社会」「文化」を知ることで死生観を探究していきます。
3.本講義はディスカッションを重要視しますので積極的に取り組んでください。

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

1.本講義は予習・復習を含めて毎週3時間程度の時間を必要とします。
2.各講義前に資料を提示しますのでディスカッションができるように準備してください。

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等(追試験対象外)

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	1.各講義における積極的なディスカッション・参加状況 75% 2.プレゼンテーションの完成度・参加状況 25%
成績評価基準	1.各講義における積極的なディスカッション・参加状況により評価します。 2.プレゼンテーションの完成度・参加状況により評価します。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	1.参考図書は講義中に提示します。 2.講義中は積極的なディスカッションを求めます。 3.個々の「死生観」を充実させましょう。
オフィスアワー	1.質問などがある場合は講義前後に対応します。 2.在室時はできる限り対応します。聞光館5階22研究室 3.不在時はメールで連絡をお願いします。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

1.PCでPower Pointを使用します。
2.対面での講義を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン講義になる可能性があります。その場合、オンラインの視聴ができる通信環境が必要となります。

科目名	精神看護学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	荒井　春生	教員名	荒井　春生		
実務家教員					
授業テーマ	本講義は、自己の関心がある研究テーマからリサーチ・クエッションを明確にしてReviewの成果分析を学修する。				
授業の概要	リサーチ・クエッション及びReviewの成果分析をとおして研究の意義を深める。				
到達目標	1.リサーチ・クエッションを明確にしてReviewができる。 2.Reviewの成果から看護理論を適切に用いて現状分析を行うことができる。 3.研究のオリジナリティをみつけ研究計画書を作成できる。 4.研究における倫理的配慮や個人情報保護の意味を理解し倫理審査書類を作成できる。				
◆授業計画					
<担当形態>	単独				
<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載					
第1回研究の概要 1.ガイダンス　2.タイムスケジュールの設定 第2回研究テーマの明確化 1.リサーチ・クエッション　2.ディスカッション 第3回研究テーマの明確化 1.リサーチ・クエッション　2.図書館ツアー　3.ディスカッション 第4回Review 1.看護理論を適切に用いた現状分析　2.ディスカッション 第5回Review 1.看護理論を適切に用いた現状分析　2.ディスカッション 第6回中間報告会 1.現状分析結果を踏まえた研究計画　2.ディスカッション 第7回研究計画書の作成 1.研究計画書の概要　2.オリジナリティの明確化　3.ディスカッション 第8回研究計画書の作成 1.研究意義の明確化　2.ディスカッション 第9回研究計画書の作成 1.研究背景の明確化　2.ディスカッション 第10回研究計画書の作成 1.研究目的の明確化　2.ディスカッション 第11回研究計画書の作成 1.研究方法の明確化　2.ディスカッション 第12回倫理審査書類の作成 1.倫理審査書類の概要　2.個人情報保護 及び倫理的配慮　3.ディスカッション 第13回倫理審査書類の作成 1.説明文書・同意書・同意撤回書・調査用紙　2.研究計画書との整合性　3.ディスカッション 第14回研究計画書及び倫理審査書類のスーパーバイズ 1.研究計画書及び倫理審査書類のプレゼンテーション　2.ディスカッション 第15回研究計画書及び倫理審査書類のスーパーバイズ 1.研究計画書及び倫理審査書類のプレゼンテーション　2.ディスカッション　3.まとめ					
<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>					
1.本演習はリサーチ・クエッション及び研究の意義を明らかにします。 2.本演習はReviewの現状分析から研究計画書及び倫理審査書類を作成します。 3.本演習はプレゼンテーションやスーパーバイズを取り入れ研究への示唆を深めます。					
<授業時間外学修(予習・復習等)について>					
1.本演習は予習・復習を含めて毎週3時間程度の時間を必要とします。 2.各演習前に資料を提示しますのでディスカッションができるように準備してください。					

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等(追試験対象外)		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	
◆成績評価			
成績評価方法	1.各演習におけるディスカッション・参加状況　20% 2.研究計画書の作成・プレゼンテーション　40% 3.倫理審査書類の作成・プレゼンテーション　40%		
成績評価基準	1.各演習におけるディスカッション・参加状況　20% ディスカッションの準備・資料作成・参加状況を総合的に判断します。 2.研究計画書の作成とプレゼンテーション　40% 研究計画書の作成・プレゼンテーション・参加状況を総合的に判断します。 3.倫理審査書類作成とプレゼンテーション　40% 倫理審査書類の作成・プレゼンテーション・参加状況を総合的に判断します。		
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	1.参考図書は講義中に提示します。 2.研究テーマを明らかにしてReviewしますので積極的なディスカッションを求めます。 3.研究は楽しいと思えるように一緒に進めていきましょう。		
オフィスアワー	1.質問などがある場合は講義前後に対応します。 2.在室時はできる限り対応します。聞光館5階22研究室 3.不在時はメールで連絡をお願いします。		
◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)			
1.PCでPower Pointを使用します。 2.対面での演習を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン講義になる可能性があります。その場合、オンラインの視聴ができる通信環境が必要となります。			

科目名	国際地域看護活動特論				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	呉　小玉	教員名	呉　小玉、新山　智基		
実務家教員					

授業テーマ	国際地域看護に関する健康問題を解決する手法やデザインの基礎を培う
授業の概要	グローバル地域またはそれぞれの領域における健康問題の特徴とその影響を明確にし、対応と支援の方法論としての問題解決法、プロジェクト・マネージメント（PCM）について理論的な理解を深め、今までの実践から健康問題をあげ、企画から評価までにかけて適切な専門的看護支援の方法を検証、探究する。また、それらの方法論に関連する海外の文献や研究報告を読解、クリティークし、自己の関心ある健康課題の焦点化と国際地域看護活動計画作成の基本的能力を養う。
到達目標	1．地域における健康問題の特徴とその影響を考察する。 2．健康問題の優先順位の決め方や国際地域看護活動の方法を探求する。 3．国際地域看護活動に関連する国内外の関連文献、関連領域の研究をクリティークする力、方法を養う。 4．自己の課題の焦点化と国際地域看護活動のデザインの基礎を培う。

◆授業計画	
〈担当形態〉	オムニバス

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回 授業のガイダンス
　1．国際地域看護活動の基盤となる概念
　2．国際地域看護活動に関する概念とプライマリヘルスケア（PHC） 講義(呉)
第2回地域（アフリカ）における健康問題　① 講義 (新山)
第3回地域（アフリカ）における健康問題　② 講義 (新山)
第4回地域（アフリカ）における健康問題　③ 講義 (新山)
第5回地域（日本）における健康問題　④ 講義 (新山)
第6回健康支援の思考基盤：問題解決法　⑤ 講義 (新山)
第7回国際地域看護活動に必要なPHC背景・概念・原則とMDGs 講義 (呉)
第8回国際地域看護活動の方法論：プロジェクトマネージメント（PCM）概要 講義 (呉)
第9回国際地域看護活動の方法論：PCM（参加者分析と問題分析1） 講義と演習 (呉)
第10回国際地域看護活動の方法論： PCM（問題分析2と目的分析）　講義と演習 (呉)
第11回国際地域看護活動の方法論：PCM（プロジェクト選択基準） 講義と演習 (呉)
第12回国際地域看護活動の方法論：PCM（PDMの作成） 講義と演習 (呉)
第13回国際地域看護活動の方法論：PCM（PDMと活動計画表） 講義と演習 (呉)
第14回国際地域看護活動の方法論：学生それぞれの課題（PCM） 演習 (呉)
第15回PCMに関するまとめ、学生のPCM展開の発表 講義と演習 (呉)

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

学生のそれぞれ持っている看護の経験や関心のある課題を取り入れながら講義と演習を混ぜながら行う予定。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

授業時に配布するレジュメや資料，指示する教科書の該当部分を，その日のうちに必ず復習すること．さらに，次回の授業前に，もう一度復習し頭に入れておくことが，専門的な授業内容の理解に不可欠の学習になります．

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	授業評価は、レポート30%，発表（資料を含む）40%，授業中の参加30%で行う。
成績評価基準	評価基準： 第2回～6回授業「地域（アフリカ）における健康問題」終了後に課題レポートを提出する レポートテーマ：日本とアフリカの地域における健康問題の比較検討 様式：A4版，ワープロ（45字×45行），枚数自由．30%． 最終のPCM に関するレポート及び発表の評価70%
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	授業中は今までの看護経験だけではなく、多様な知識や理論に関する知識が必要であるため、毎回の授業テーマや内容を見て必要な知識を文献レビューより取っておいた上で授業に臨んでほしいです。
オフィスアワー	必要に応じて実施、事前にアポイントを取ったうえでお越しください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)
特になし。

科目名	国際地域看護活動演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	呉　小玉	教員名	呉　小玉		
実務家教員					

授業テーマ	国際地域看護に関する関心のある健康問題を焦点化し、解決するためのエビデンスを探索する方法を習得する
授業の概要	グローバル地域またはそれぞれの領域における健康問題を焦点化する演習であり、国・民族・地理風習・生活様式・文化の多様性・保健医療制度等から生じた健康問題について、文献検討を通して関心のある健康問題を焦点化し、解決するためのエビデンスを探索する方法を学び、計画書を立案し、それに従い実施と結果分析や考察をし論文を完成する。
到達目標	1. 日本国内外の健康問題を理解し解決するために、どのような看護方法の開発が必要であるかを文献から焦点化することができる。 2. 健康問題を解決するためのエビデンスをPHC のアプローチ法から考察し、持続可能な看護介入計画を立案し、研究を完成することができる。

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1.国際地域看護活動論に関する全体ガイダンス
・研究したいことはなにか、ディスカッション
2.各自で研究課題に関連する原著論文5編を具体的にまとめ（400字程度/1編）、自分の研究したい問題との関係性を考察する。
講義：エビデンスに基づく看護（文献検索とEBN～国際領域における健康問題へのケアとは？）
3.関心のある課題（研究したいこと）を設定して、その課題追求の可能性を探求する（文献から方法等を学ぶ）
4.各自で研究課題を研究の背景として書いてきて、発表する。
5.関心のある課題の周辺論文や先行研究などへのクリティークを行う。
6.研究の目的を達成するための文献をクリティークし、研究デザインを検討する
7.各自で研究の目的を達成するためのデザインや方法として書いてきて、発表する。
8.本研究の予測できる結果がなにか、エビデンスに基づいて成り立っているか等を文献講読し、研究の価値があるかを考察する。
9.文献検索したものを参考しながら、再度研究背景・目的・予測できる結果を明確化にして報告する
10.上記の課題を解決するための計画書を立案する
11.研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成し、発表する
12.倫理資料を作成し、研究計画書を完成する
13.大学倫理委員会の審査を受ける準備（書類の完成等）をする
14.研究の対象となりえる実施施設をリストアップしてアプローチの方法を考え、協力を得る。
15.研究計画に従い研究を完成する

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

学生のそれぞれ持っている看護の経験や関心のある課題を取り入れながら講義と演習を混ぜながら行う予定。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

授業時に配布するレジュメや資料，指示する教科書の該当部分を，その日のうちに必ず復習すること．さらに，次回の授業前に，もう一度復習し頭に入れておくことが，専門的な授業内容の理解に不可欠の学習になります．

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	授業評価は、レポート30%，発表（資料を含む）40%，授業中の参加30%で行う。
成績評価基準	評価基準： 文献レビューが新たな視点を明確にまとめてある 研究の全体の妥当性や正確性によって評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	授業中は今までの看護経験だけではなく、多様な知識や理論に関する知識が必要であるため、毎回の授業テーマや内容を見て必要な知識を文献レビューより取っておいた上で授業に臨んでほしいです。文献内容を理解することや演習を参加するために、多くの授業時間外学習を必要とすることを十分に認識しましょう。専門的な文献内容の理解に不可欠の学習になります．
オフィスアワー	必要に応じて随時実施、事前にアポイントを取ったうえでお越しください。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし。

科目名	老年看護特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	中平　みわ	教員名	中平　みわ		
実務家教員					

授業テーマ	老年看護学Gerontological nursingとは，老年学 Gerontologyを基本にした学問である。老年学では，生物医学的モデルだけでなく，心理・社会など幅広い学問領域が集結しエイジング研究を行っている。そこで老年看護学概論では，高齢者を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から全人的に捉え，健康問題に対する老年看護学的アプローチのあり方について学ぶことを狙いとする。
授業の概要	1. エイジングの理論や学問領域，エイジングと社会との関連性や倫理的課題，老年期にある人の身体・精神機能の変化の特徴や傾向を概観する。 2. 疾患を有する高齢者の看護にとどまらず，ヘルシー・エイジング促進のための包括的で多方面における老年看護の役割について考察する。
到達目標	1. 高齢者を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から全人的に捉えることができる 2. 高齢者を取り巻く倫理的課題について考察できる 3. 高齢者の健康問題について理解し、その予防や治療・看護について考察できる

◆授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1. ガイダンス，老年看護学の基本的理解　p.12, pp. 168-188
2-3.Work1高齢者の基本的理解：テキストpp.23-49の範囲から関心のあるトピックを選び、プレゼンテーションを実施する。
4-5.Work1プレゼンテーション＆ディスカッション
6-7.Work2加齢に伴う変化：テキストpp.50-75,pp.219-234の範囲から関心のあるトピックを選び、プレゼンテーションを実施する。
8-9.Work2プレゼンテーション＆ディスカッション
10-11.Work3高齢者と倫理的課題pp.189-200の範囲から関心のあるトピックを選び、プレゼンテーションを実施する。
12-13. Work3プレゼンテーション＆ディスカッション
14.Work1~3の振り返りディスカッション
15.Work1~3の振り返りディスカッション

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

Work1～3の各プレゼンテーション毎にフィードバックを行う.

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

指定テキスト範囲の事前学習

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	work1-3のプレゼンテーション30%×3回＋授業参加度10%
成績評価基準	各work1-3のプレゼンテーションを以下の評価基準で評価する 1．内容の理解と説明 8% 2．論理的展開と説明 8% 3．資料の学術的体裁（パワーポイント10枚以内） 8% 4．発表の適切性 6% total 30%
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	ご自身の臨床経験を，文献やエビデンスと照らし合わせながら振り返り，研究への問いを立てられる授業にしていきたいと思います.
オフィスアワー	メールでのアポイントメントを取った上で不定期に実施

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売なし		全員購入必須	○	電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版	ナーシング・グラフィカ　老年看護学(1)：高齢者の健康と障害　第6版		著者名	堀内 ふき・大渕 律子・諏訪 さゆり
出版社	メディカ出版			備考		

科目名	老年看護学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	中平　みわ	教員名	中平　みわ		
実務家教員					

授業テーマ	老年看護学Gerontological nursingとは，老年学 Gerontologyを基本にした学問である．老年学では，生物医学的モデルだけでなく，心理・社会など幅広い学問領域が集結しエイジング研究を行っている。そこで老年看護学演習では，老年看護学特論で学んだ内容をさらに発展させ，健康問題に対する老年看護学的アプローチについて各自の研究トピックに取り組む．
授業の概要	自身の研究トピックを明らかにし，研究計画書を作成する．
到達目標	老年看護学に関する各自の研究トピックに基づいた研究計画書を作成できる．

◆授業計画

<担当形態>	単独	

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

1～9回：研究トピックの明確化と文献レビュー，研究計画の検討
10～11回：研究倫理の検討
12～14回：研究計画書の作成
15回：まとめ

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

研究計画書の作成プロセスに基づき，主にディスカッション形式で授業を展開し，適宜，教員によるフィードバックを行う．

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

研究トピックについて自身の考えをまとめた上で授業に参加してください．

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	研究計画書100%
成績評価基準	研究の背景と目的：30% 研究の対象と方法：30% 倫理的配慮：30% プレゼンテーション：10%
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	研究トピックについて自身の考えをまとめた上で授業に参加してください．
オフィスアワー	メールによるアポイントメントで不定期に実施

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

特になし

科目名	公衆衛生看護特論				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	堀井　節子	教員名	堀井　節子		
実務家教員					

授業テーマ	公衆衛生看護学の基礎を理解するとともに、現代的課題とその対応方法を検討する。
授業の概要	公衆衛生看護の理念と活動方法、関連する保健医療福祉制度や社会資源の活用、関係機関との連携などについて教授する。また、履修生の問題意識や活動の場に関連した地域ケアシステムの構築など今日的な課題について学ぶ。
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念と活動方法について理解できる。 2. 公衆衛生看護に関連する保健医療福祉制度や社会資源の活用、関係機関との連携などについて考察できる。 3. 地域ケアシステムの構築のための具体的な方策について考察できる。

◆授業計画

〈担当形態〉	単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1回　日本の保健水準と保健医療の変遷（DVD視聴）
第2回　公衆衛生看護の理念と主要な概念
第3回　公衆衛生看護の歴史
第4回　医療経済と保健活動、保健医療福祉システム
第5・6回　公衆衛生看護の対象と活動の場、活動方法
第7回　市町村における保健師活動の実際（DVD視聴）
第8・9回　産業保健における保健師活動の実際（特別講師）
第10・11回　事例で考える公衆衛生看護の課題と展望（高齢者虐待・健康危機管理）
第12・13回　健康格差　あなたの寿命は社会が決める（講談社現代新書2452）の抄読
第14・15回　地域ケアシステム構築のための具体的な方策についてレポート作成

＊　学生の問題意識などにより、内容を一部変更する場合がある。

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

1. 授業は、講義及び討議によって進める。
2. 特別講師は、履修生の問題意識や希望などを確認したうえで決定する。
3. 履修生の問題意識や活動の場における地域ケアシステムの構築に関するテーマを設定して、具体的な方策をレポートにまとめる。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

1. 既習の公衆衛生看護学及び地域保健に関する予習復習を行う（30分程度）。
2. 今日的課題について討議できるよう、新聞やニュースなどでニュースなどで情報を把握しておく（60分程度）。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	授業中の態度や課題への取り組み（30%）及びレポート（70%）により評価する。
成績評価基準	授業中の態度：積極的な発言や意見などにより評価する。 課題：指定されたテーマについて、授業内容をよく理解したうえで、具体的な方策を論述しているか評価する。
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	超高齢社会の今日、地域ケアシステムの構築が緊急の課題となっています。現行の保健・医療・福祉制度を基盤として、臨床看護と地域保健や医療・福祉などとの連携をどう進めていけるのか、そこから始めて、最終的には履修生の活動の場で実践できる具体的な方策を検討していきたいと考えています。
オフィスアワー	研究室番号：　聞光館　16号室 オフィスアワー：　原則として、授業日に対応します。できるだけ、事前にmailなどで連絡してください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

授業内容によっては、PCを用いてグループ討議を行ったり、プレゼンテーションをすることもある。その際には事前に説明する。

科目名	公衆衛生看護学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	堀井　節子	教員名	堀井　節子		
実務家教員					

授業テーマ	公衆衛生看護学領域に関する課題について、学生は自己の問題意識を明らかにするとともに、研究の進め方を習得する。
授業の概要	本科目は演習である。学生は、公衆衛生看護領域に関する課題に対して、文献レビュー、研究計画書の作成、調査等の実施、分析、考察等を行う。 原則として、公衆衛生看護活動に従事している学生を対象とする。
到達目標	1. 自らの研究課題に適切な研究の展開方法を理解する。 2. 本演習の学びを特別研究の研究計画書作成等に活用できる。

◆授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

第1・2回　課題の検討、文献レビュー
第3・4回　課題に関する公衆衛生看護学における当該理論やトピックス等
第5・6回　研究計画書の作成・修正
第7・8回　調査等の実施
第9・10回　データの集計
第11・12・13回　データの分析・結果の考察・修正
第14回　報告書の作成
第15回　まとめ

＊学生の準備状況等により、内容を変更する場合がある。

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

1. 学生は自らの問題意識についてプレゼンテーションを行う。
2. 学生の問題意識をふまえて、公衆衛生看護学における当該理論やトピックスなどについて教授する。
3. 研究のプロセスに沿って検討を行い、研究計画書を作成する。
4. 研究計画書に沿って研究を進め、報告書としてまとめる。

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

1. 授業計画に沿って、原則として90分から180分程度の準備学習（予習）と事後学習（修正・復習）を行う。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【レポート課題等】B:その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	研究計画書の作成（20%）、プレゼンテーション（20%）、実施（30%）、報告書（30%）の内容等により評価する。
成績評価基準	研究計画書の作成：課題に適切な計画であること プレゼンテーション：効果的な内容であること 実施：研究計画どおり実施できたか、柔軟な対応ができたか 報告書：研究計画及び実施内容が適切な反映されているか
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	公衆衛生看護活動は、その時代その時代の健康課題にあわせた活動を展開してきました。しかし、どんなに時代が変わっても地域に根差した活動を一歩一歩進めていくことが基本です。社会格差や健康格差に向き合い、すべてのライフステージの人々の健康を守る活動を、地域に人々との協働により発展させたり、新たな活動につながる方策を考える機会にしたいと思っています。
オフィスアワー	研究室番号：　聞光館　16号室 オフィスアワー：　原則として、授業日に対応します。できるだけ、事前にmailなどで連絡してください。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

授業内容によっては、PCを用いてグループ討議を行ったり、プレゼンテーションをすることもある。その際には事前に説明する。

科目名	女性健康特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	未定	教員名	未定		
実務家教員					

授業テーマ	
授業の概要	
到達目標	
◆授業計画	
〈担当形態〉	

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

光華navi参照

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法			
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	
成績評価基準	
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	
オフィスアワー	

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【2】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【3】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【4】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【6】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【7】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【8】学内販売なし(自由記述)

科目名	女性健康学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	未定	教員名	未定		
実務家教員					
授業テーマ					
授業の概要					
到達目標					
◆授業計画					
〈担当形態〉					
〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載					
光華navi参照					
〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉					
〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉					

◆定期試験等の実施について			
定期試験等の実施方法			
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価	
成績評価方法	
成績評価基準	
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	
オフィスアワー	

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

◆教科書・参考書

※全員購入必須「○」＝教科書、全員購入必須「(空欄)」＝参考書
※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ　★導入希望欄：1/3締切

【1】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【2】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【3】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【4】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【6】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【7】学内販売あり		全員購入必須		電子教科書導入希望		
ISBN		書名・版			著者名	
出版社				備考		

【8】学内販売なし(自由記述)

科目名	在宅看護特論				
開講年度/学期	2022年度　前期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	窪内　敏子	教員名	窪内　敏子		
実務家教員					

授業テーマ	在宅看護を取り巻く現状と課題を理解し、これからの在宅看護のあり方を検討する。
授業の概要	地域包括ケアシステムの推進が注目されている中、今後、ますます在宅看護は期待される分野である。 本科目は、研究者として在宅看護を取り巻く現状を踏まえ、在宅看護はどうあるべきなのか専門職者の視点から考察しシステムを創造していく。 授業は、包括的な視点で自己の考えをまとめ、プレゼンテーションの内容を検討しながら進めていく。
到達目標	1. 在宅看護の現状を包括的に理解することができる 2. 在宅サービスを展開する多職種の中で、在宅看護の役割について考察することができる 3. 在宅看護に関する課題を検討することで、その課題を解決するための方策や資源開発の提案ができる

♦授業計画

〈担当形態〉　単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

授業の形態は授業効果を考慮し、対面やオンラインなど臨機応変に進めていく
1. オリエンテーション　授業の進め方の説明
2. ～6. 在宅看護の現状と課題
　在宅看護の対象者と家族の現状と課題
　※プレゼンテーションとディスカッション
7. ～11. 退院連携　多職種連携
　※プレゼンテーションとディスカッション
11. ～14. 地域包括ケアシステム　コミュニティとしての災害看護
　※プレゼンテーションとディスカッション
15. 授業のまとめ

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

各テーマに関する自己学習内容をプレゼンテーションし、それに沿ってディスカッションを行う。必要時、講義を組み合わせて授業を進める。
授業内で文献が必要になった場合は随時紹介する

〈授業時間外学修(予習・復習等)について〉

予習
授業計画のテーマから、関連文献のレビューを行い先行文献の考察などを踏まえつつ自己の意見をまとめプレゼンテーションに臨む

復習
自己の課題解決や、研究活動に応用活用する

♦定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

♦成績評価

成績評価方法	1. 授業中に提示する資料の内容(40%) 2. プレゼンテーションの方法(30%) 3. ディスカッションの内容(20%) 4. 授業の取り組み状況(10%) 1. ～4. により100%とします
成績評価基準	1. 授業中に提示する資料の内容 資料の内容が参考文献を活用し熟考されているか。参考・引用文献の表記がされているか。文献レビューにおいてクリティークを含めた意見があるか。新しい知見があるかなどを重視する 2. プレゼンテーションの方法 参加者が聞きやすく理解しやすい工夫がされているか 3. ディスカッションの内容¥n　話し合うテーマに沿って積極的に自分の意見を述べているか。また、他者の意見を聞き自分の意見の参考にできているかなど、話し合う内容が建設的かどうか 4. 授業の取り組み状況 授業に対する姿勢を総合的に評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	在宅で療養する対象者の＜その人らしい＞生活とはどのようなことなのかについて、自分なりの考えを深めることが今後の研究につながるのではないかと思います。そのために文献レビューを行い、在宅看護を取り巻く現状を知り、包括的にまた、独創的な視点で内容を検討し、これからの在宅看護を創造できるような授業が展開されると楽しいのではないかと思います。
オフィスアワー	事前にメールなどで連絡をください。随時、対応します。

♦授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

対面授業の場合、必要なPC、タブレットなどは大学で用意しますが、オンラインでの授業の場合は、各自で用意してください。

科目名	在宅看護学演習				
開講年度/学期	2022年度　後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1
代表教員	窪内　敏子	教員名	窪内　敏子		
実務家教員					

授業テーマ	地域・在宅で生活する療養者および家族などの現状の分析や、既存する社会における地域・在宅のケアシステム、社会保障制度などの検討を行い自己の研究内容を明確化する。
授業の概要	本科目は、在宅看護に関する先行文献のレビューを通して、自己の研究テーマや研究の範囲、方向性、課題などについて検討する。 在宅看護の理論や疾患、障害、加齢による機能低下などをもちながら在宅生活を営む人の看護の特性を学び、総合的な広い視点で在宅看護について考え、論点をまとめる演習を行う。
到達目標	1. 在宅看護を取り巻く現状を分析し考察することができる 2. 在宅看護に関する文献のレビューを通して、研究テーマなどを明確にできる

◆授業計画

<担当形態>	単独

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

授業の形態は授業効果を考慮し、対面やオンラインなど臨機応変に進めていく

1. オリエンテーション
2. 3. 在宅看護を取り巻く現状の検討
4. 5. 6. 先行研究文献レビュー
7. 8. 9. 在宅看護を取り巻く現状の分析
10. 11. 12. プレゼンテーション
13. 14. 研究テーマの明確化
15. 研究計画の準備　まとめ

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

自己の研究テーマを明確にするための先行文献検討、ディスカッション、プレゼンテーションを行う
授業内で文献が必要になった場合は随時紹介する

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

在宅看護を取り巻く現状を論理的に分析するための文献検討など、自己の研究に関する授業時間外の学修を行う
ディスカッションやプレゼンテーションの事前準備を行う

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B:その他の試験等(追試験対象外)

※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	1. 授業中に提示する資料の内容(40%) 2. プレゼンテーションの方法(30%) 3. ディスカッションの内容(20%) 4. 授業の取り組み状況(10%) 1. ～4. により100%とします
成績評価基準	1. 授業中に提示する資料の内容 資料の内容が参考文献を活用し熟考されているか。参考・引用文献の表記がされているか。文献レビューにおいてクリティークを含めた意見があるか。新しい知見があるかなどを重視する 2. プレゼンテーションの方法 参加者が聞きやすく理解しやすい工夫がされているか 3. ディスカッションの内容 話し合うテーマに沿って積極的に自分の意見を述べているか。また、他者の意見を聞き自分の意見の参考にできているかなど、話し合う内容が建設的かどうか 4. 授業の取り組み状況 授業に対する姿勢を総合的に評価する
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	先行研究文献検討から丁寧に研究テーマを論理的に明確化し、研究計画の準備につなげてほしいと思います。
オフィスアワー	事前にメールなどで連絡をください。随時、対応します。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

対面授業の場合は、大学でPCやタブレットを用意することができます。
受講生の状況によって臨機応変に対応しますので、場合によっては自分で用意していただくこともあります。

科目名	看護学特別研究				
開講年度/学期	2022年度　前期・後期	単位※入学年度により異なる場合あり	8	配当年次※入学年度により異なる場合あり	2
代表教員	清水　房枝	教員名	清水　房枝、徳永　基与子、呉　小玉、中平みわ		
実務家教員					

授業テーマ	設定した課題について、計画的に研究を遂行し修士論文を作成し審査を受ける。
授業の概要	院生其々を担当する、主指導教員・副指導教員により、年間を通して当該分野の専門的な知識と研究方法・技術等を適用し実証的・開発的な研究の実践、指導を受け、さらに的確で精緻な修士論文の作成、審査に至る指導を強化し修士論文提出を行う。
到達目標	1. 専攻分野に関する研究が計画的に遂行できる。 2. 研究結果をまとめ修士論文を作成し、審査を受けることができる

◆授業計画

<担当形態>	複数

<授業計画及び授業内容>※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

原則2年生：院生1名に主指導教員1名. 副指導教員1名で指導するが主として主指導教員が担当する

〈授業計画及び授業内容の標準・・・各院生に主指導教員が詳細に計画を行い実施する〉
・研究計画発表・倫理審査終了後以下の計画を基準として、主指導教員が、各院生との調整を行い計画を具現化する。
第1～4回 （4月） ・研究活動（データ収集：調査、実験、面接など）
第5～8回 （5月） ・研究活動の継続（データ収集：調査、実験、面接など・データ集計・分析）
第9～12回 （6月） ・研究継続（データ収集、データ集計、分析など）
第13～15回 （7月） ・研究活動の継続（・データ集計 ・分析結果、考察） ・論文構成、作成の方法
第16～19回 （9月） ・研究継続（データ分析、考察）、論文作成準備
第20～26回 （10月11月）・研究継続（データ分析、考察）、論文作成準備/ 論文執筆
第27～29回 （12月）・論文執筆
第30回 （1月） ・論文執筆 ・ 論文提出 ・個人面接審査
（2月） ・論文審査申請 ・修士論文卒業発表

以上は、おおよその計画であり、研究方法などにより振興に関する変更や差異がある。

<授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック>

学生の研究活動、分析、論文作成に対して、主指導教員および副指導教員による個別指導を基本とする

<授業時間外学修(予習・復習等)について>

データ収集や分析、考察、論文執筆のために、多くの授業時間外学習を必要とする

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	【実施しない】B：その他の試験等（追試験対象外）		
※上記で『A:16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください			
試験時間(分)		試験持込み内容	

◆成績評価

成績評価方法	修士論文審査　100% （審査基準は履修の手引きに提示）
成績評価基準	修士論文審査基準による（審査基準は履修の手引きに提示）
担当者からのメッセージ(履修上の留意点等)	1年目に学習した多様な知識や理論、思考方法を有効に活用し、積極的な研究活動を進めて論文にまとめてください。 研究の過程、論文作成、審査に際し、研究課題、研究枠組みの妥当性、データや分析の正確性、信頼性、研究の独創性、結果の有効性、看護学発展への貢献などを指導・評価の視点とし、可能な限りのサポートを致します。 研究方法論・統計学・研究倫理等、授業で活用した教科書や参考書の他に、研究科図書費で購入した、研究に関する参考本を院生室に置いています。また、図書館の参考者など活用してください。
オフィスアワー	主指導による担当教員により適宜実施

◆授業での使用機器・ソフトウェア等(PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

パソコン

Ⅵ　教　員

学　　長	高　見　　茂
心理学研究科長	長　田　陽　一
看護学研究科長	清　水　房　枝

心理学研究科　臨床心理学専攻

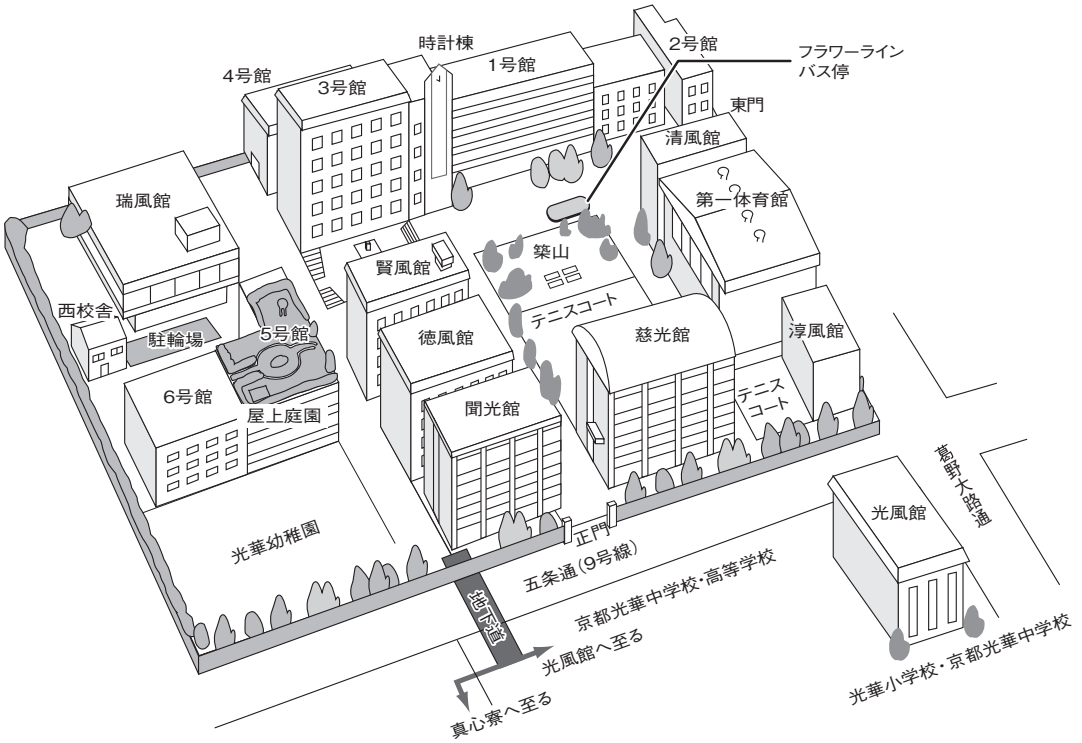
今　西　　徹
大　谷　多加志
川　西　千　弘
酒　井　浩　二（兼担）
竹　西　正　典
谷　本　拓　郎
土　居　淳　子（兼担）
徳　田　仁　子
礪　波　朋　子
長　田　陽　一
鳴　岩　伸　生
浜　内　彩　乃（兼担）

看護学研究科　看護学専攻

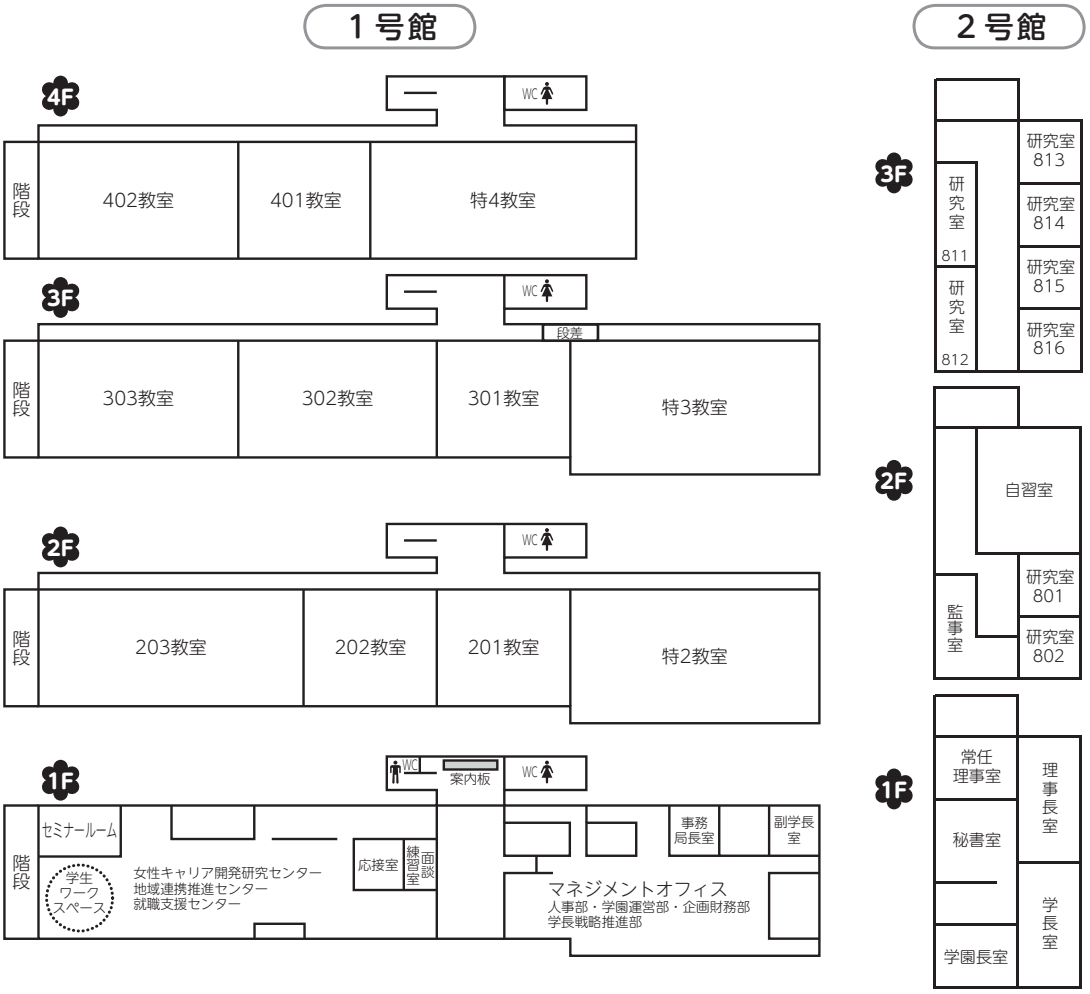
荒　井　春　生
呉　　小　　玉
小　澤　千　晶（兼担）
茎　津　智　子
窪　内　敏　子
貞　岡　美　伸
清　水　房　枝
土　居　淳　子（兼担）
徳　永　基与子
中　平　み　わ
番　所　道　代
細　川　昌　則
堀　井　節　子
守　口　絵　里
脇　田　哲　志（兼担）

Ⅶ　施　設
校舎・教室等建物配置

校舎建物配置図

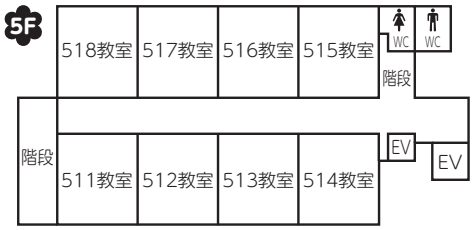


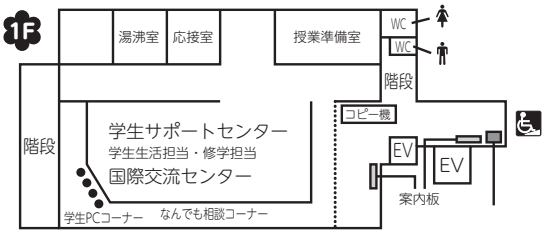
教室等配置図


1号館
2号館
4F
階段
402教室
401教室
特4教室
WC
3F
段差
303教室
302教室
301教室
特3教室
2F
203教室
202教室
201教室
特2教室
1F
案内板
セミナールーム
学生ワークスペース
女性キャリア開発研究センター
地域連携推進センター
就職支援センター
応接室
練習室
面談室
事務局長室
副学長室
マネジメントオフィス
人事部・学園運営部・企画財務部
学長戦略推進部
研究室811
研究室812
研究室813
研究室814
研究室815
研究室816
自習室
監事室
研究室801
研究室802
常任理事室
秘書室
学園長室
理事長室
学長室

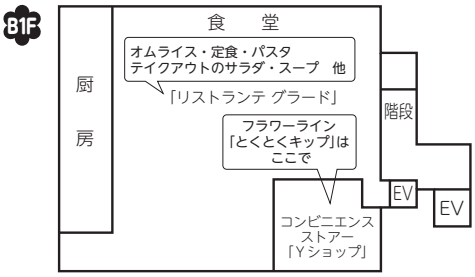
3号館

2F
メディア
ラボ
WC
階段
階段
211教室
212教室
213教室
EV
EV


5F
518教室
517教室
516教室
515教室
WC
WC
階段
階段
511教室
512教室
513教室
514教室
EV
EV


1F
湯沸室
応接室
授業準備室
WC
WC
階段
階段
学生サポートセンター
学生生活担当・修学担当
国際交流センター
コピー機
EV
EV
案内板
学生PCコーナー
なんでも相談コーナー

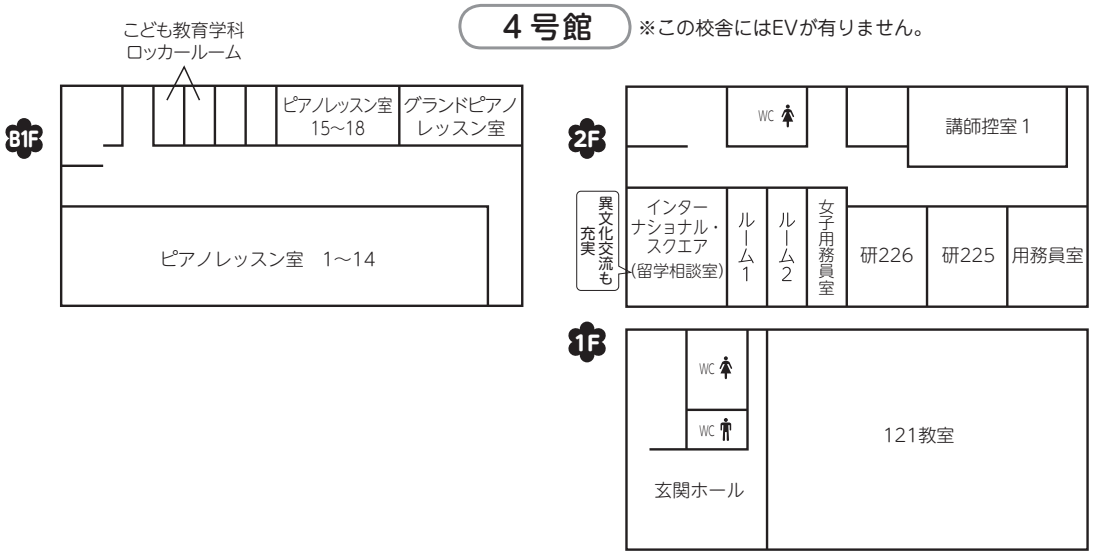
4F
415教室
414教室
WC
階段
階段
411教室
412教室
413教室
EV
EV


B1F
食　堂
厨
房
オムライス・定食・パスタ
テイクアウトのサラダ・スープ　他
「リストランテ グラード」
フラワーライン
「とくとくキップ」は
ここで
階段
EV
EV
コンビニエンス
ストアー
「Yショップ」

3F
314教室
313教室
WC
階段
階段
315
演習室
311教室
312教室
EV
EV

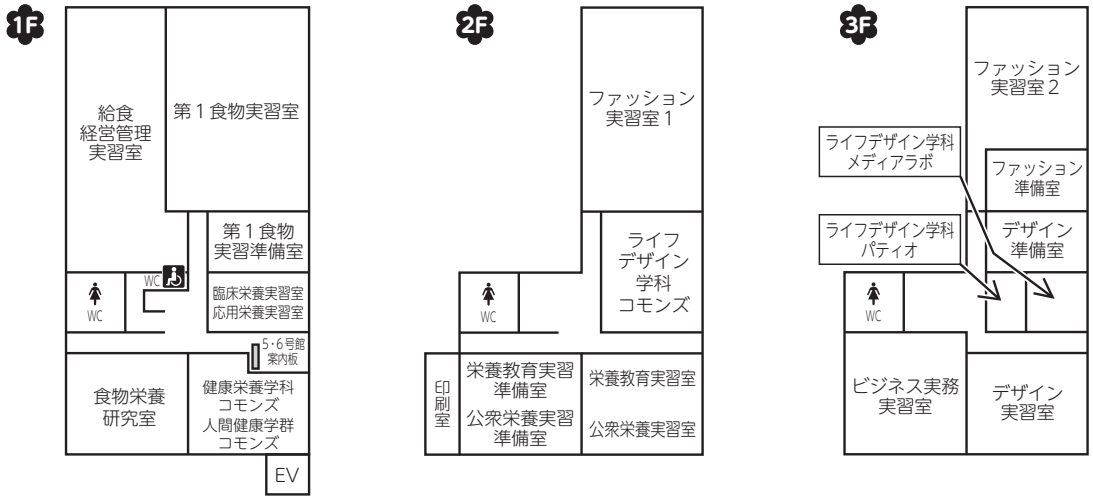
4号館

※この校舎にはEVが有りません。



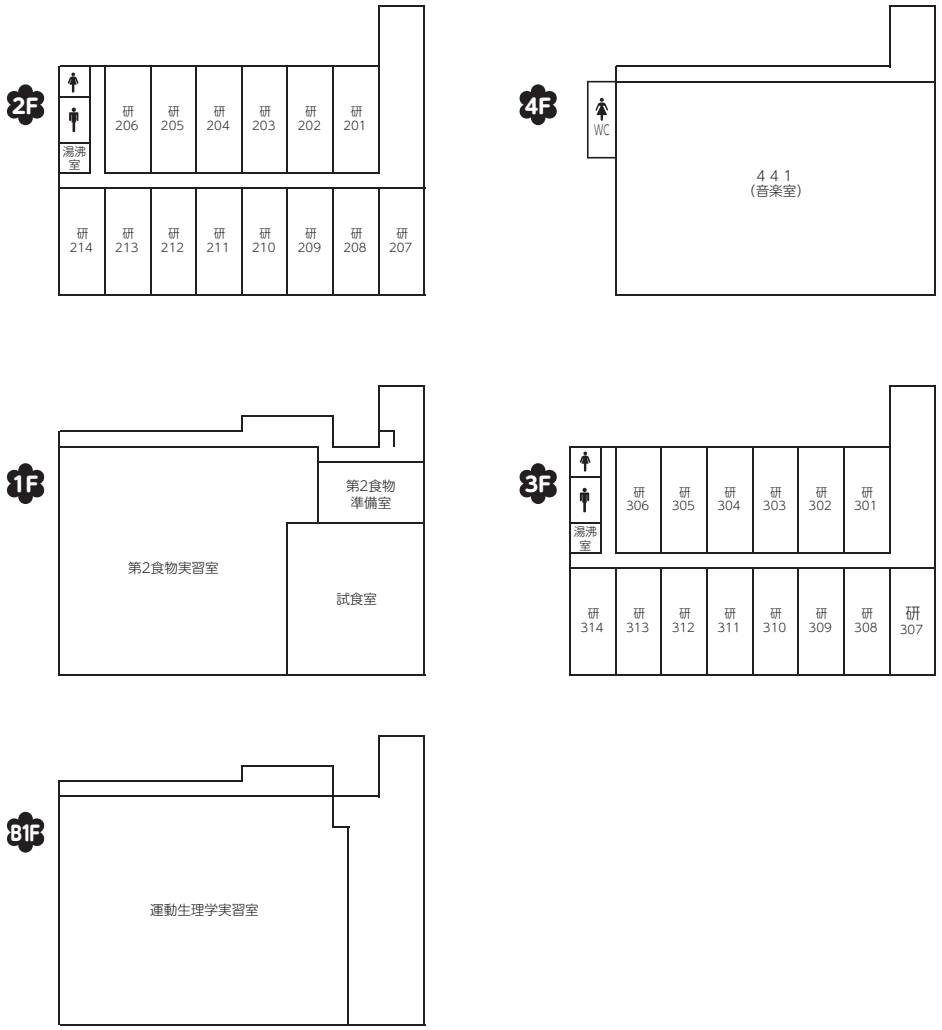
5号館

（屋上庭園）「ＨＩＫＡＲＵ　ＣＯＵＲＴ」

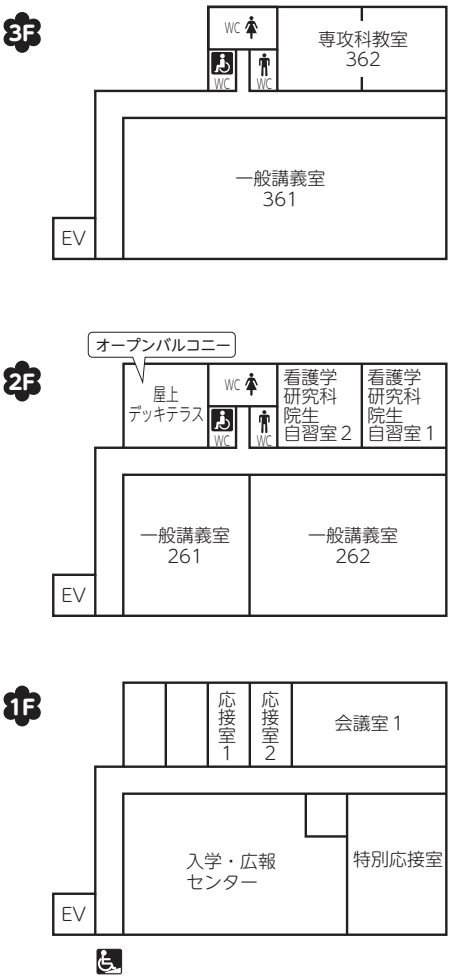


6号館

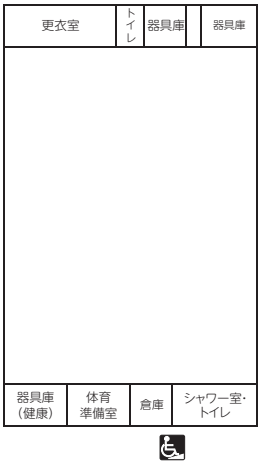
※この校舎にはスロープが有りません。
また、B1F、4FへはEVでは行けません。



清風館（しょうふうかん）



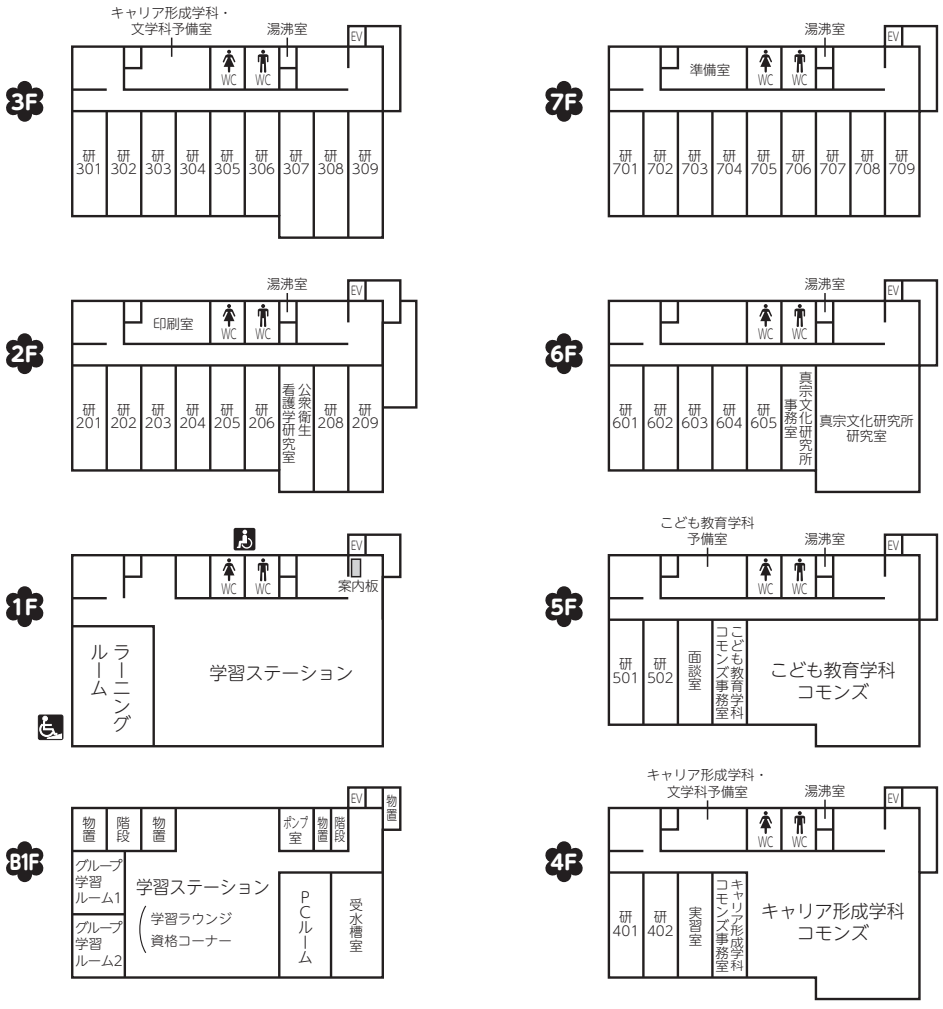
体育館



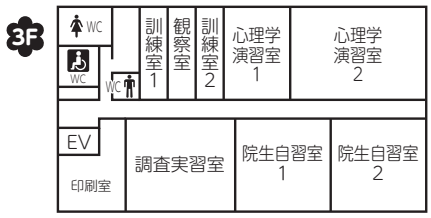
徳風館（とくふうかん）

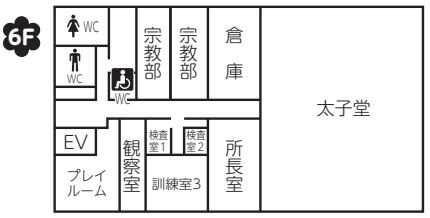
2F
WC
EV
EV
グループ閲覧室
図書館 閲覧室
6F
WC
WC
EV
EV
小講堂
映写室
1F
AV ルーム
WC
WC
EV
EV
案内板
図書館 閲覧室
図書館 事務室
電算室
5F
情報処理準備室
WC
WC
EV
EV
第5情報処理実習室
第2情報処理実習室
第3情報処理実習室
第4情報処理実習室
B1F
西倉庫
製本整理室・F書庫
案内板
C 書庫
B 書庫
A 書庫
4F
会議室
WC
WC
EV
PC コーナー
EV
多目的ルーム
情報システム部
教職・保育職支援センター
第1情報処理実習室
B2F
電気室
案内板
機械室
E 書庫
D 書庫
3F
WC
EV
EV
グループ閲覧室
図書館 閲覧室

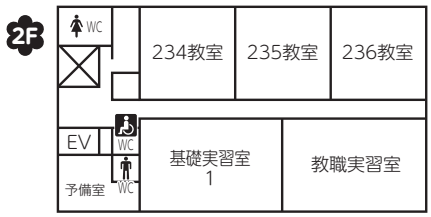
賢風館（げんぷうかん）

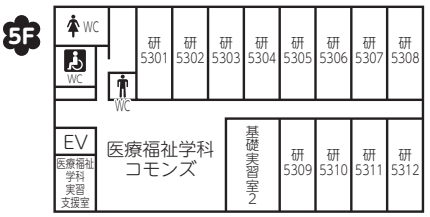

3F
キャリア形成学科・
文学科予備室
湯沸室
EV
WC
WC
研301
研302
研303
研304
研305
研306
研307
研308
研309
7F
湯沸室
EV
準備室
WC
WC
研701
研702
研703
研704
研705
研706
研707
研708
研709
2F
湯沸室
EV
印刷室
WC
WC
研201
研202
研203
研204
研205
研206
公衆衛生
看護学研究室
研208
研209
6F
湯沸室
EV
WC
WC
研601
研602
研603
研604
研605
真宗文化研究所
事務室
真宗文化研究所
研究室
1F
EV
WC
WC
案内板
ラーニング
ルーム
学習ステーション
5F
こども教育学科
予備室
湯沸室
EV
WC
WC
研501
研502
面談室
こども教育学科
コモンズ事務室
こども教育学科
コモンズ
B1F
物置
階段
物置
EV
物置
ポンプ室
物置
階段
グループ
学習
ルーム1
グループ
学習
ルーム2
学習ステーション
学習ラウンジ
資格コーナー
PCルーム
受水槽室
4F
キャリア形成学科・
文学科予備室
湯沸室
EV
WC
WC
研401
研402
実習室
キャリア形成学科
コモンズ事務室
キャリア形成学科
コモンズ

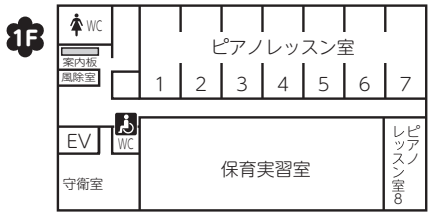
慈光館（じこうかん）

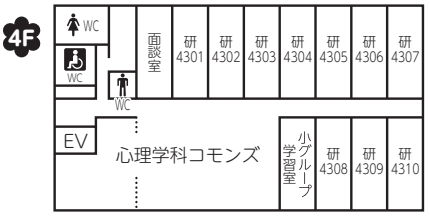

3F
WC
WC
WC
訓練室1
観察室
訓練室2
心理学演習室1
心理学演習室2
EV
印刷室
調査実習室
院生自習室1
院生自習室2

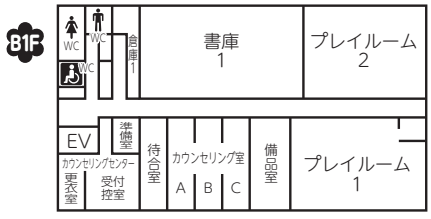

6F
WC
WC
WC
宗教部
宗教部
倉庫
太子堂
EV
プレイルーム
観察室
検査室1
検査室2
訓練室3
所長室


2F
WC
234教室
235教室
236教室
EV
予備室
WC
WC
基礎実習室1
教職実習室


5F
WC
WC
WC
研5301
研5302
研5303
研5304
研5305
研5306
研5307
研5308
EV
医療福祉学科実習支援室
医療福祉学科コモンズ
基礎実習室2
研5309
研5310
研5311
研5312

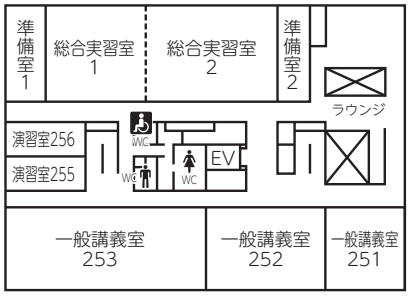

1F
WC
案内板
風除室
ピアノレッスン室
1
2
3
4
5
6
7
EV
守衛室
WC
保育実習室
ピアノレッスン室8


4F
WC
WC
WC
面談室
研4301
研4302
研4303
研4304
研4305
研4306
研4307
EV
心理学科コモンズ
小グループ学習室
研4308
研4309
研4310

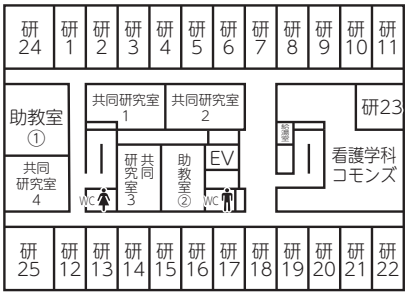

B1F
WC
WC
WC
倉庫1
書庫1
プレイルーム2
EV
カウンセリングセンター更衣室
準備室
受付控室
待合室
カウンセリング室
A
B
C
備品室
プレイルーム1

聞光館（もんこうかん）

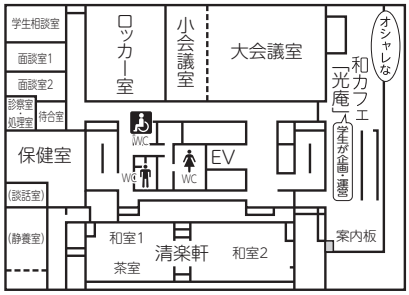
2F



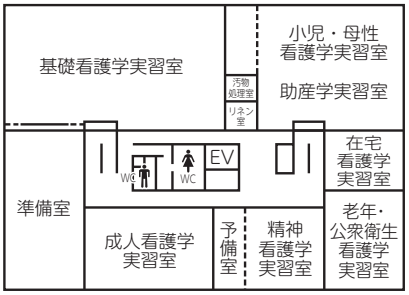
5F



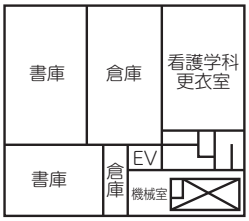
1F



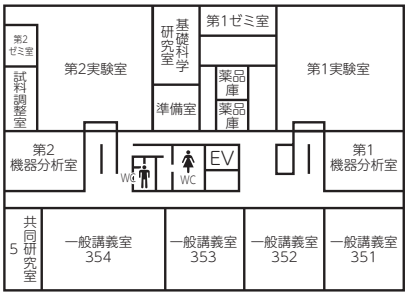
4F



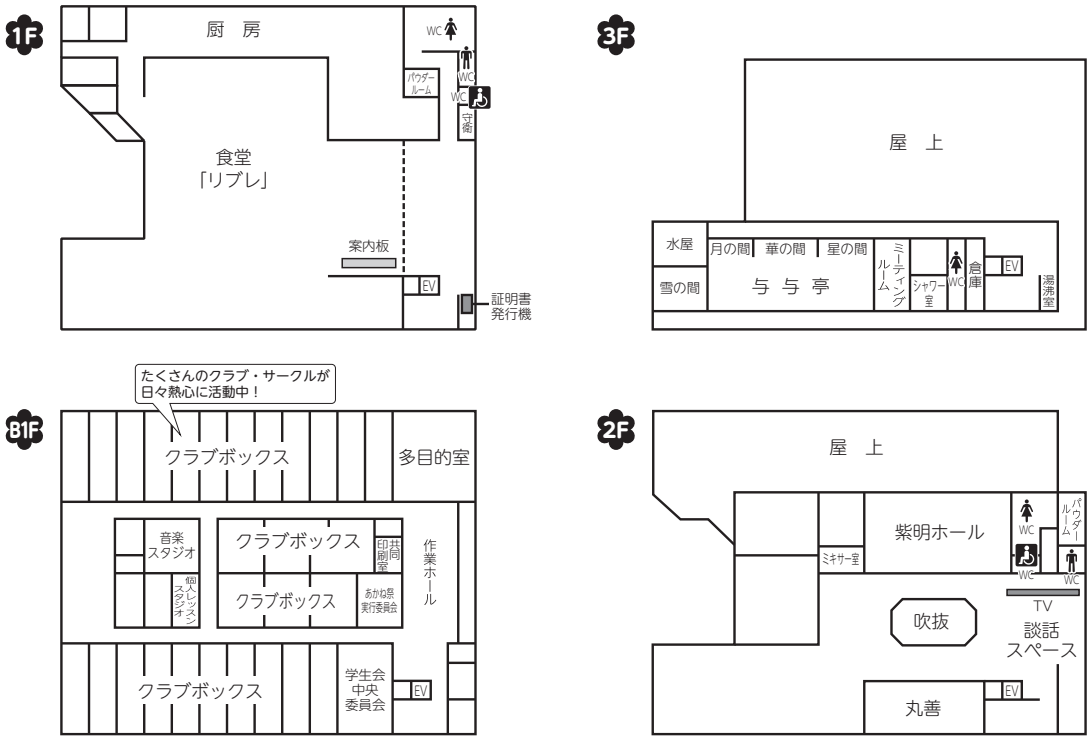
B1F



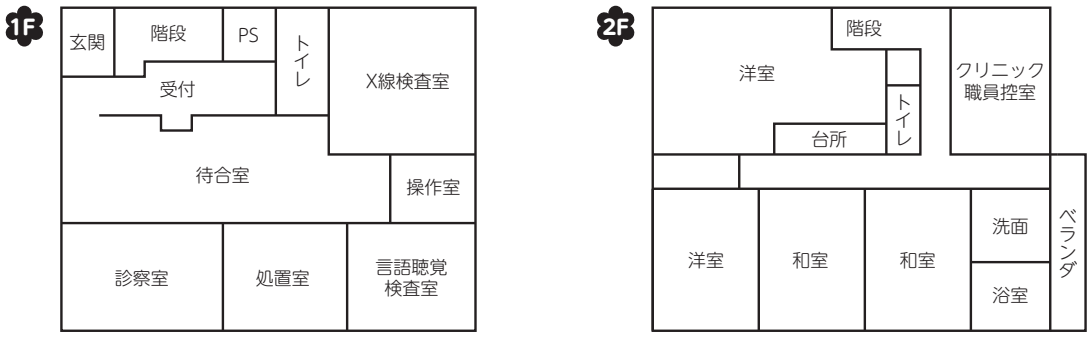
3F



瑞風館（ずいふうかん）



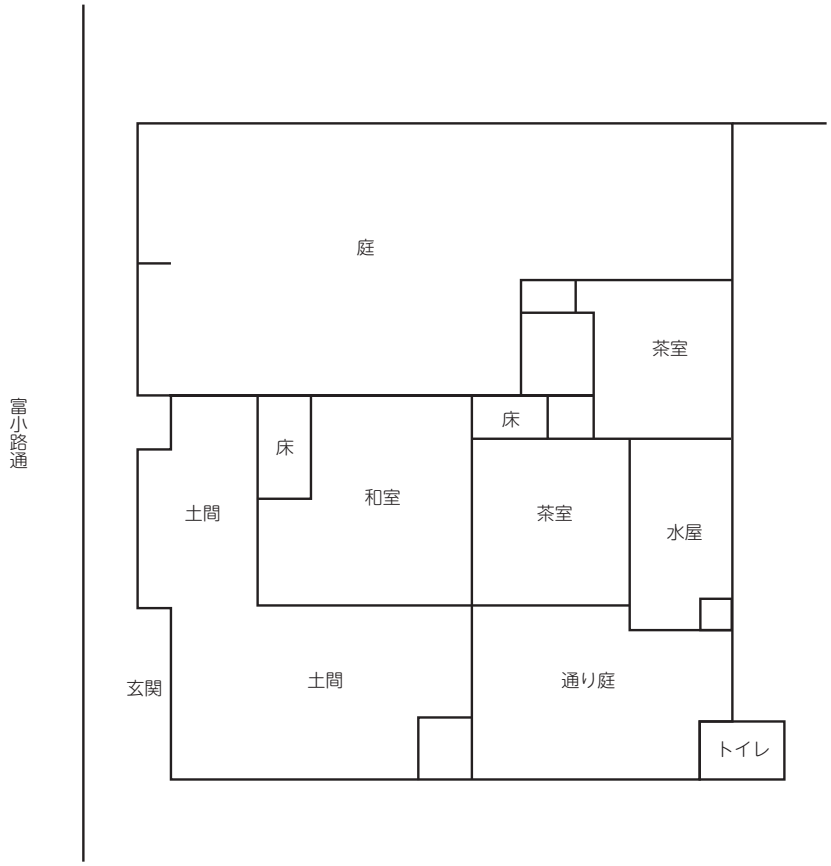
西校舎（にしこうしゃ）



1F：光華もの忘れ・フレイルクリニック

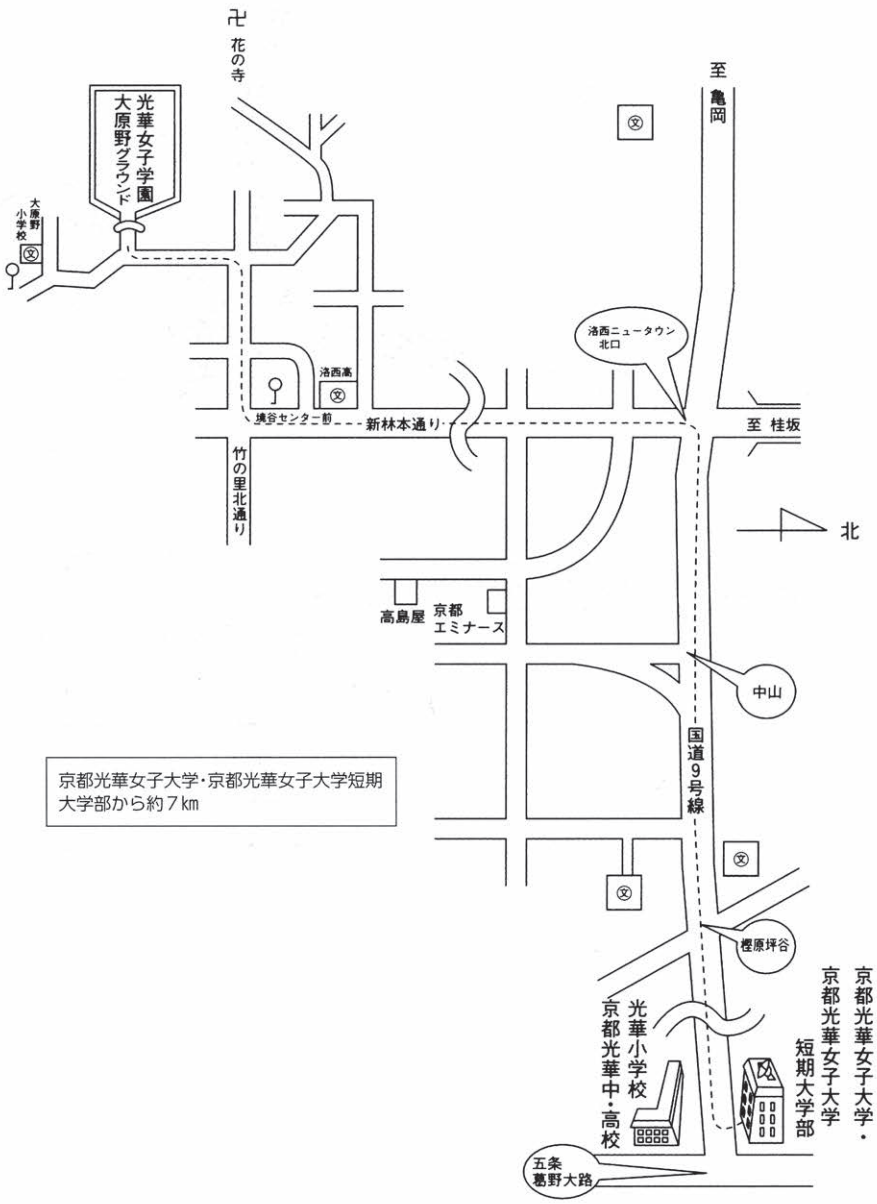
光華女子学園　富小路まちやキャンパス

京都市中京区富小路通御池下る松下町 136 番地 1

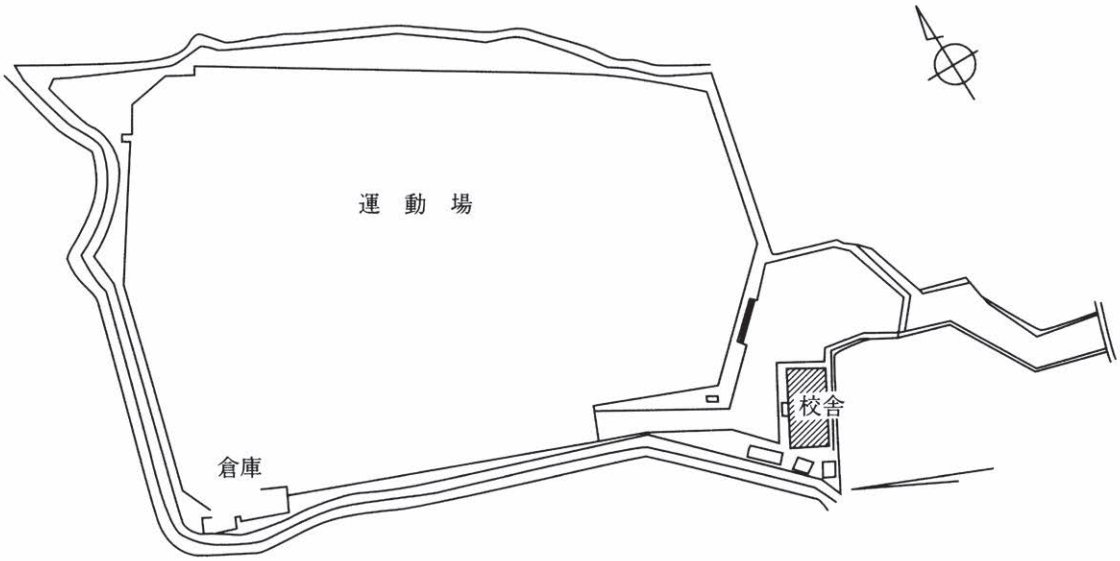


光華女子学園　大原野グラウンド

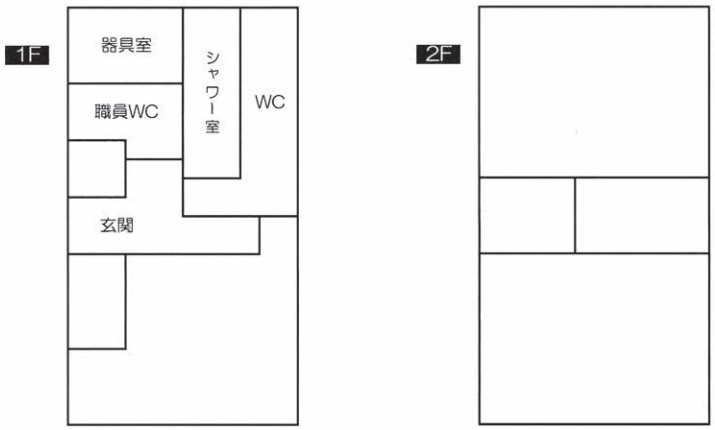
京都市西京区大原野南春日町134番地



大原野グラウンド施設配置図



大原野グラウンド校舎



授 業 時 間 割 表

時間 / 曜日		第 1 講時 (8：50〜10：20)	第 2 講時 (10：30〜12：00)	第 3 講時 (12：50〜14：20)	第 4 講時 (14：30〜16：00)	第 5 講時 (16：10〜17：40)
月	授業科目					
	教室					
火	授業科目					
	教室					
水	授業科目					
	教室					
木	授業科目					
	教室					
金	授業科目					
	教室					
土	授業科目					
	教室					

MEMO

京都光華女子大学大学院

履修のてびき(2022年度版)

2022年４月１日　発行

〒615−0882
京都市右京区西京極葛野町38

連絡先
【事務局】
学生サポートセンター
修　学　担　当　075-325-5308
学生生活担当　075-325-5321